

3-2. イベント時等のアンケート調査

(1) 調査目的

沖縄アリーナやタピック県総合ひやごんスタジアムでの試合やイベント開催時等に、来訪客に対し満足度やニーズ、観光動向（観戦前後に市内を周遊したかどうか等）、消費金額等を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

琉球ゴールデンキングス、FC 琉球等の市内プロスポーツ団体及び施設運営者の協力のもと、アンケートページへのQRコードを掲載したA4サイズのチラシの配布等により調査を行った。

(2) 調査概要

調査概要を以下に示す。

【イベント時等のアンケート調査の実施概要】

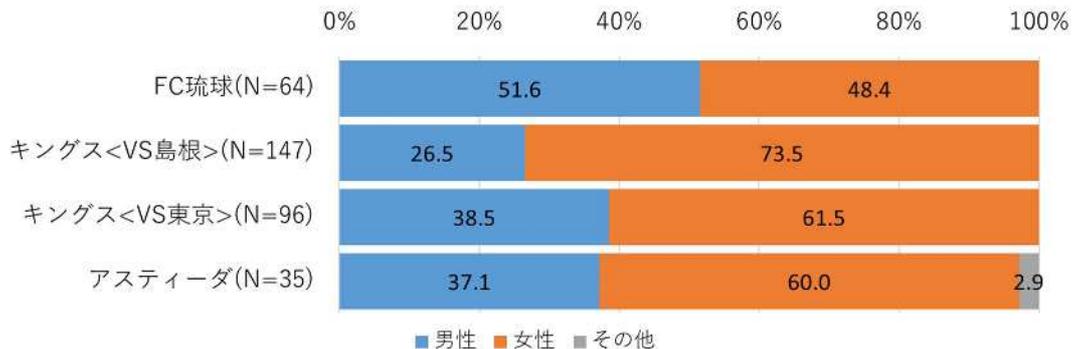
調査対象	・スポーツイベント時にアリーナ等の施設に来場した県内外の来訪者（海外を除く）
調査方法	・プロスポーツ団体及び施設運営者の協力のもとイベント時の来訪者に対しアンケート用チラシを配布。 ・FC 琉球、琉球ゴールデンキングス等について計3イベントにおいてアンケートを実施。
調査日	■FC 琉球ホーム戦：会場（タピック県総合ひやごんスタジアム） 10/23（日）琉球 VS 大分 ■琉球ゴールデンキングスホーム戦：会場（沖縄アリーナ） 11/26（土）・27（日）琉球 VS 島根 12/31（土）・1/1（日）琉球 VS アルバルク東京 ■その他イベント：会場（沖縄アリーナ） 2/12（日）アスティーダフェスティバル
調査箇所	・沖縄アリーナ、沖縄県総合運動公園
調査項目	①基本属性：居住地／性別・年齢・職業／来訪経験／世帯年収 観戦した試合・観賞したイベント ②来訪目的・観光行動：行程／目的／情報源／訪問箇所／移動手段 ③消費行動：市内での消費額（ツアー・宿泊・交通・食事等） ※観戦・観賞チケット代を除く ④沖縄市の評価：満足度／再訪意向 ⑤その他：行動変容のポイント（何があれば観戦・観賞前後に市内に来訪・周遊してもらえるか等）等
回収数	計：385票 【内訳】 ・10/23（日）琉球 VS 大分 【回収数】69票 ・11/26（土）・27（日）琉球 VS 島根 【回収数】172票 ・12/31（土）・1/1（日）琉球 VS アルバルク東京 【回収数】106票 ・2/12（日）アスティーダフェスティバル 【回収数】38票

(3) 調査結果の概要

1) 回答者の基本情報

①性別

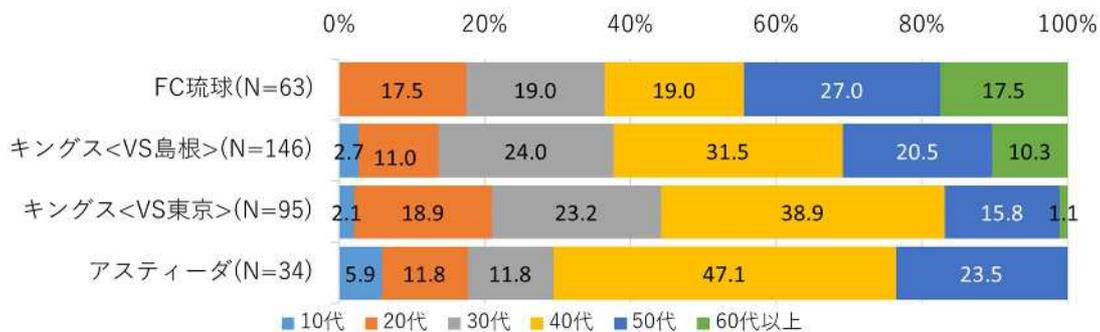
OFC 琉球では、「男性」51.6%、「女性」48.4%で男性の割合が高い。
 ○キングス<VS 島根>では、「男性」26.5%、「女性」73.5%、キングス<VS 東京>では、「男性」38.5%、「女性」61.5%で女性の割合が高い。
 ○アスティーダでは、「男性」37.1%、「女性」60.0%で女性の割合が高い。



【イベント別の性別の割合】

②年代

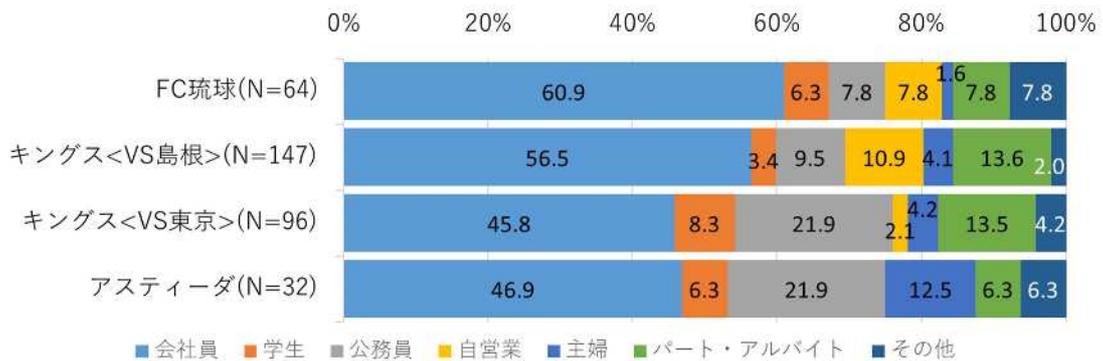
OFC 琉球では、「50代」が27.0%と最も多く、次いで「30代」「40代」が19.0%となっている。
 ○キングス<VS 島根>では、「40代」が31.5%と最も多く、次いで「30代」が24.0%となっている。キングス<VS 東京>では、「40代」が38.9%と最も多く、次いで「30代」が23.2%となっている。
 ○アスティーダでは、「40代」が47.1%と最も多く、次いで「50代」が23.5%となっている。



【イベント別の年代の割合】

③職業

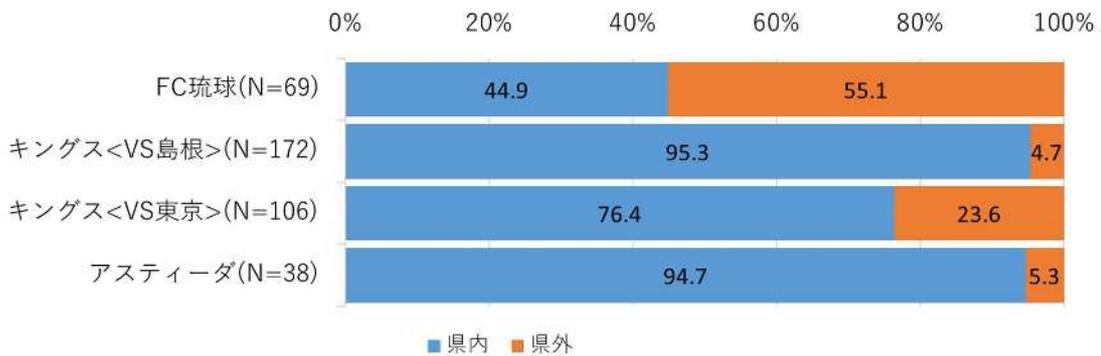
OFC 琉球では、「会社員」が60.9%と最も多くなっている。
 ○キングス<VS 島根>では、「会社員」が56.5%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が13.6%となっている。キングス<VS 東京>では、「会社員」が45.8%と最も多く、次いで「公務員」が21.9%となっている。
 ○アスティーダでは、「会社員」が46.9%と最も多く、次いで「公務員」が21.9%となっている。



【イベント別の職業の割合】

④居住地（県内外）

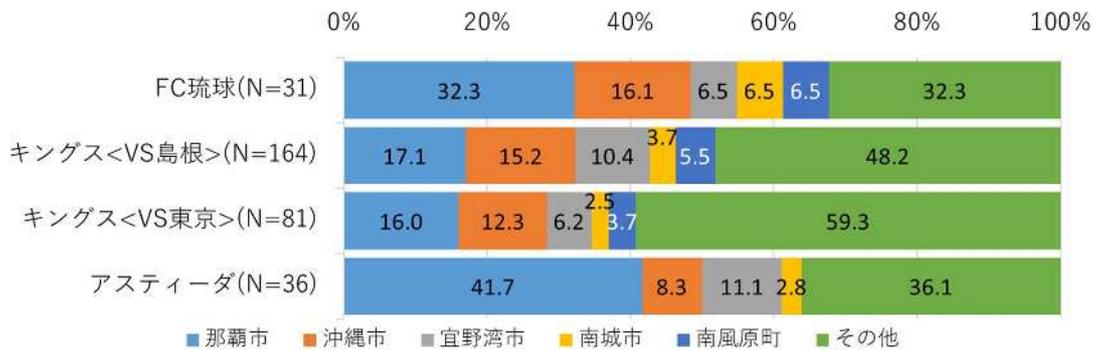
OFC 琉球では、「県外」の割合が高いが、それ以外のイベントでは「県内」の割合が高い。
 ○キングス<VS 東京>では、キングス<VS 島根>よりも「県外」の割合が高い。



【イベント別の県内外の割合】

⑤居住している市町村（県内のみ）

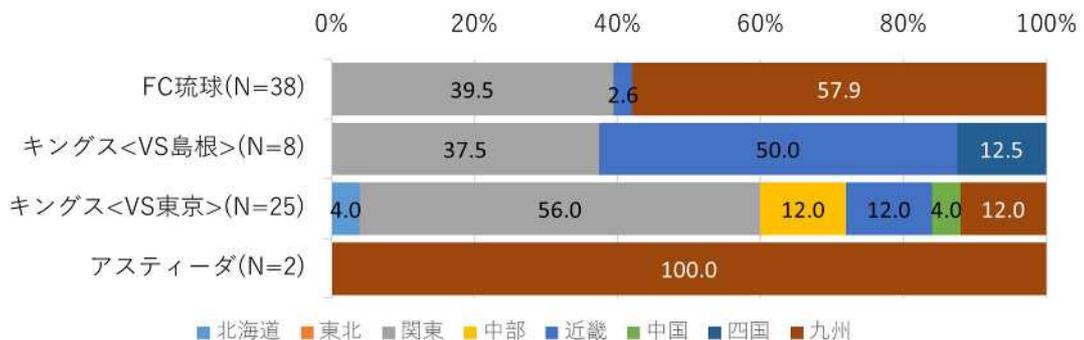
OFC 琉球では、「那覇市」が 32.3%と最も多く、次いで「沖縄市」が 16.1%となっている。
 ○キングス<VS 島根>では、「那覇市」が 17.1%と最も多く、次いで「沖縄市」が 15.2%。
 キングス<VS 東京>では、「那覇市」が 16.0%と最も多く、次いで「沖縄市」が 12.3%となっている。
 ○アスティーダでは、「那覇市」が 41.7%と最も多く、次いで「宜野湾市」が 11.1%となっている。



【イベント別の市町村別（居住地）の割合】

⑥居住している都道府県（県外のみ）

OFC 琉球では、「九州」が 57.9%と最も多く、次いで「関東」が 39.5%となっている。
 ○キングス<VS 島根>では、「近畿」が 50.0%と最も多く、キングス<VS 東京>では、「関東」が 56.0%と最も多くなっている。
 ○アスティーダでは、「九州」が 100%となっている。



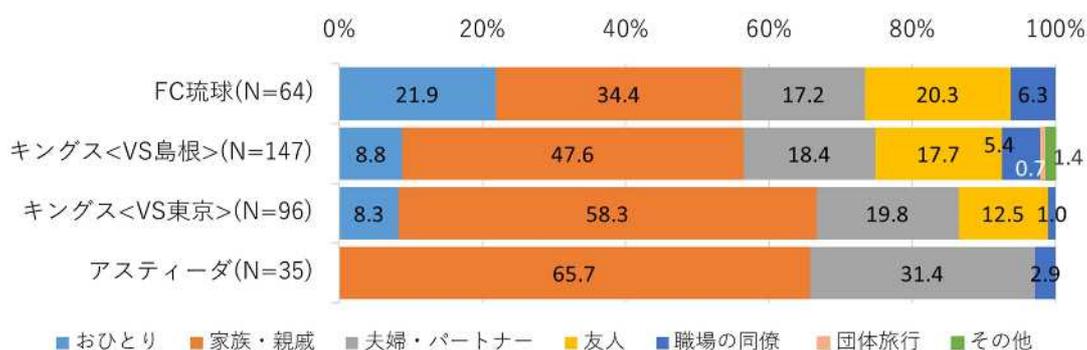
【イベント別の都道府県（居住地）の割合】

⑦同行者の種別

OFC 琉球では、「家族・親戚」が34.4%と最も多く、次いで「おひとり」が21.9%となっている。

○キングス<VS 島根>では、「家族・親戚」が47.6%と最も多く、次いで「夫婦・パートナー」が18.4%。キングス<VS 東京>では、「家族・親戚」が58.3%と最も多く、次いで「夫婦・パートナー」が19.8%となっている。

○アスティーダでは、「家族・親戚」が65.7%と最も多く、次いで「夫婦・パートナー」が31.4%となっている。



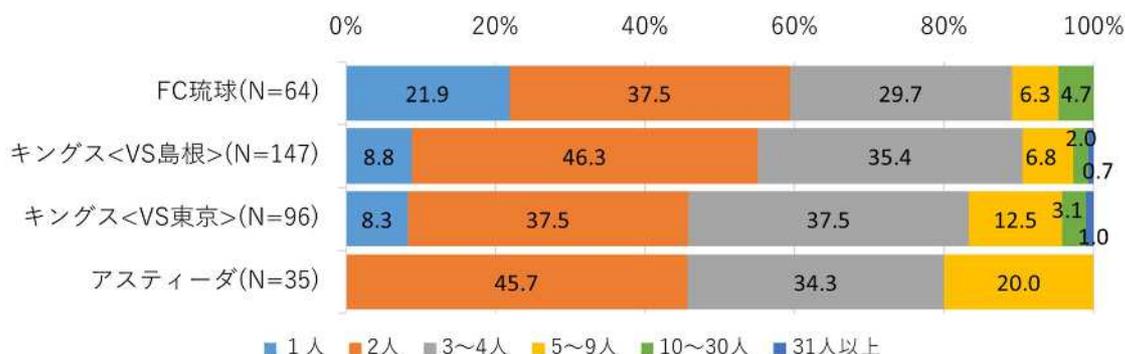
【イベント別の同行者別の割合】

⑧同行者数（自身も含む）

OFC 琉球では、「2人」が37.5%と最も多く、次いで「3~4人」が29.7%となっている。

○キングス<VS 島根>では、「2人」が46.3%と最も多く、次いで「3~4人」が35.4%、キングス<VS 東京>では、「2人」「3~4人」が37.5%と最も多くなっている。

○アスティーダでは、「2人」が45.7%と最も多く、次いで「3~4人」が34.3%となっている。



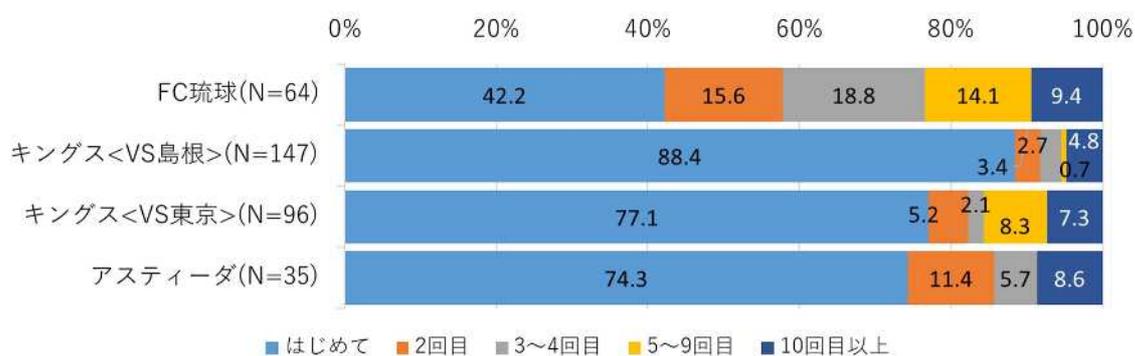
【イベント別の同行者数の割合】

⑨ 沖縄市への来訪回数

OFC 琉球では、「はじめて」が42.2%と最も多く、次いで「3～4回」が18.8%となっている。

○キングス<VS 島根>では、「はじめて」が88.4%と最も多く、次いで「2回目」が3.4%となっている。キングス<VS 東京>では、「はじめて」が77.1%と最も多く、次いで「5～9回目」が8.3%となっている。

○アスティーダでは、「はじめて」が74.3%と最も多く、次いで「2回目」が11.4%となっている。



【イベント別の沖縄市への来訪回数の割合】

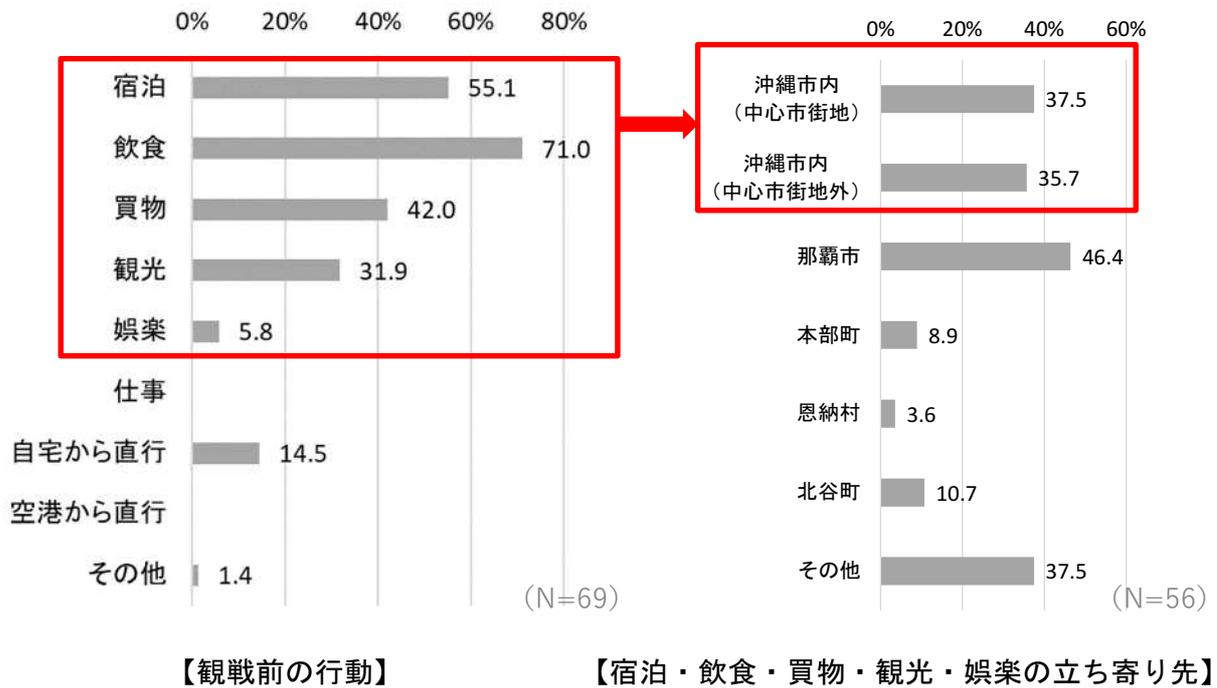
2) FC 琉球の観戦前後の行動等について

①試合観戦の「前」の行動・消費

○試合観戦の「前」の行動・消費は、「飲食」が71.0%と最も多く、次いで「宿泊」が55.1%となっている。

○宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先は、「那覇市」が46.4%と最も多く、次いで「沖縄市内（中心市街地）」が37.5%となっている。

○平均消費額は、「食事代」が6,577円と最も多く、次いで「交通費」が6,034円となっている。



【観戦前の市内における平均消費額 (N=69)】

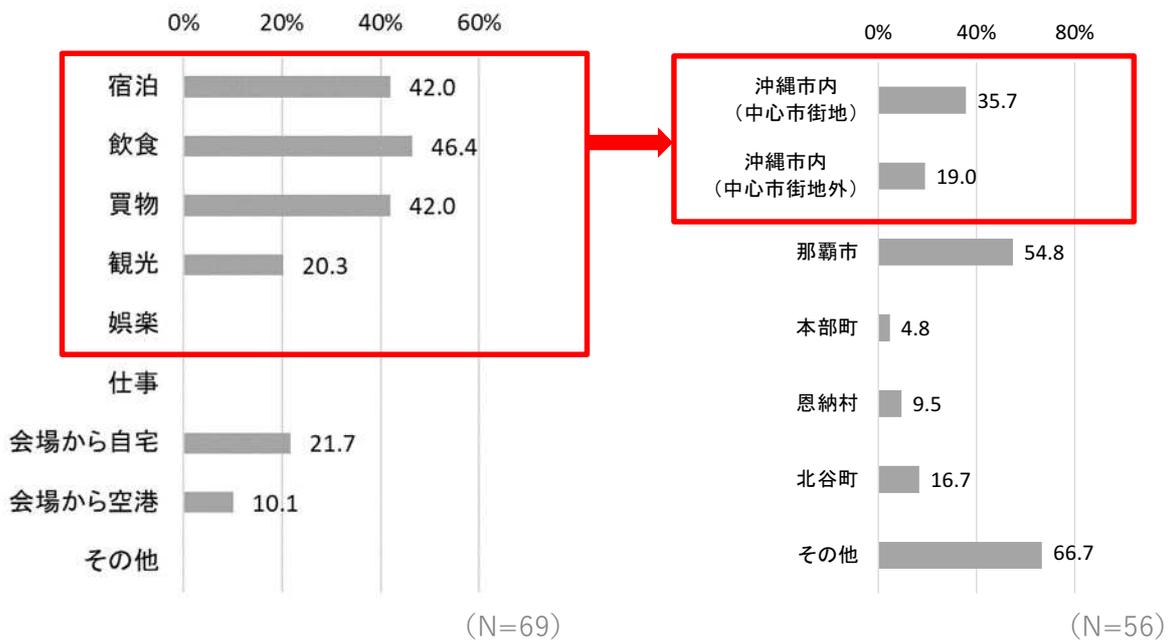
費目	未購入者を含めた平均消費額	1円以上購入者の平均消費額
宿泊代	4,361円	11,629円
食事代	6,577円	8,591円
お酒・ナイトエンターテイメント	1,922円	5,857円
お土産・買い物代	3,939円	7,003円
施設入場料、レジャー・体験料、その他	1,509円	3,220円
交通費	6,034円	13,316円
市内総消費単価	24,343円	—

②試合観戦の「後」の行動・消費

○試合観戦の「後」の行動・消費は、「飲食」が46.4%と最も多く、次いで「買物」「宿泊」が42.0%となっている。

○宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先は、「那覇市」が54.8%と最も多く、次いで「沖縄市内（中心市街地）」が35.7%となっている。

○平均消費額は、「お土産・買い物代」が3,156円と最も多く、次いで「交通費」が2,478円となっている。



【観戦後の行動】

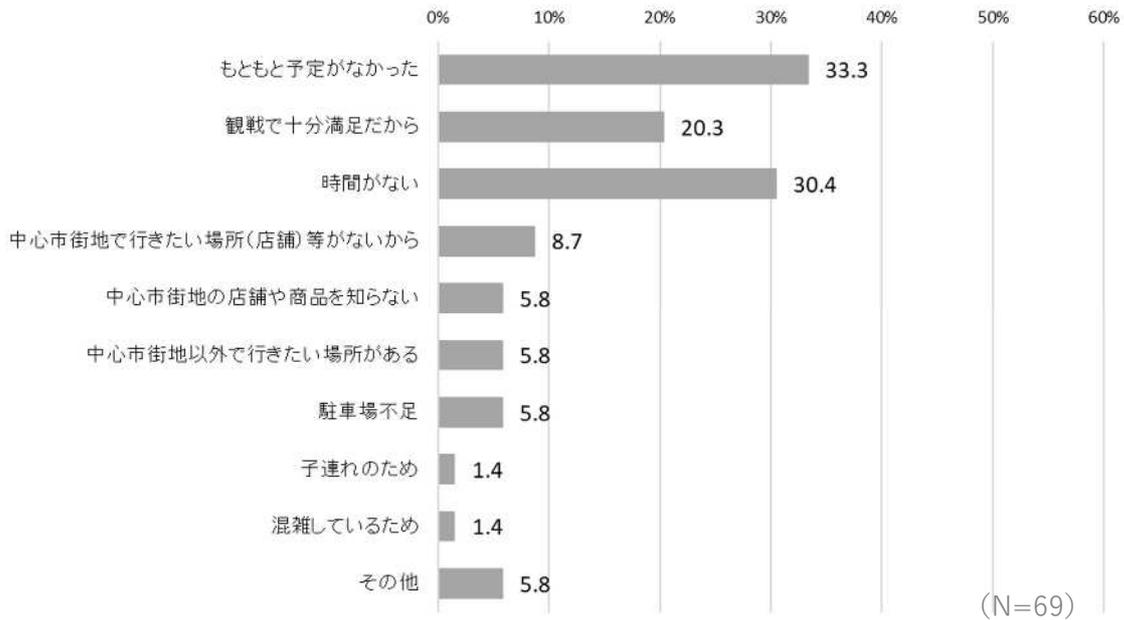
【宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先】

【観戦後の市内における平均消費額 (N=69)】

費目	未購入者を含めた平均消費額	1円以上購入者の平均消費額
宿泊代	2,461円	10,500円
食事代	2,348円	5,183円
お酒・ナイトエンターテイメント	1,284円	5,480円
お土産・買い物代	3,156円	7,769円
施設入場料、レジャー・体験料、その他	688円	3,667円
交通費	2,478円	7,551円
市内総消費単価	12,415円	—

③観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由

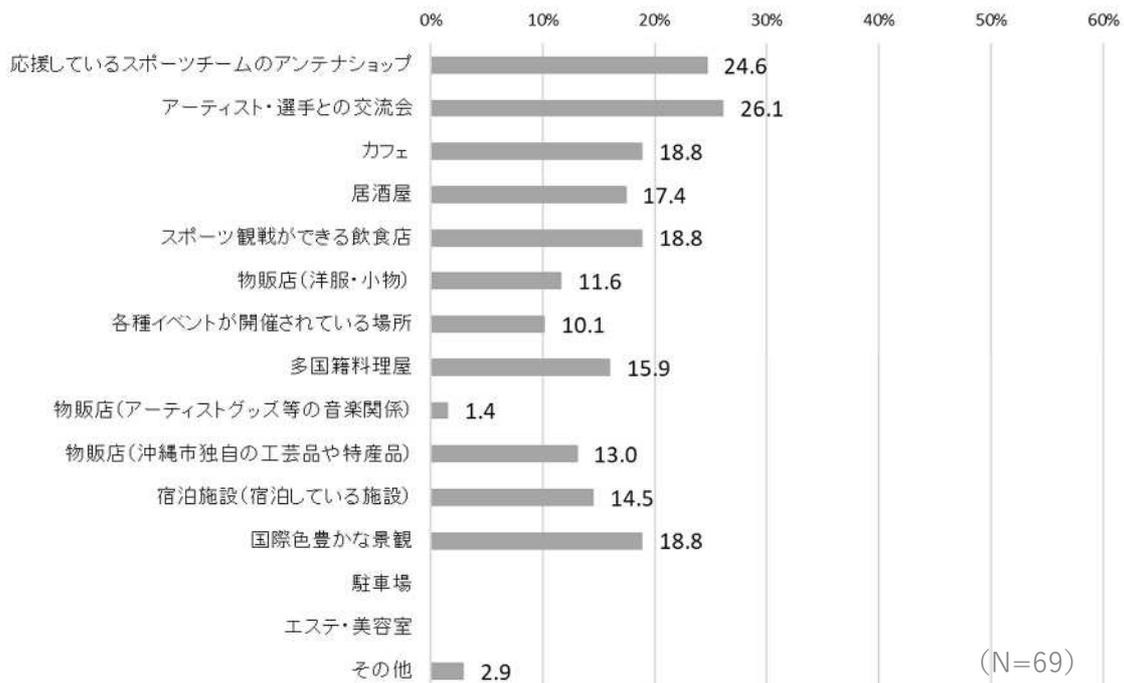
○観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由は、「もともと予定がなかった」が33.3%と最も多く、次いで「時間がない」が30.4%となっている。



【観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由の割合】

④どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るか

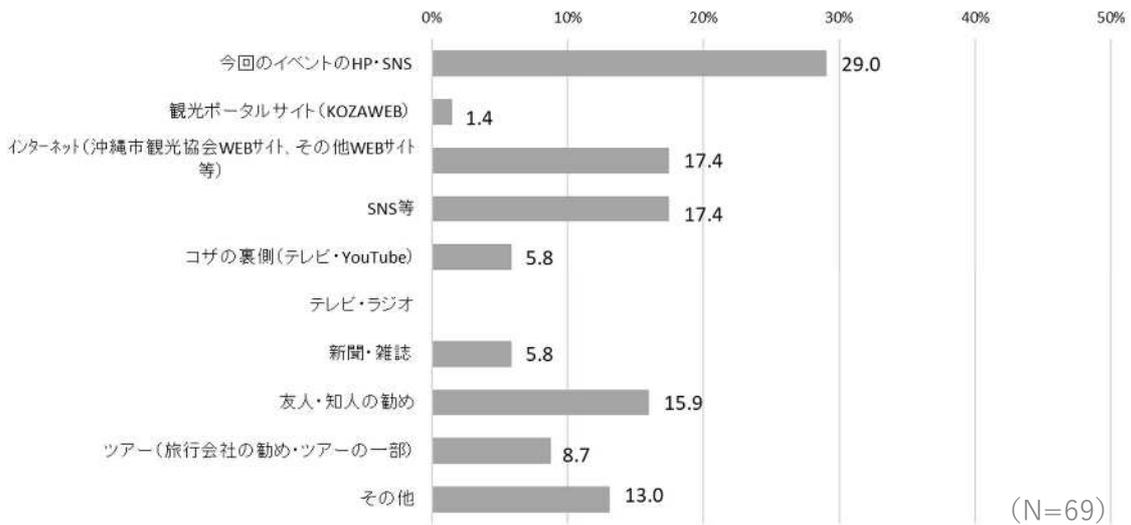
○どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかは、「アーティスト・選手との交流」が26.1%と最も多く、次いで「応援しているスポーツチームのアンテナショップ」が24.6%となっている。



【どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかの割合】

⑤試合会場以外に沖縄市内に立ち寄ったきっかけ

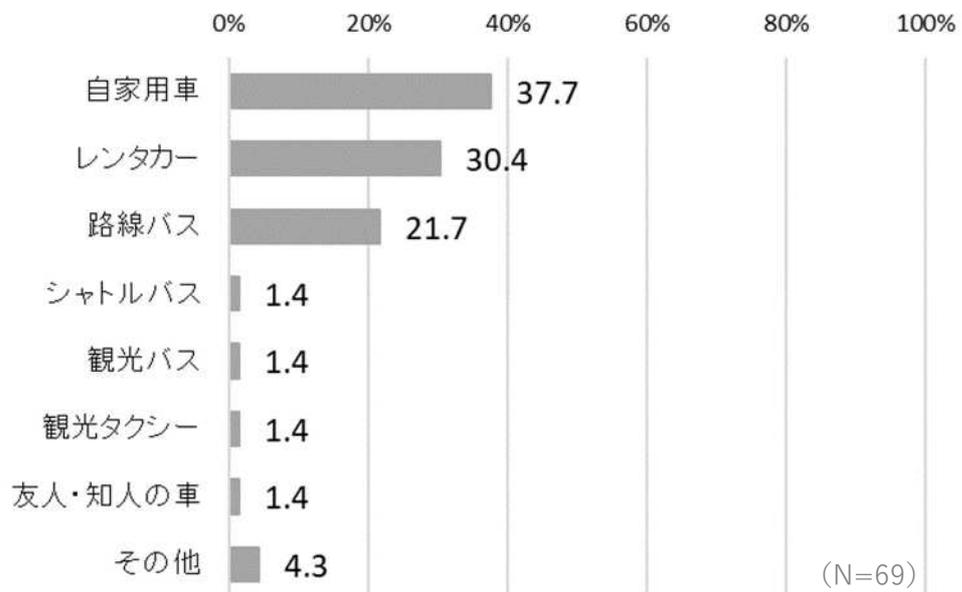
○試合会場以外に沖縄市内に立ち寄ったきっかけは、「今回のイベントのHP・SNS」が29.0%と最も多く、次いで「インターネット」「SNS」が17.4%となっている。



【試合会場以外に沖縄市に来訪したきっかけの割合】

⑥試合会場までの交通手段

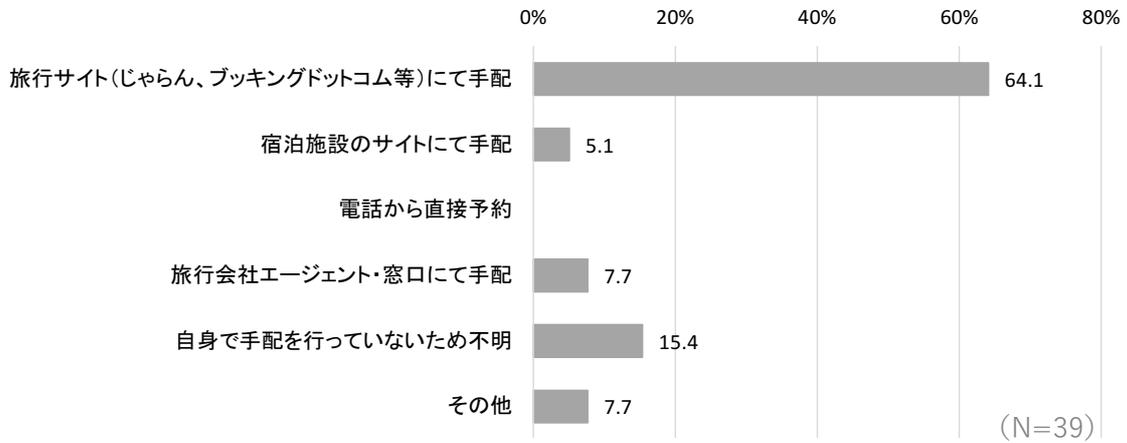
○試合会場までの交通手段は、「自家用車」が37.7%と最も多く、次いで「レンタカー」が30.4%となっている。



【試合会場までの交通手段の割合】

⑦宿泊施設の手配方法

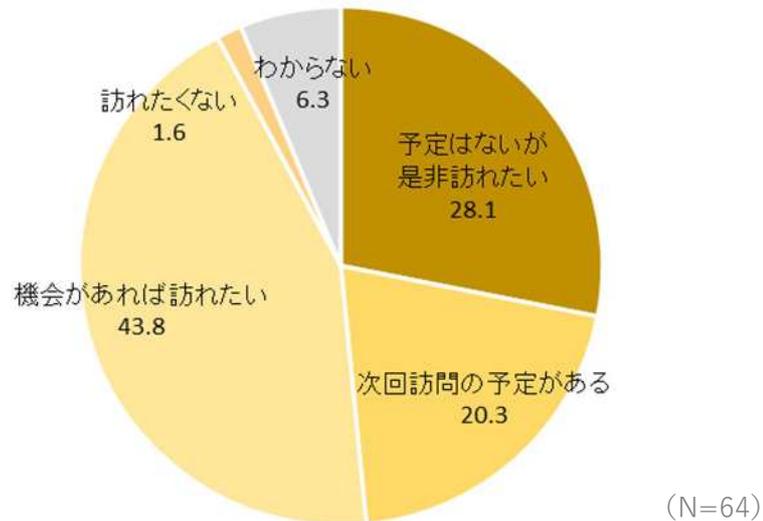
○宿泊施設の手配方法は、「旅行サイトにて手配」が64.1%と最も多く、次いで「自身で手配を行っていないため不明」が15.4%となっている。



【宿泊施設の手配方法の割合】

⑧沖縄市への再訪意向

○沖縄市への再訪意向は、「機会があれば訪れたい」が43.8%と最も多く、次いで「予定はないが是非訪れたい」が28.1%となっている。



【沖縄市の再訪意向の割合】

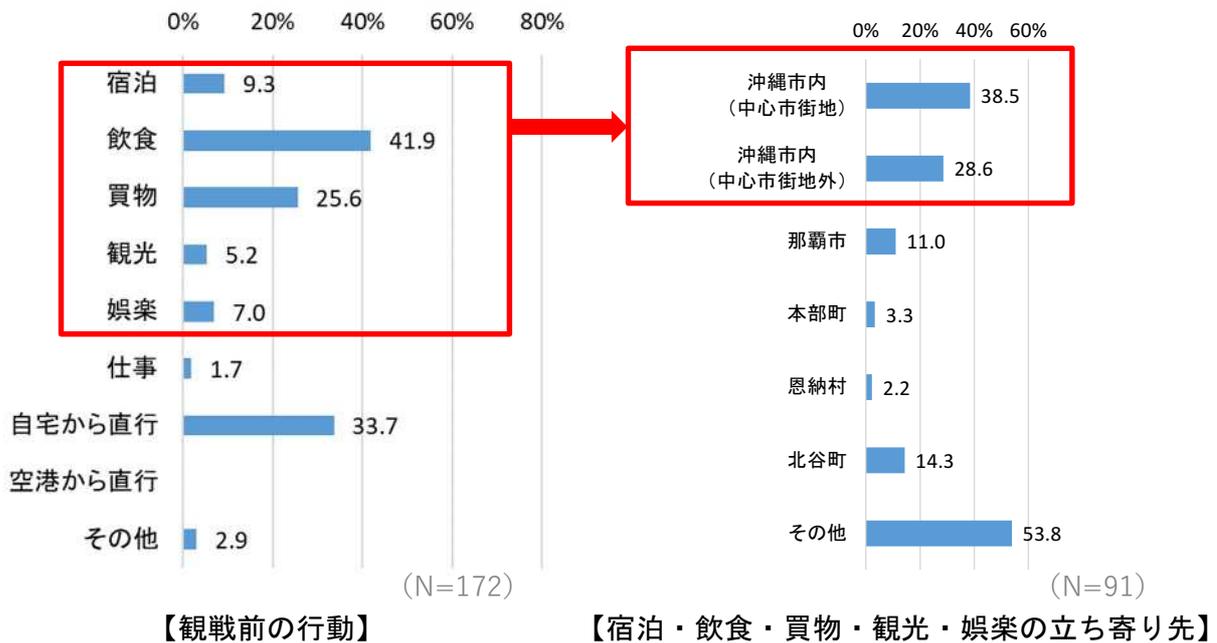
3) 琉球ゴールデンキングス<VS 島根>の観戦前後の行動等について

①試合観戦の「前」の行動・消費

○試合観戦の「前」の行動は、「飲食」が41.9%と最も多く、次いで「自宅から直行」が33.7%となっている。

○宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先は、「沖縄市内（中心市街地）」が38.5%と最も多く、次いで「沖縄市内（中心市街地外）」が28.6%となっている。

○観戦前の市内における平均消費額は、「食事代」が1,518円と最も多く、次いで「お土産・買い物代」が1,274円となっている。



【観戦前の市内における平均消費額 (N=172)】

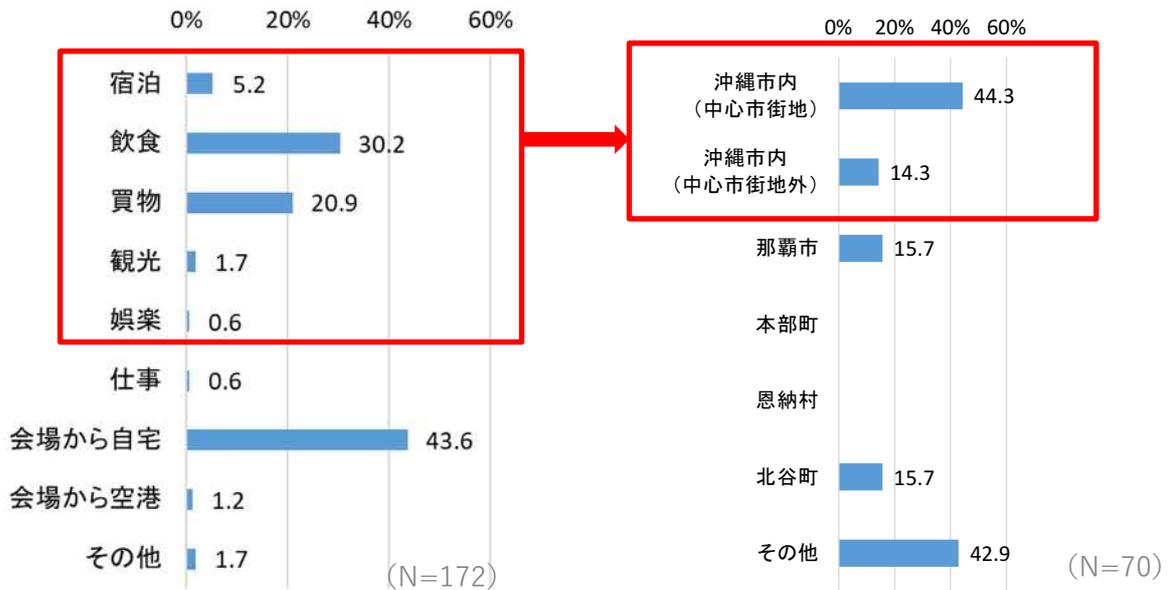
費目	未購入者を含めた平均消費額	1円以上購入者の平均消費額
宿泊代	709円	8,625円
食事代	1,518円	2,373円
お酒・ナイトエンターテイメント	373円	3,229円
お土産・買い物代	1,274円	3,823円
施設入場料、レジャー・体験料、その他	1,123円	5,326円
交通費	763円	2,002円
市内総消費単価	5,755円	—

②試合観戦の「後」の行動・消費

○試合観戦の「後」の行動は、「会場から自宅」が43.6%と最も多く、次いで「飲食」が30.2%となっている。

○宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先は、「沖縄市内（中心市街地）」が44.3%と最も多く、次いで「那覇市」「北谷」が15.7%となっている。

○観戦後の市内における平均消費額は、「食事代」が1,151円と最も多く、次いで「交通代」が1,017円となっている。



【観戦後の行動】

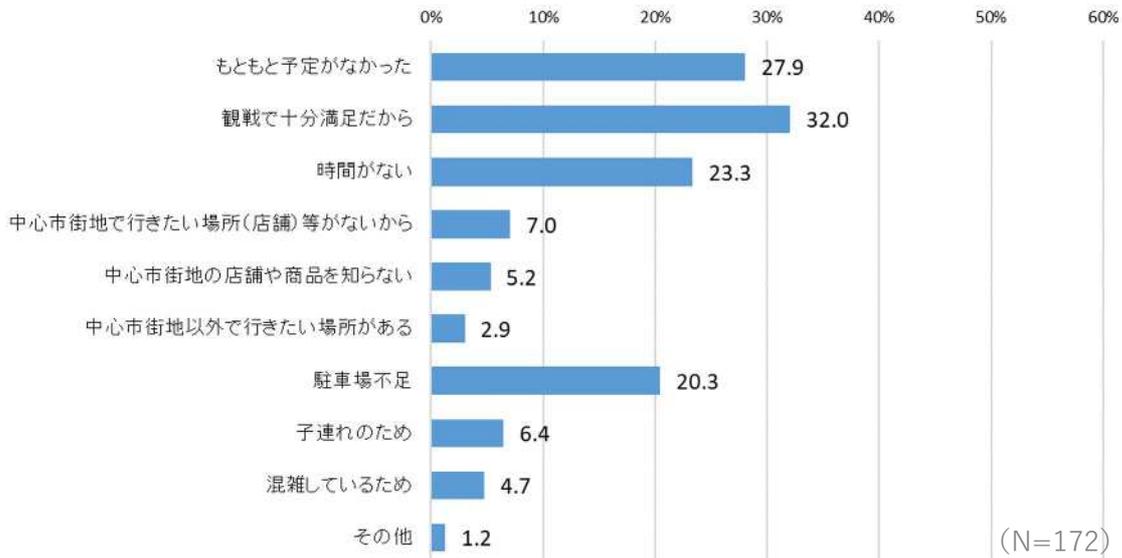
【宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先】

【観戦後の市内における平均消費額 (N=172)】

費目	未購入者を含めた平均消費額	1円以上購入者の平均消費額
宿泊代	769円	14,125円
食事代	1,151円	3,021円
お酒・ナイトエンターテイメント	344円	3,892円
お土産・買い物代	921円	4,103円
施設入場料、レジャー・体験料、その他	316円	4,218円
交通費	1,017円	3,114円
市内総消費単価	4,517円	—

③観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由

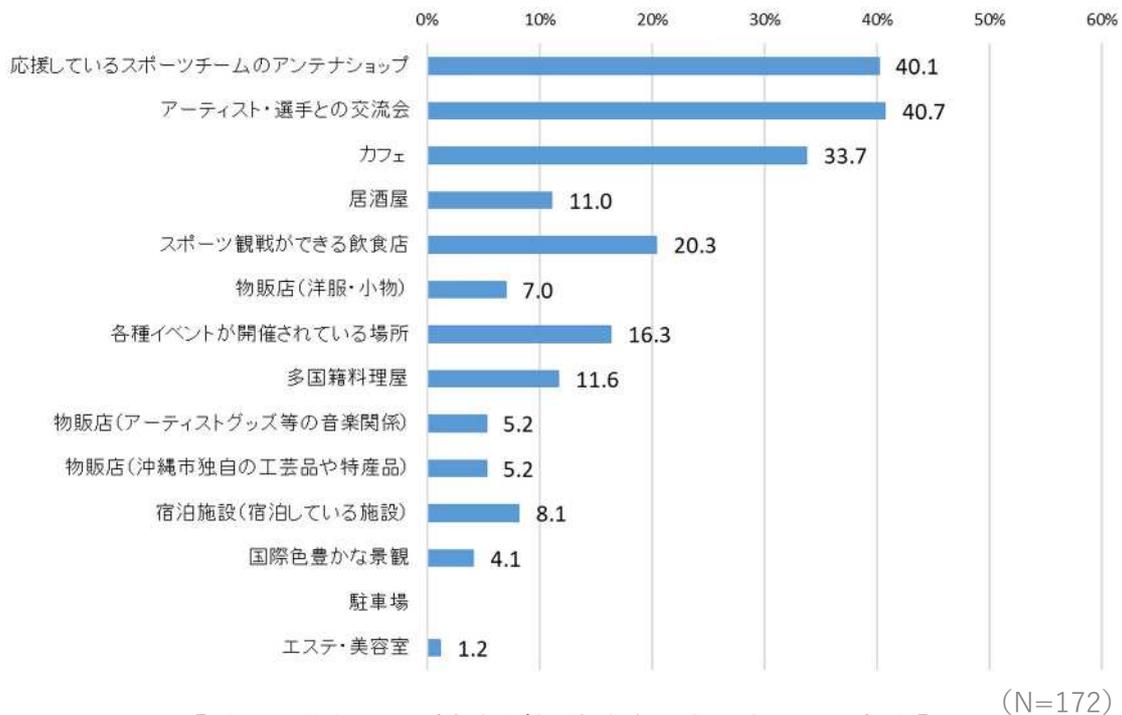
○観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由は、「観戦で十分満足だから」が32.0%と最も多く、次いで「もともと予定がなかった」が27.9%となっている。



【観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由の割合】

④どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るか

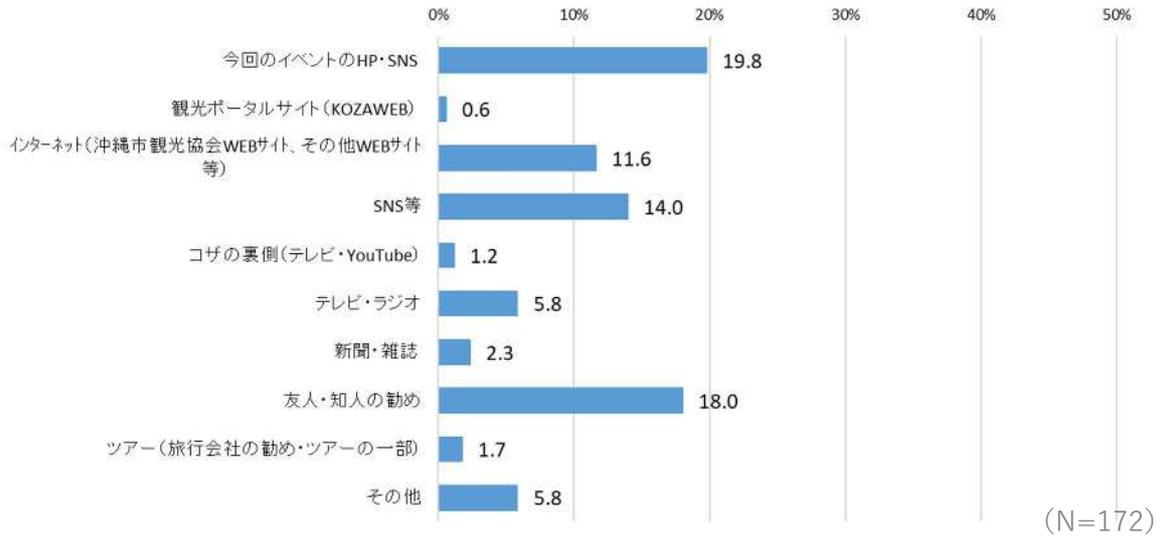
○どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかは、「アーティスト・選手との交流会」が40.7%と最も多く、次いで「応援しているスポーツチームのアンテナショップ」が40.1%となっている。



【どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかの割合】

⑤ 試合会場以外に沖縄市内に立ち寄ったきっかけ

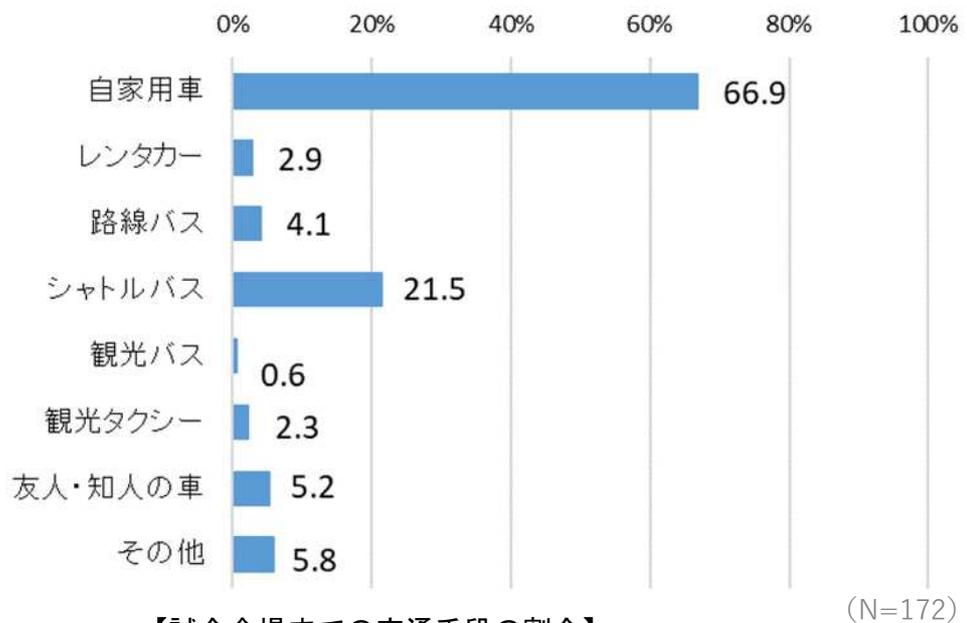
○ 試合会場以外に沖縄市内に立ち寄ったきっかけは、「今回のイベントのHP・SNS」が19.8%と最も多く、次いで「友人・知人の勧め」が18.0%となっている。



【試合会場以外に沖縄市に来訪したきっかけの割合】

⑥ 試合会場までの交通手段

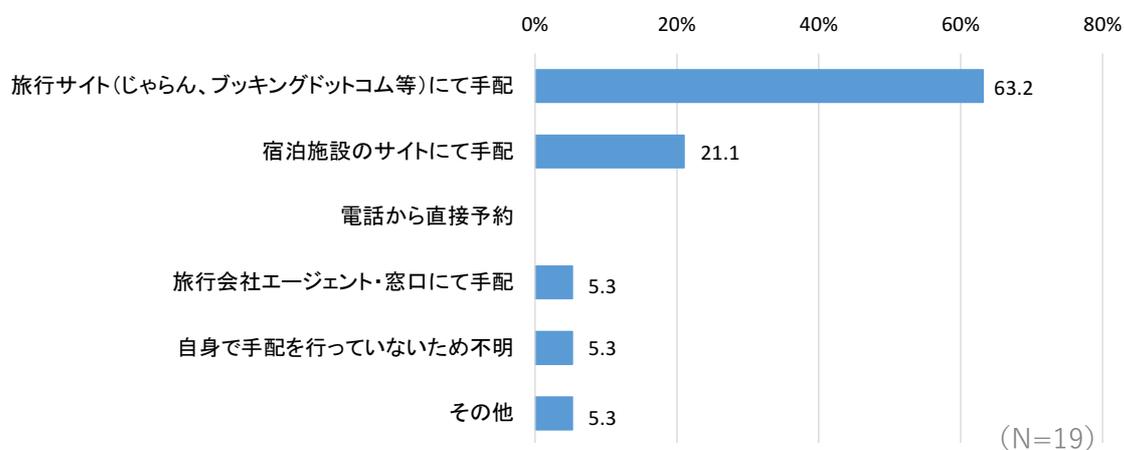
○ 試合会場までの交通手段は、「自家用車」が66.9%と最も多く、次いで「シャトルバス」が21.5%となっている。



【試合会場までの交通手段の割合】

⑦宿泊施設の手配方法

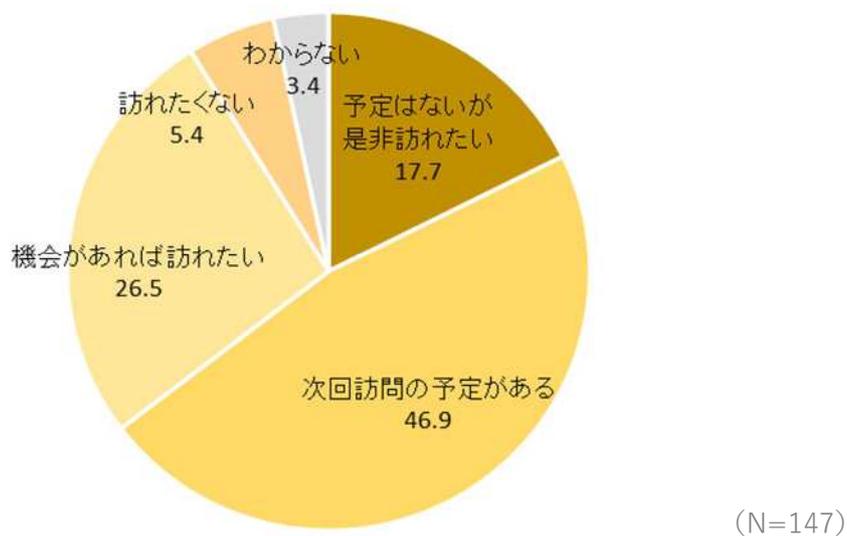
○宿泊施設の手配方法は、「旅行サイト」が63.2%と最も多く、次いで「宿泊施設のサイトにて手配」が21.1%となっている。



【宿泊施設の手配方法の割合】

⑧沖縄市への再訪意向

○沖縄市への再訪意向については、「次回訪問の予定がある」が46.9%と最も多く、次いで「機会があれば訪れたい」が26.5%となっている。



【沖縄市の再訪意向の割合】

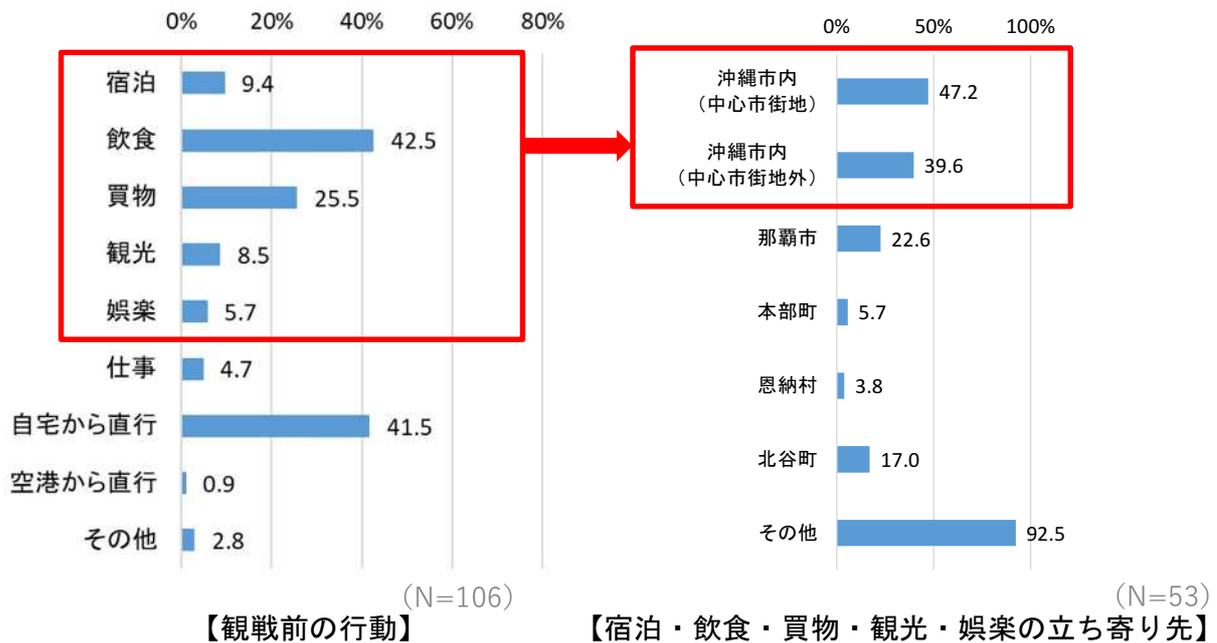
3) 琉球ゴールデンキングス<VS 東京>観戦前後の行動等について

①試合観戦の「前」の行動・消費

○試合観戦の「前」の行動は、「飲食」が42.5%と最も多く、次いで「自宅から直行」が41.5%となっている。

○宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先は、「沖縄市内（中心市街地）」が47.2%と最も多く、次いで「沖縄市内（中心市街地外）」が39.6%となっている。

○観戦前の市内における平均消費額は、「交通費」が4,319円と最も多く、次いで「食事代」が4,223円となっている。



【観戦前の市内における平均消費額 (N=106)】

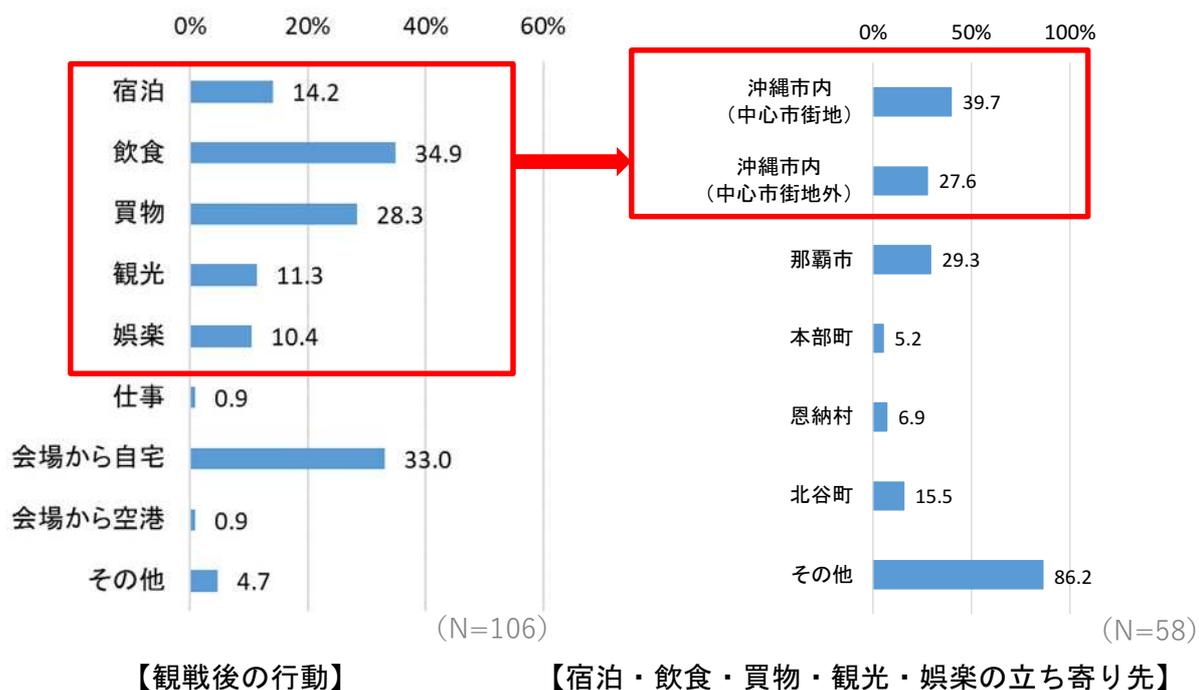
費目	未購入者を含めた平均消費額	1円以上購入者の平均消費額
宿泊代	2,385円	20,818円
食事代	4,223円	5,631円
お酒・ナイトエンターテイメント	2,279円	10,940円
お土産・買い物代	3,163円	7,062円
施設入場料、レジャー・体験料、その他	2,839円	10,902円
交通費	4,319円	10,912円
市内総消費単価	19,209円	—

②試合観戦の「後」の行動・消費

○試合観戦の「後」の行動は、「飲食」が34.9%と最も多く、次いで「会場から自宅」が33.0%となっている。

○宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先は、「沖縄市内（中心市街地）」が39.7%と最も多く、次いで「那覇市」が29.3%となっている。

○観戦後の市内における平均消費額は、「お土産・買い物代」が4,515円と最も多く、次いで「交通費」が2,977円となっている。

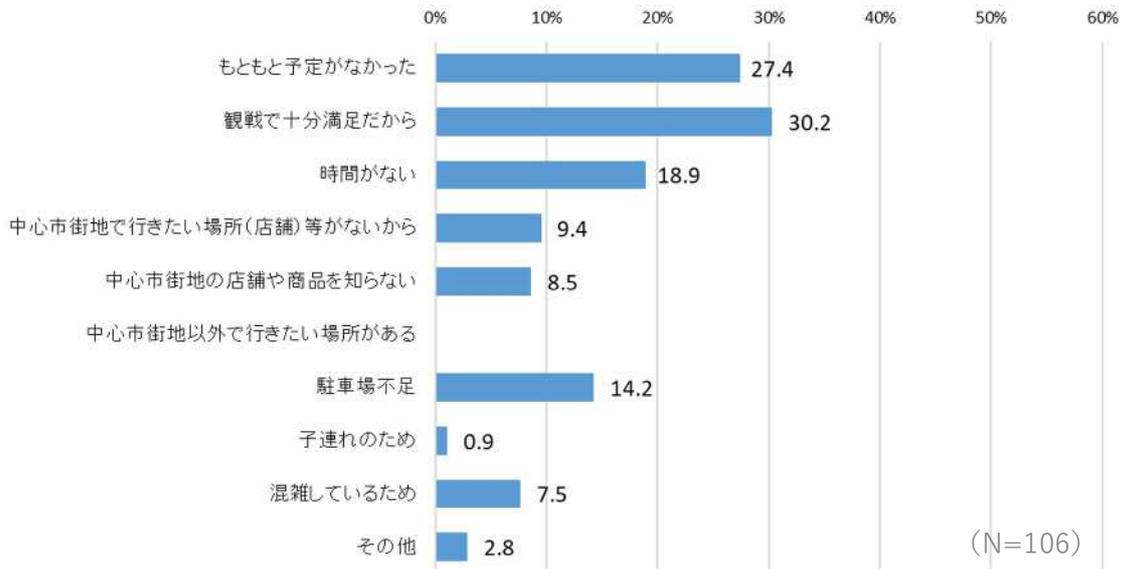


【観戦後の市内における平均消費額 (N=106)】

費目	未購入者を含めた平均消費額	1円以上購入者の平均消費額
宿泊代	2,177円	13,933円
食事代	2,704円	6,490円
お酒・ナイトエンターテイメント	1,370円	8,219円
お土産・買い物代	4,515円	12,383円
施設入場料、レジャー・体験料、その他	1,388円	10,246円
交通費	2,977円	9,526円
市内総消費単価	15,130円	—

③観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由

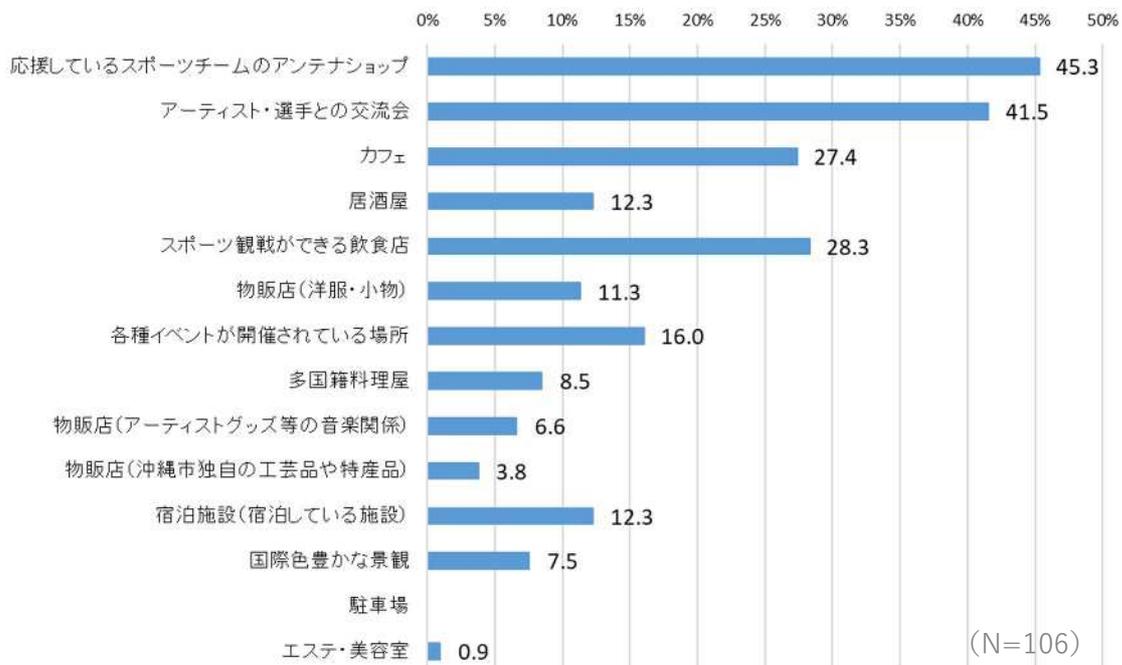
○観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由は、「観戦で十分満足だから」が30.2%と最も多く、次いで「もともと予定がなかった」が27.4%となっている。



【観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由の割合】

④どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るか

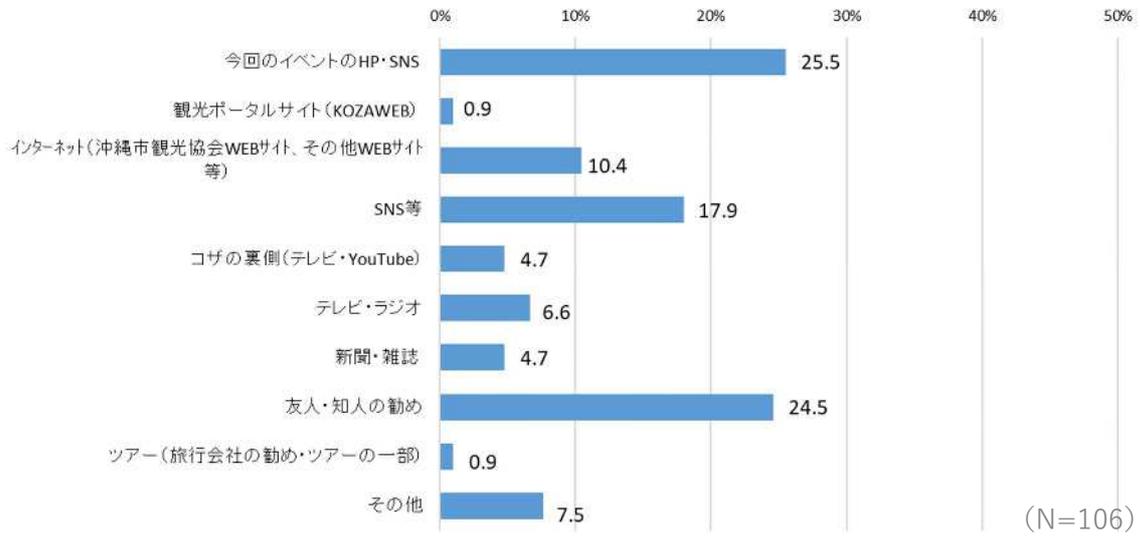
○どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかは、「応援しているスポーツチームのアンテナショップ」が45.3%と最も多く、次いで「アーティスト・選手との交流会」が41.5%となっている。



【どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかの割合】

⑤試合会場以外に沖縄市内に立ち寄ったきっかけ

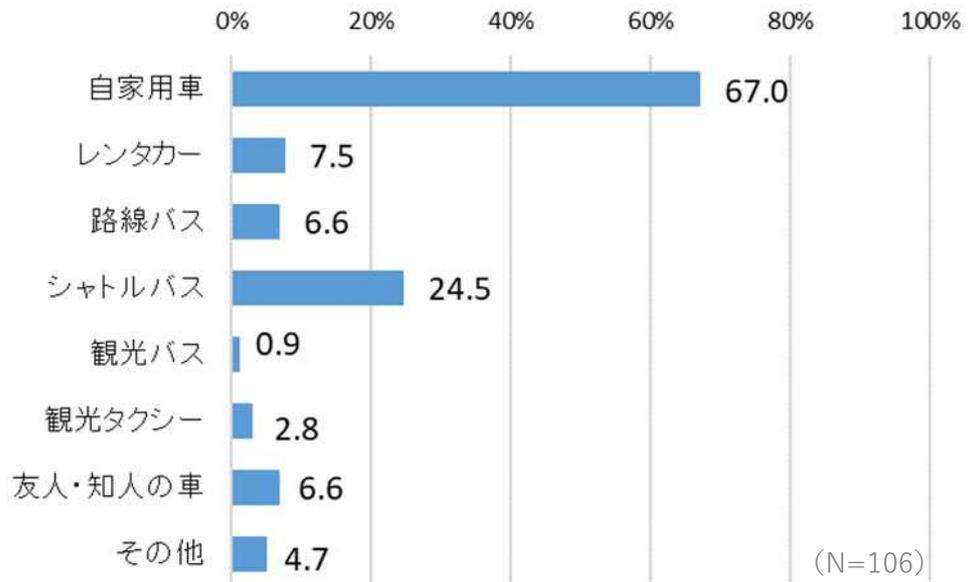
○試合会場以外に沖縄市内に立ち寄ったきっかけは、「今回のイベントのHP・SNS」が25.5%と最も多く、次いで「友人・知人の勧め」が24.5%となっている。



【試合会場以外に沖縄市に来訪したきっかけの割合】

⑥試合会場までの交通手段

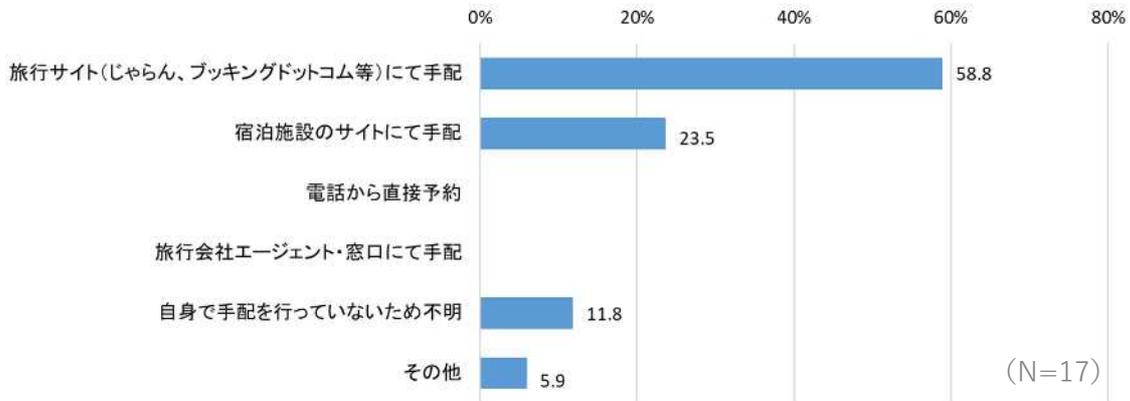
○試合会場までの交通手段は、「自家用車」が67.0%と最も多く、次いで「シャトルバス」が24.5%となっている。



【試合会場までの交通手段の割合】

⑦宿泊施設の手配方法

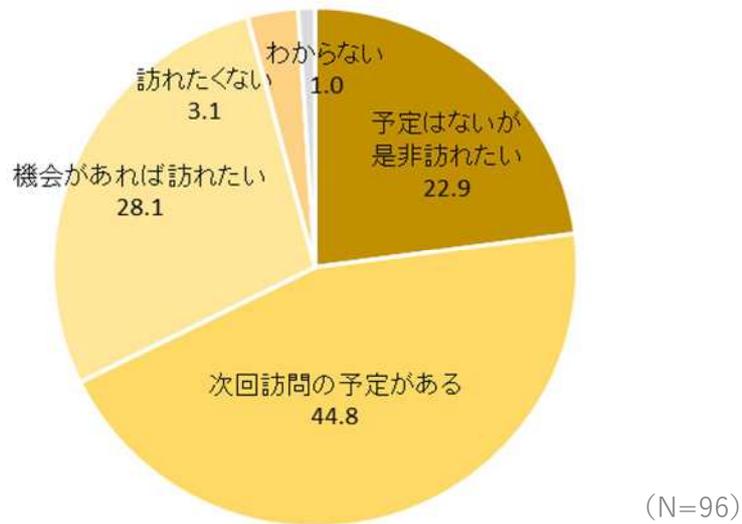
○宿泊施設の手配方法は、「旅行サイト」が58.8%と最も多く、次いで「宿泊施設のサイトにて手配」が23.5%となっている。



【宿泊施設の手配方法の割合】

⑧沖縄市への再訪意向

○沖縄市への再訪意向については、「次回訪問の予定がある」が44.8%と最も多く、次いで「機会があれば訪れたい」が28.1%となっている。



【沖縄市の再訪意向の割合】

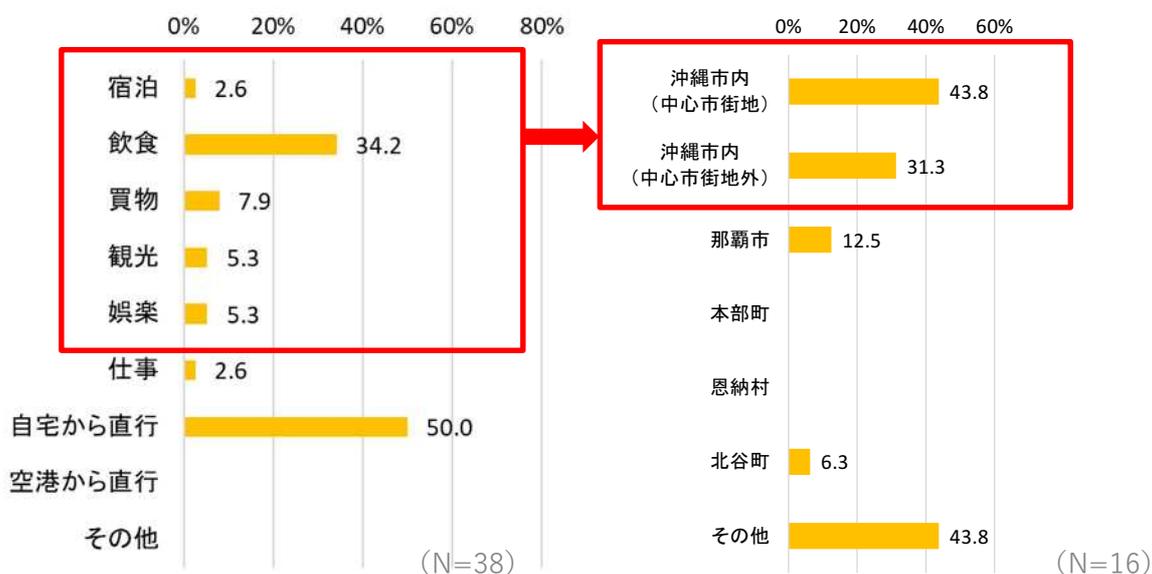
4) その他イベント（アスティーダフェスティバル）の観戦前後の行動等について

①試合観戦の「前」の行動・消費

○試合観戦の「前」の行動・消費は、「自宅から直行」が50.0%と最も多く、次いで「飲食」が34.2%となっている。

○宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先は、「沖縄市内（中心市街地）」が43.8%と最も多く、次いで「沖縄市内（中心市街地外）」が31.3%となっている。

○平均消費額は、「食事代」が1,184円と最も多く、次いで「お土産・買い物代」が620円となっている。



【観戦前の行動】

【宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先】

【観戦前の市内における平均消費額 (N=38)】

費目	未購入者を含めた平均消費額	1円以上購入者の平均消費額
宿泊代	0円	0円
食事代	1,184円	1,974円
お酒・ナイトエンターテイメント	43円	1,500円
お土産・買い物代	620円	1,670円
施設入場料、レジャー・体験料、その他	354円	3,100円
交通費	433円	1,011円
市内総消費単価	2,635円	—

②試合観戦の「後」の行動・消費

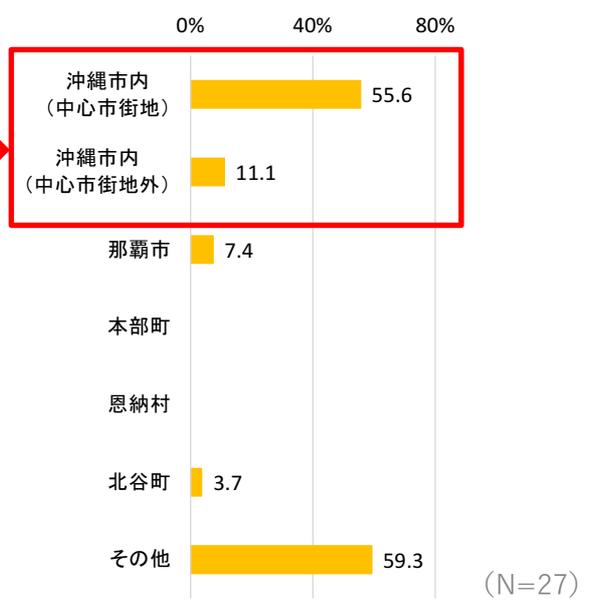
○試合観戦の「後」の行動・消費は、「買物」が47.4%と最も多く、次いで「飲食」が42.1%となっている。

○宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先は、「沖縄市内（中心市街地）」が55.6%と最も多く、次いで「沖縄市内（中心市街地外）」が11.1%となっている。

○平均消費額は、「食事代」が1,351円と最も多く、次いで「お土産・買い物代」が783円となっている。



【観戦後の行動】



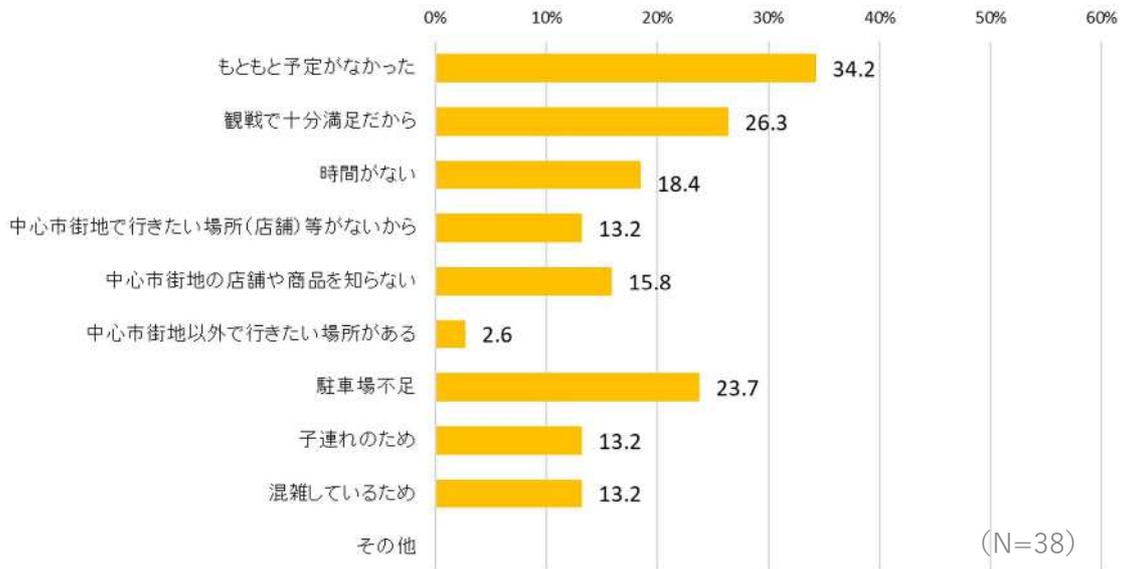
【宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先】

【観戦後の市内における平均消費額（N=38）】

費目	未購入者を含めた平均消費額	1円以上購入者の平均消費額
宿泊代	0円	0円
食事代	1,351円	2,489円
お酒・ナイトエンターテイメント	172円	2,003円
お土産・買い物代	783円	2,108円
施設入場料、レジャー・体験料、その他	114円	2,000円
交通費	339円	988円
市内総消費単価	2,759円	—

③観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由

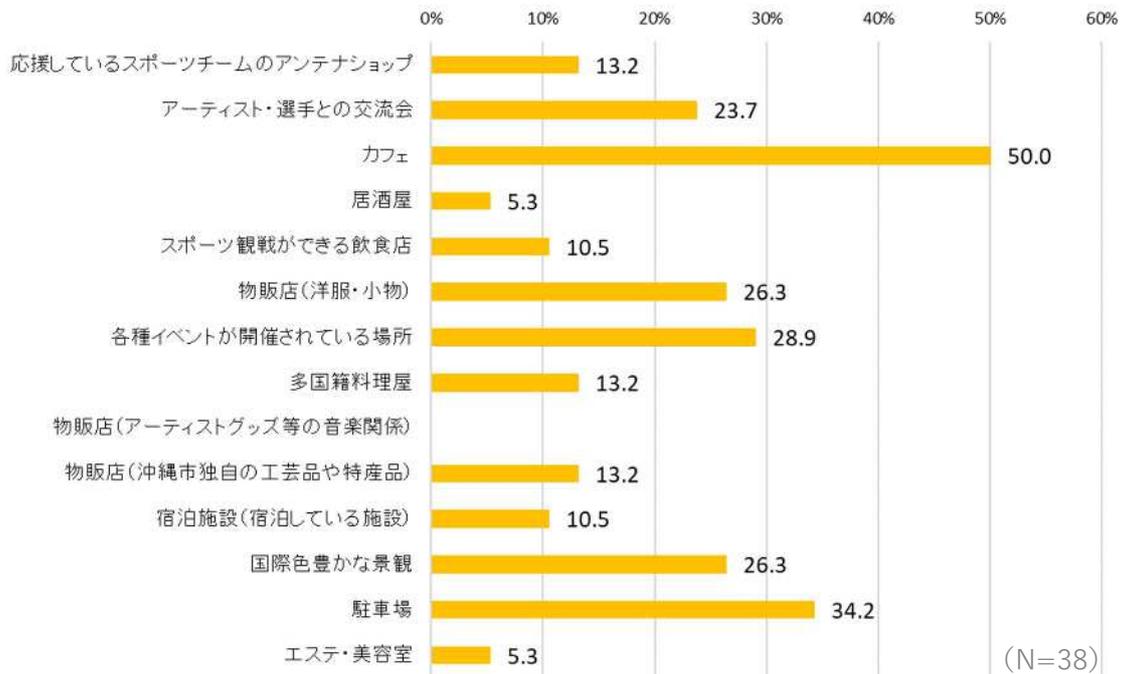
○観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由は、「もともと予定がなかった」が34.2%と最も多く、次いで「観戦で十分満足だから」が26.3%となっている。



【観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由の割合】

④どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るか

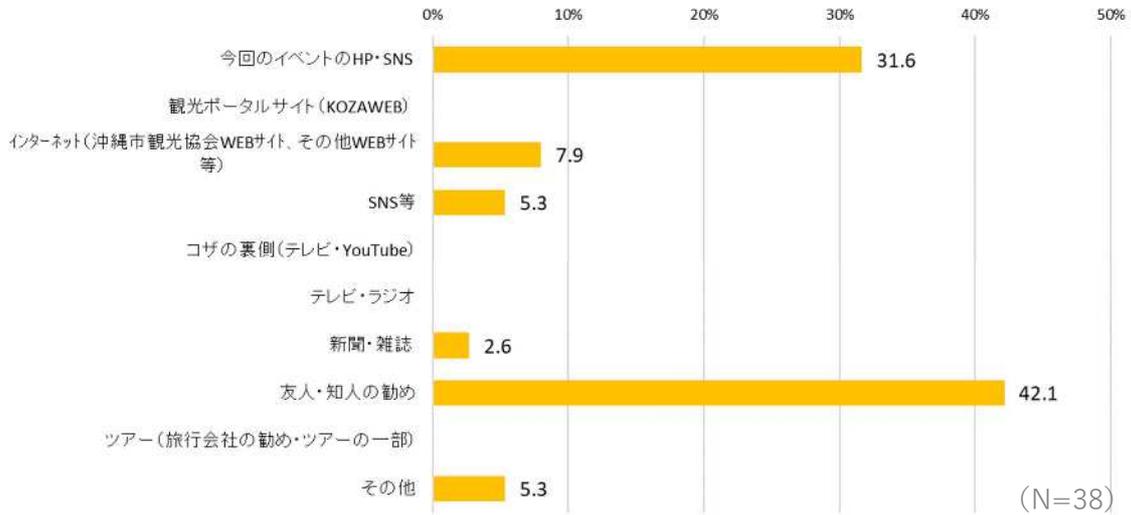
○どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかは、「カフェ」が50.0%と最も多く、次いで「駐車場」が34.2%となっている。



【どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかの割合】

⑤試合会場以外に沖縄市内に立ち寄ったきっかけ

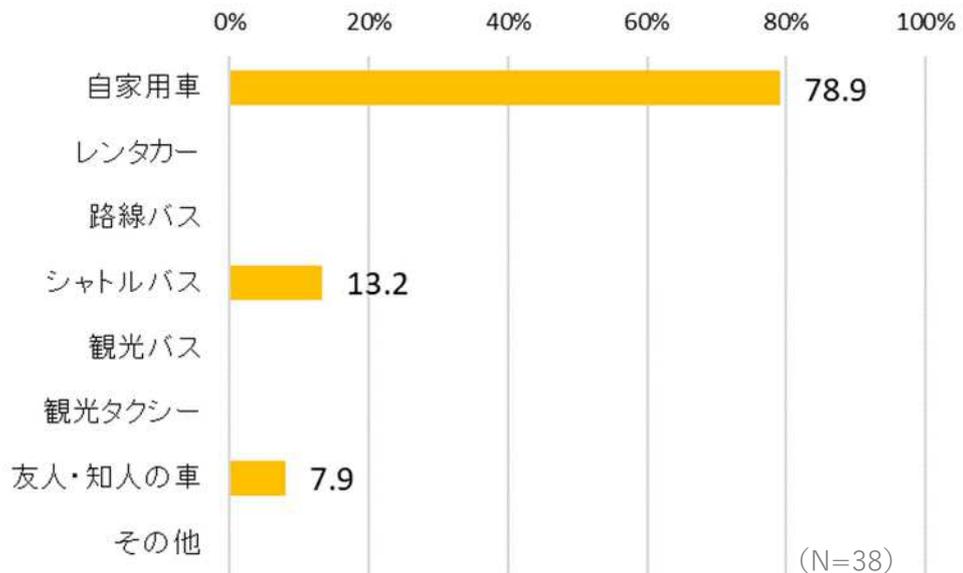
○試合会場以外に沖縄市内に立ち寄ったきっかけは、「友人・知人の勧め」が42.1%と最も多く、次いで「今回のイベントのHP・SNS」が31.6%となっている。



【試合会場以外に沖縄市に来訪したきっかけの割合】

⑥試合会場までの交通手段

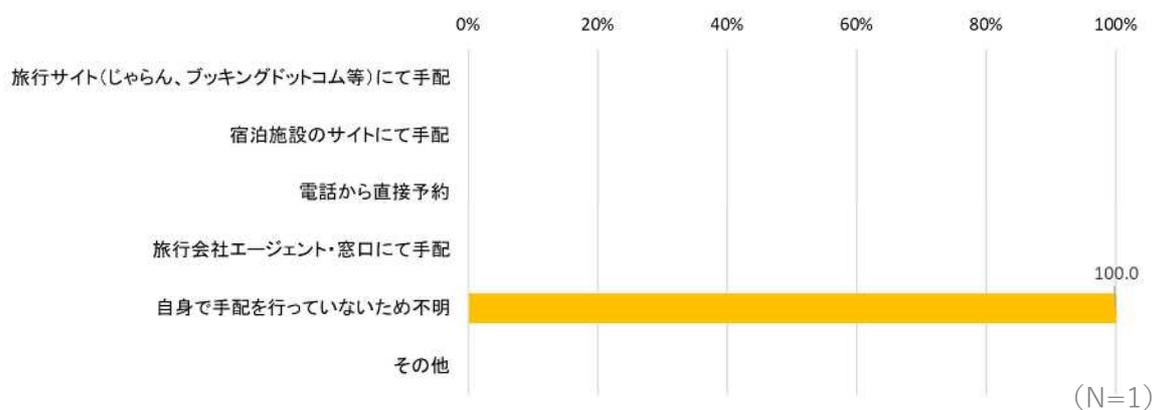
○試合会場までの交通手段は、「自家用車」が78.9%と最も多く、次いで「シャトルバス」が13.2%となっている。



【試合会場までの交通手段の割合】

⑦宿泊施設の手配方法

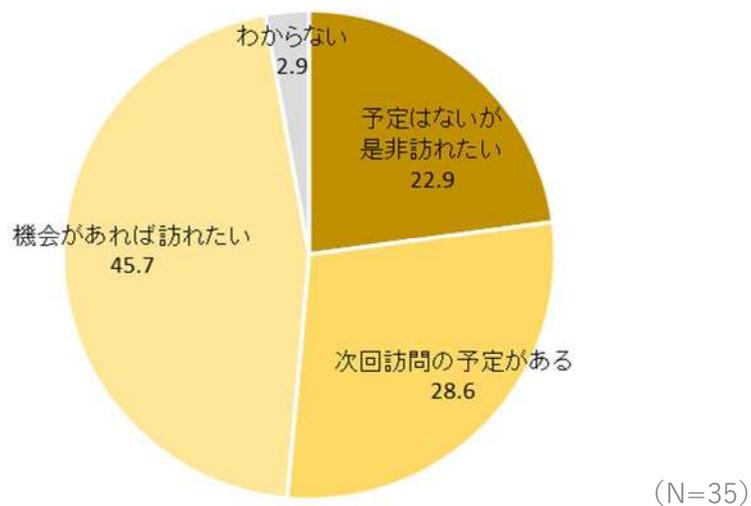
○宿泊施設の手配方法は、「自身で手配を行っていないため不明」が100%となっている。



【宿泊施設の手配方法の割合】

⑧沖縄市への再訪意向

○沖縄市への再訪意向は、「機会があれば訪れたい」が45.7%と最も多く、次いで「次回訪問の予定がある」が28.6%となっている。



【沖縄市の再訪意向の割合】

第4章 調査結果の利活用に向けた成果報告および事業検討会等の開催

4-1. 実施目的

昨年度の観光統計調査業務では、調査結果を関係者へ共有し、アウトプットを促進することを企図し、勉強会（計3回）を開催した。今年度も同様の目的のもと、「沖縄アリーナ（キングス）と周辺エリア（一番街・中の町など）の連携」、「タピックススタジアム（FC琉球）と周辺エリア（泡瀬地区）の連携」の2つのテーマを設定し、令和3年度と同様にデータを踏まえ取組内容を検討する勉強会を計3回開催した。

取組内容についてはテーマごとにグループを組成し、昨年度の取組内容と効果を踏まえて、今後の取組内容や実施体制などを検討した。

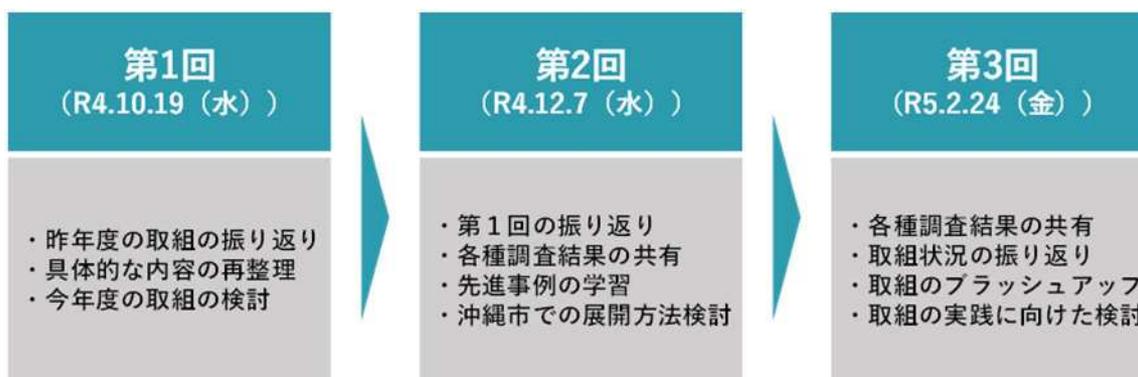
4-2. 実施概要

各勉強会の実施概要を以下に示す。

【勉強会の実施概要】

	開催日時	テーマ・内容
第1回	令和4年10月19日(水) 17:00～19:00	「さらなる取組を考え実践する」 - 今年度の取組方針 - 昨年度の調査結果及び今年度の調査結果(速報版) ワーク：昨年度の取組を踏まえた今年度のアクション
第2回	令和4年12月7日(水) 17:00～19:30	「スポーツ×まちなか連携による活性化方策の先進事例を学ぶ」 ・講演① 「さいたま市におけるスポーツを活用したまちづくり」 ・講演② 「プロスポーツチームと地域との具体的な取り組み事例紹介」 ワーク：当日の振り返りと沖縄市での展開方法
第3回	令和5年2月24日(金) 17:00～19:00	「これまでの振り返りと、今後の実践に向けて」 - これまでの取組の振り返り - 各種調査結果の共有 ワーク：これまでの取組の振り返りと、今後の実践に向けて

【勉強会の実施の流れ】



4-3. 実施結果

1) 第1回勉強会

第1回勉強会の実施内容を以下に示す。

【第1回勉強会の実施内容】

開催日時	・令和4年10月19日(水) 17:00～19:00
テーマ	・さらなる取組を考え実践する
開催場所	・ホテルニューセンチュリー
参加機関	<p>【参加者】(計11名)</p> <p>①沖縄アリーナ(琉球ゴールデンキングス)との連携チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関係団体(2名) ・市内宿泊事業者(2名) ・市内観光関連事業者(1名) <p>②タピックスタジアム(FC琉球)との連携チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関連団体(1名) ・市内宿泊事業者(1名) ・市内観光関連事業者(1名) ・市内まちづくり団体(1名) ・市内商工関連事業者(1名) ・その他市内事業者(1名) <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄市 ・(一社)沖縄市観光振興物産協会 ・(株)オリエンタルコンサルタンツ
プログラム	<p>17:00～ 開会のあいさつ</p> <p>17:10～ 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組方針 ・去年度の調査結果及び今年度の調査結果(速報版) <p>17:30～ ワーク</p> <p>18:40～ 閉会のあいさつ</p>
議事概要	<p>①沖縄アリーナと周辺エリアの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルからアリーナまでの移手段の少なさや、中心市街地の周知が課題であり、チーム関連のクーポンやプレゼントなどで連携を図る必要がある。 ・アリーナとライカム間でのシャトルバスの利用者が圧倒的に多く、中心市街地を経由する人は少ない。沖縄市役所や市民会館の駐車場が利用できないかをキングスで検討中である。 ・観光協会ではモビリティの実証実験を商店街と連携して行ったが、交通ルールや安全性などの問題点が多々ある。 <p>②タピックスタジアムと周辺エリアの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニフォームを着て飲食店への来訪は実践できたが、試合自体知られていない店などもあり情報発信をしていく必要があると感じた。 ・FC琉球DAYの創設や、市街地と会場を結ぶ事前予約制のシャトルバスの設置などにより、観戦客の市内での滞在や宿泊の増加に繋がると感じた。



実施の様子



2) 第2回勉強会

第2回勉強会の実施内容を以下に示す。

【第2回勉強会の実施内容】

開催日時	・令和4年12月7日(水) 17:00～19:30
テーマ	・スポーツ×まちなか連携による活性化方策の先進事例を学ぶ
開催場所	・沖縄市民会館 中ホール
参加機関	<p>【参加者】(計18名)</p> <p>①沖縄アリーナ(琉球ゴールデンキングス)との連携チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関連団体(4名) ・市内宿泊事業者(2名) ・市内商工関係事業者(2名) ・市内まちづくり団体(1名) <p>②タピックスタジアム(FC琉球)との連携チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関連団体(3名) ・市内観光関連事業者(2名) ・市内宿泊事業者(1名) ・市内商工関係事業者(3名) <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄市 ・(一社)沖縄市観光振興物産協会 ・(株)オリエンタルコンサルタンツ
プログラム	<p>17:00～ 開会のあいさつ・説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄市観光統計調査 ・第1回勉強会の振り返り <p>17:15～ 講演①</p> <p>さいたま市におけるスポーツを活用したまちづくり</p> <p>18:05～ 講演②</p> <p>プロスポーツチームと地域との具体的取り組み事例紹介</p> <p>18:45～ 意見交換・ワーク</p>
議事概要	<ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市におけるスポーツとの連携事例やデータ活用についての講演 <p>①沖縄アリーナと周辺エリアの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄アリーナ周辺では交通渋滞が問題であるため、シェアサイクルなどのシャトルバス以外のモビリティを設置し、周知にも力を入れていく必要がある。 ・市外から来訪する際の交通手段として、鉄道の整備も考えられる。 ・また、地域にスポーツを根付かせるために、グラウンド通りの名称をスポーツチーム名と関係するものに変更するなどの取組も効果的ではないか。 <p>②タピックスタジアムと周辺エリアの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかへのバナーの設置やアウェイサポーターへのおもてなし看板の設置、ファンからの公募による新グッズの作成などは効果的ではないか。 ・また市内でのパブリックビューイング実施店の増加や、試合後の周遊に向けた、飲食店の満空情報や営業情報が表示されるマップなどが必要である。 ・データの活用法として、毎年公開されている沖縄市の統計データを各事業者向けに分かりやすくまとめたプラットフォームがあると良いのではないか。

実施の様子



3) 第3回勉強会

第3回勉強会の実施内容を以下に示す。

【第3回勉強会の実施内容】

開催日時	・令和5年2月24日(金) 17:00～19:00
テーマ	・「これまでの振り返りと、今後の実践に向けて」
開催場所	・ホテルニューセンチュリー
参加機関	<p>【参加者】(計7名)</p> <p>①沖縄アリーナ(琉球ゴールデンキングス)との連携チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関連団体(2名) ・市内まちづくり団体(1名) <p>②タピックススタジアム(FC琉球)との連携チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ関連団体(1名) ・市内観光関連事業者(1名) ・市内宿泊事業者(1名) ・市内商工関係事業者(1名) <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄市 ・(一社)沖縄市観光振興物産協会 ・(株)オリエンタルコンサルタンツ
プログラム	<p>17:00～ 開会のあいさつ・説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組の振り返り ・各種調査結果の共有 <p>17:30～ グループワーク①</p> <p>18:30～ グループワーク②</p> <p>18:45～ 結果の共有</p> <p>18:55 閉会</p>
議事概要	<p>①沖縄アリーナと周辺エリアの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合前の来訪客をターゲットに、キッチンカーなどの設置ができれば良いのではないかと。また、アリーナから中心市街地までののぼりによる誘導や、AR技術を活用したキングスとの連携などは効果的ではないかと。 ・パブリックビューイングや3on3の開催、キングスと連携した商品など、現時点でも実施できている取組はある。一方で、キングスが勝っても負けても楽しめるような取組は今後も考えていく必要がある。 ・キングスのSNSや観光協会のチラシ、パンフなどを活用した情報発信をより積極的に行い、アリーナとまちなかの連携を図っていきたい。 <p>②タピックススタジアムと周辺エリアの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランメールの屋上に、パブリックビューイングができるラウンジを検討している。このように、試合後の飲食や宿泊に直接つながるような取組や、宿泊、まち歩き、観戦が一体になった商品の造成なども行いたい。 ・観光施設との連携は一部実施できているが、特にまちなかののぼりの設置はできておらず、カーブのように大々的に実施したい。 ・コミュニティ形成の仕組みづくりが課題であると感じており、会場周辺の飲食店の発信と活用促進、地域と行政とが連携したおもてなしの雰囲気づくりが大切である。



実施の様子



4) 勉強会の成果

本勉強会は、昨年度勉強会にて検討した琉球ゴールデンキングス（沖縄アリーナ）及びFC琉球（タピックスタジアム）と地域が連携した取組の実現に向け、計3回開催した。

以下では本勉強会の成果を整理した。

【勉強会の成果】

①沖縄市への観光客（主にスポーツ観戦者）の特性、課題の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度事業にて実施したスポーツ・イベント時のアンケート調査や携帯GPS調査の結果報告を、勉強会時に共有できた。 ・上記の調査結果により前年度の取組効果を把握し、それを踏まえた地域課題の検討が可能となった。
②先進的な事例の紹介による、スポーツを活用した取組のイメージ共有	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回の勉強会における先進事例（さいたま市）の紹介により、スポーツを活用したまちづくりのための具体的な取組イメージが共有できた。 ・また、沖縄市でも実施できる取組のアイデアが得られた。
③プロスポーツ団体と市内関係者の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> ・本勉強会が、市内に拠点を置くプロスポーツ2団体と近隣地域・施設とのコミュニケーションの機会となり、さらなる連携の促進につながった。
④現状の取組状況と今後の課題などの整理・共有	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の勉強会で提案された取組について、本勉強会を通じて取組状況を整理・共有できたとともに、各取組を実施する上での課題や展望・連携方法についても議論し、共有できた。

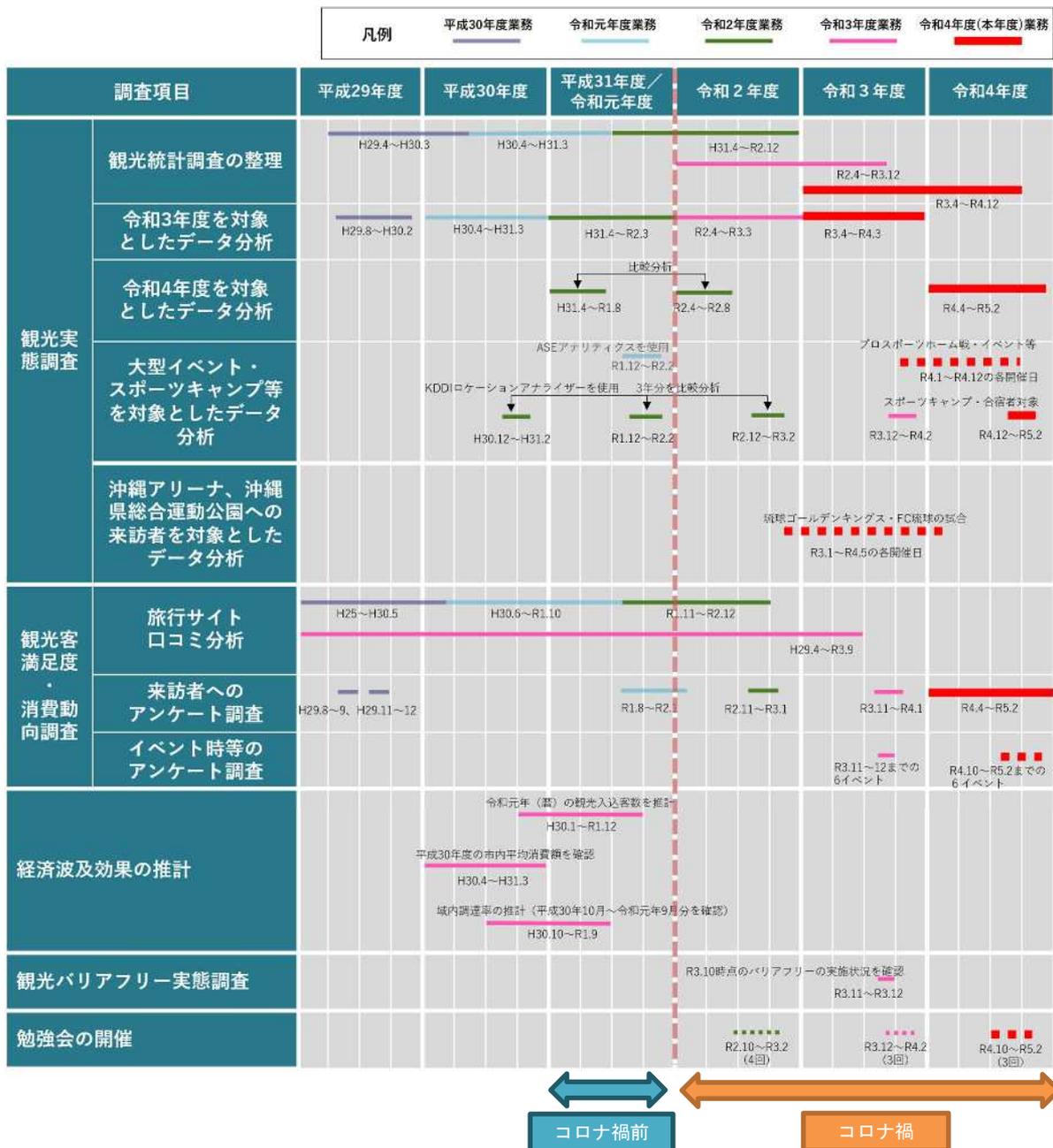
本勉強会の実施については、上記にあるように、プロスポーツ団体と地域関係者間の連携促進などの効果が確認でき、沖縄市の観光振興に寄与すると考えられる。

また、参加者より継続を求める声も多くあげられたため、今後の沖縄市観光の状況に合わせたテーマで継続的に開催検討をすることが重要である。

第5章 マーケティング分析

各種調査結果を踏まえ、沖縄市を訪れる観光客の動態や特徴、沖縄市を訪れる来訪者像の詳細分析等を取りまとめるとともに、これらの検討を通じて沖縄市における観光施策の効果検証を行った。

令和3年度業務（下図ピンク線）の取りまとめでは、調査結果の概要を整理し、コロナ禍前・コロナ禍での観光動態を含めた分析結果を取りまとめている。令和4年度も昨年度に引き続きコロナ禍であるものの、新型コロナウイルスによる行動制限は少しずつ緩和されてきた状況にあると考えられる。よって今年度業務（下図赤線）では、昨年度およびコロナ禍前である令和元年度の観光動態との比較分析を行い、コロナ禍前～コロナ禍における観光動態の特徴を整理する。



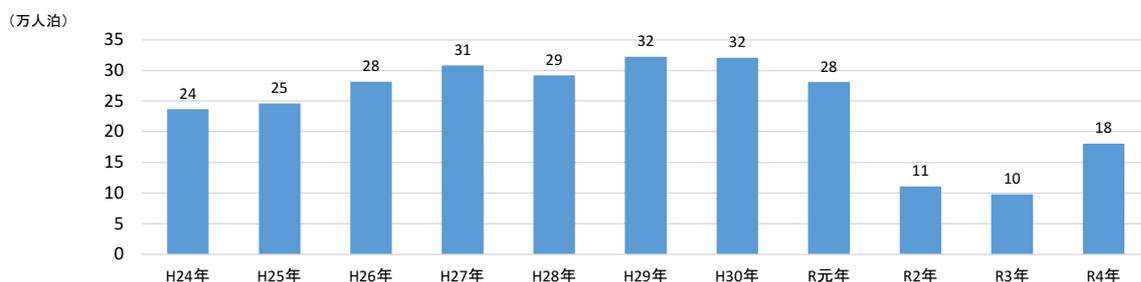
5-1. 今年度（令和4年度）調査結果の概要

今年度の調査結果の概要及び、過年度調査結果を踏まえ、コロナ禍前～コロナ禍における観光動態の変化を取りまとめた。

（1）観光実態調査（観光客数、属性、観光形態等）

①延べ宿泊者数の年別推移（平成24年～令和4年）

○継続的に取得している市内宿泊施設（10施設）をみると、年間宿泊者数は約18万人泊であり、令和3年と比較すると大きく増加しているものの、令和元年の水準には至っていない。

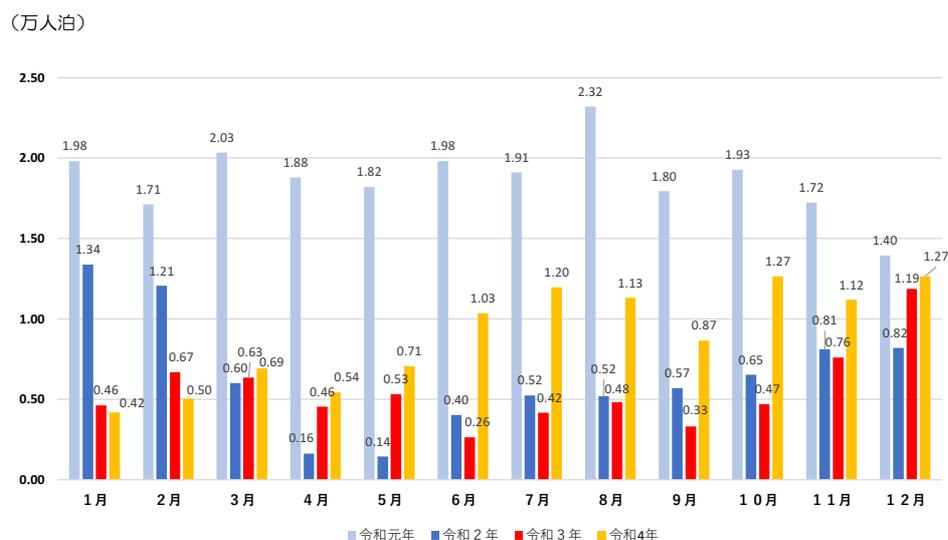


【沖縄市における延べ宿泊数の推移（平成24年～令和4年）※暦年】

観光統計調査の整理より

②沖縄市における延べ宿泊者数の月別推移比較（令和元年～令和4年）

○継続的に月別の延べ宿泊者数を取得している市内宿泊施設（6施設）を対象にみると、令和4年では令和2年、令和3年と比較して多くの月で宿泊者数が増加している。
○また、令和4年12月には1.27万人とコロナ禍前の令和元年に迫っている。

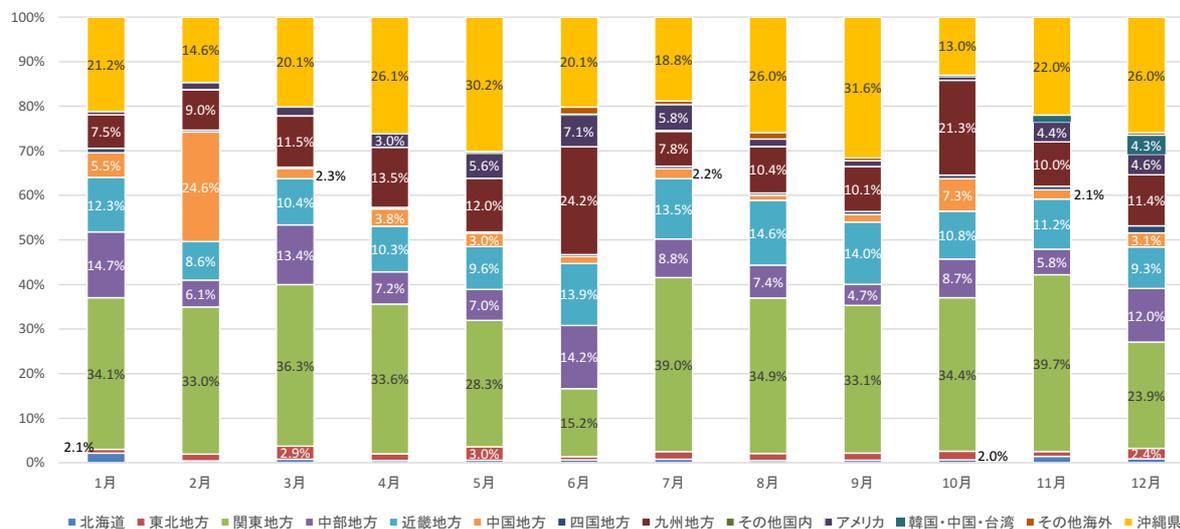


【沖縄市における延べ宿泊者数の月別推移】

観光統計調査の整理より

③ 沖縄市内延べ宿泊者の居住地別・月別の割合（令和4年）

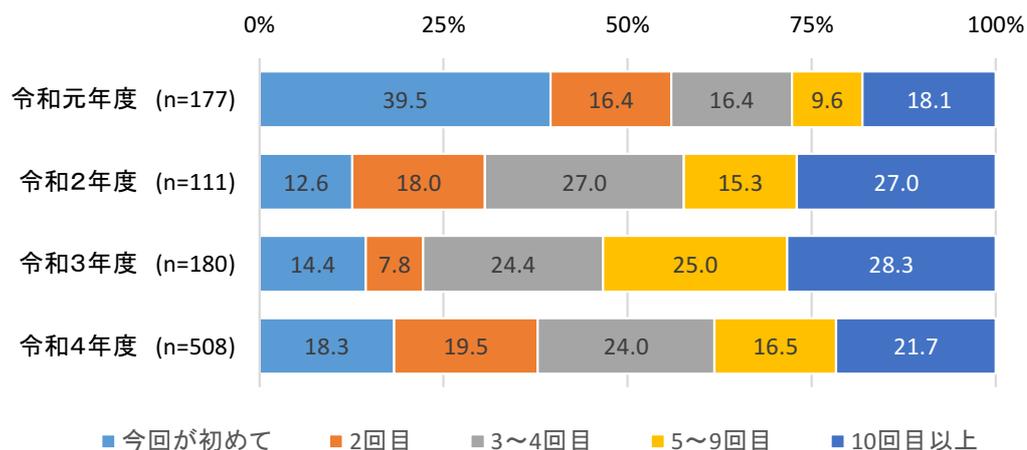
○令和4年は年間を通じて、沖縄県のほか、関東地方、九州地方、近畿地方が多い傾向にある。
 ○2月は中国地方が関東地方の次に多く、広島東洋カープの沖縄キャンプの影響と考えられる。



【市内宿泊者の居住地（地方区分別）割合（令和4年）】

④ 沖縄市に訪れた観光客（国内県外客）の来訪回数（令和元年度～令和4年度）

○令和元年度は新規来訪者が約4割を占めるのに対し、令和4年度は2回目以上のリピーターが8割を超えている。
 ○また令和4年度は、令和2年度、令和3年度と比較して1～2回目の来訪者の割合が増加し、3回目以上のリピーターの割合が減少している。



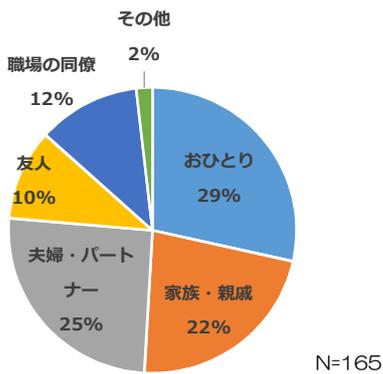
【沖縄市に訪れた観光客（国内県外客）の来訪回数（令和元年度～令和4年度）】

観光統計調査の整理より

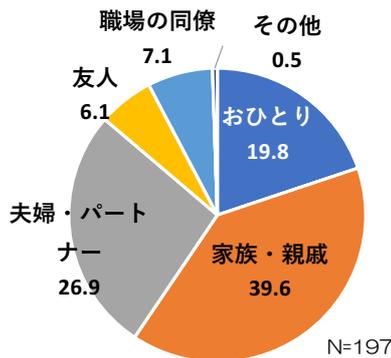
⑤沖繩市に訪れた観光客（県外）の同行者・同行人数（令和元年度、令和3年度、令和4年度）

○令和4年度における同行者は、「家族・親戚」が39.6%と最も多く、次いで「夫婦・パートナー」が26.1%、「おひとり」が18.6%である。令和元年度と比較すると、「おひとり」が10%程度減少し、「家族・親戚」が18%程度増加していることが分かる。

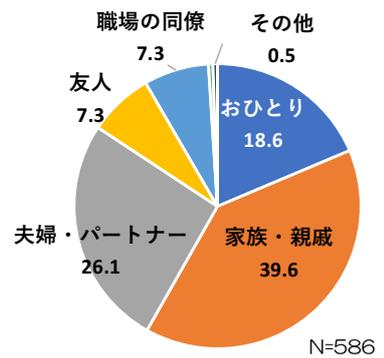
○また、同行人数でも、令和4年度は令和元年度と比較して3人以上の割合が14%程度増加している。（令和元年度では「沖縄こどもの国」、「東南植物楽園」を調査箇所としていないため、結果は取得されたサンプルに依存していると思われる。）



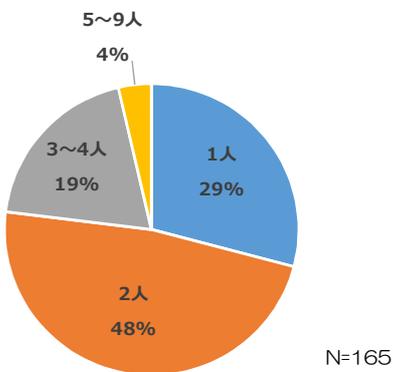
【同行者（令和元年度）】



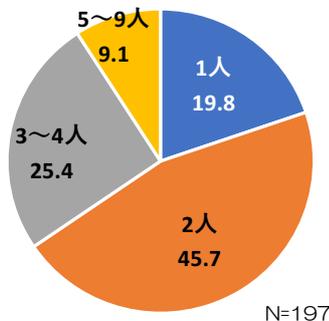
【同行者（令和3年度）】



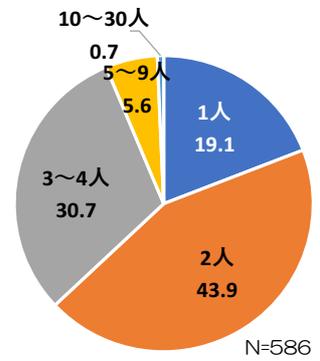
【同行者（令和4年度）】



【同行人数（令和元年度）】



【同行人数（令和3年度）】



【同行人数（令和4年度）】

来訪者へのアンケート調査より

⑥ 沖縄市に訪れた観光客の旅程全体の宿泊数・域内宿泊率（令和元年度～令和3年度）

○令和3年度において、沖縄市へ訪れた観光客の旅程全体の宿泊数は、2泊以上が79.0%を占めており、令和元年度と比較して旅程全体で2泊以上する観光客の割合が13.0%減少している。コロナ禍により短期間での旅行が増加していると考えられる。

○また、令和3年度においては、沖縄市に訪れた観光客のおよそ8割以上が市内で宿泊しておらず、沖縄市での滞在日数の増加が課題であると考えられる。

旅程別 来訪者数・構成比

期間	来訪者数	日帰り	1泊	2泊以上
通年	3,684	119	655	2,910
2021年4～6月	587	21	127	439
2021年7～9月	638	32	128	477
2021年10～12月	1,539	40	263	1,235
2022年1～3月	920	25	136	759



・ 2泊以上が79.0%（令和元年度より13.0%減少）

宿泊場所区分別 宿泊人泊数・構成比

期間	人泊数	域内宿泊	域外宿泊
通年	8,254	1,407	6,847
2021年4～6月	1,208	223	985
2021年7～9月	1,450	263	1,187
2021年10～12月	3,509	535	2,974
2022年1～3月	2,088	386	1,702

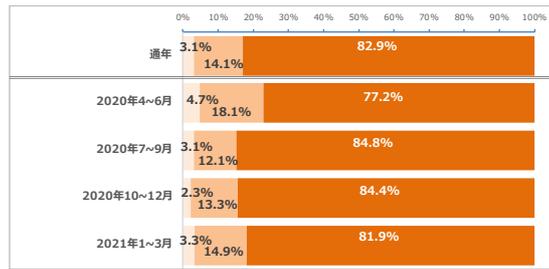


・ 8割以上が域外での宿泊

【沖縄市に訪れた観光客の旅程全体の宿泊数・域内宿泊率（令和3年度）】

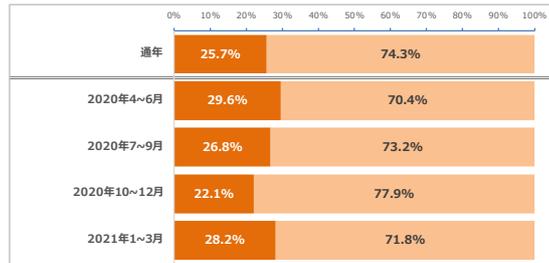
旅程別 来訪者数・構成比

期間	来訪者数	日帰り	1泊	2泊以上
通年	4,273	130	601	3,542
2020年4~6月	609	29	110	470
2020年7~9月	1,045	33	126	886
2020年10~12月	1,622	37	216	1,370
2021年1~3月	998	32	148	817



宿泊場所区分別 宿泊人泊数・構成比

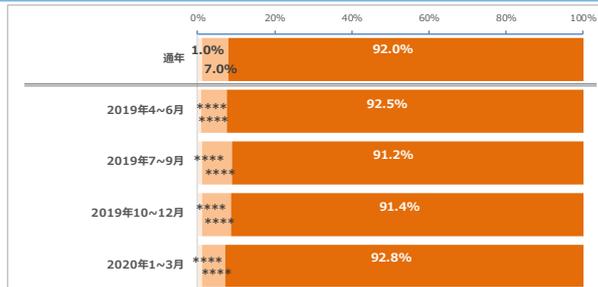
期間	人泊数	域内宿泊	域外宿泊
通年	11,671	3,001	8,670
2020年4~6月	1,538	455	1,083
2020年7~9月	3,065	822	2,243
2020年10~12月	4,431	980	3,451
2021年1~3月	2,637	743	1,894



【沖縄市に訪れた観光客の旅程全体の宿泊数・域内宿泊率（令和2年度）】

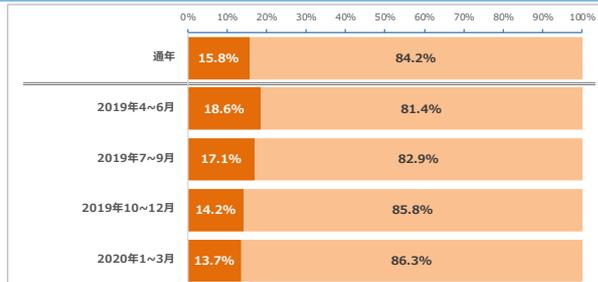
旅程別 来訪者数・構成比

期間	来訪者数	日帰り	1泊	2泊以上
通年	2,378	25	166	2,188
2019年4~6月	559	****	****	518
2019年7~9月	534	****	****	487
2019年10~12月	668	****	****	611
2020年1~3月	617	****	****	573



宿泊場所区分別 宿泊人泊数・構成比

期間	人泊数	域内宿泊	域外宿泊
通年	7,063	1,115	5,948
2019年4~6月	1,660	309	1,351
2019年7~9月	1,651	282	1,368
2019年10~12月	1,928	274	1,653
2020年1~3月	1,824	249	1,574



【沖縄市に訪れた観光客の旅程全体の宿泊数・域内宿泊率（令和元年度）】

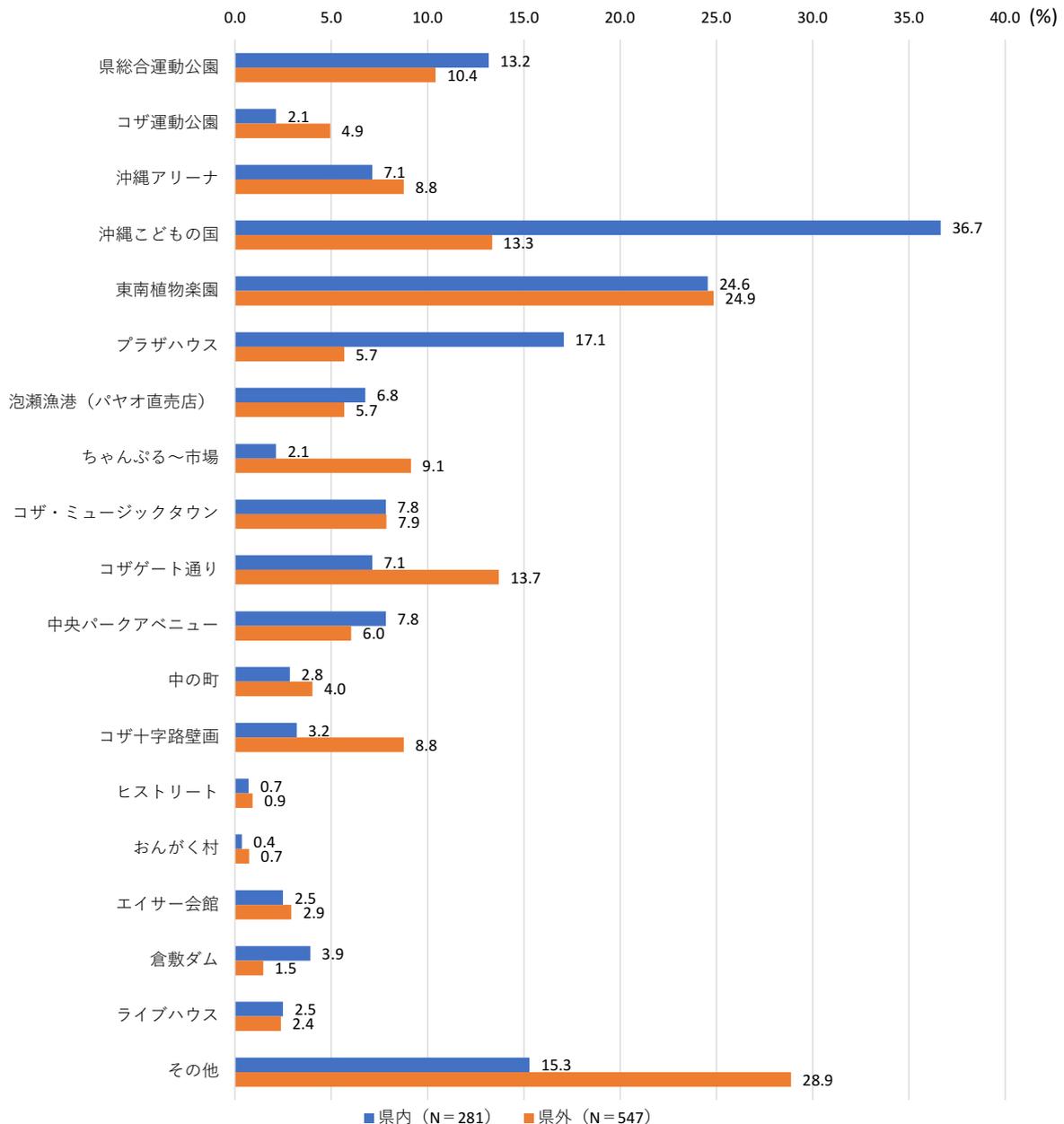
携帯 GPS 調査より

(2) 観光動態・満足度（立ち寄り先、属性、観光形態等）

①市内の立ち寄り状況（令和4年度）

○令和4年度の沖縄市内で訪れた場所は、県内客では「沖縄こどもの国」が36.7%と最も多く、次いで「東南植物楽園」が24.6%となっている。

○県外客では、「東南植物楽園」が24.9%と最も多く、次いで「コザゲート通り」が13.7%となっている。



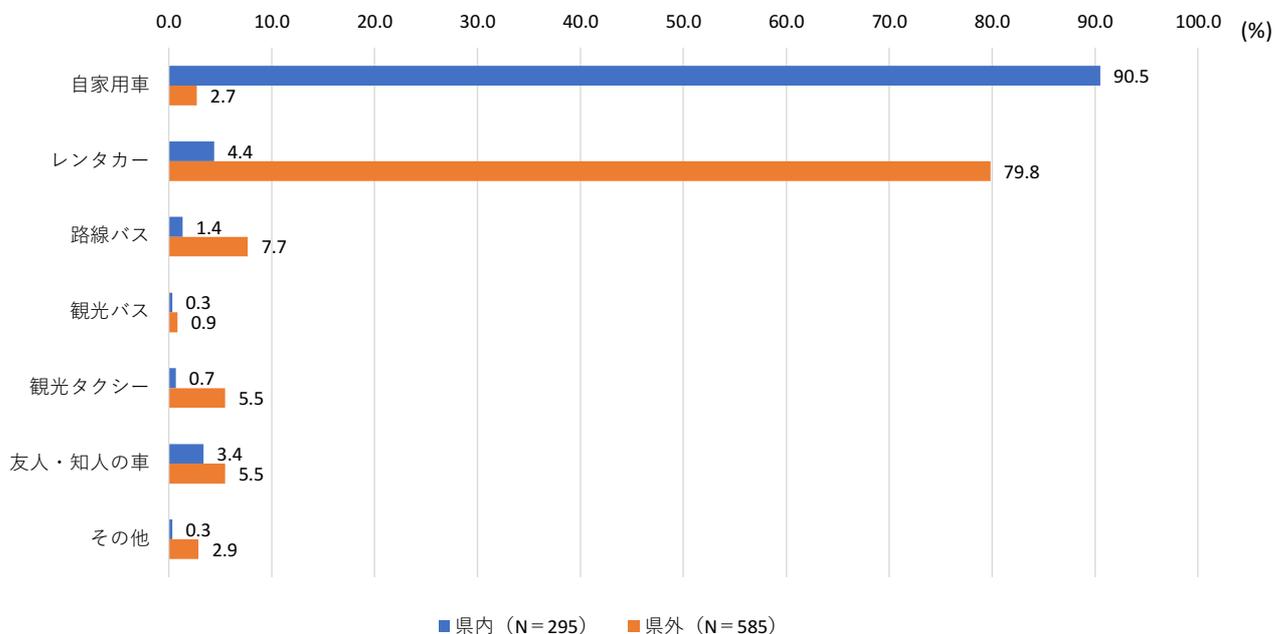
【市内の立ち寄り状況（令和4年度）】

※市内宿泊施設（11施設）、市内観光施設（3施設）にて調査

来訪者へのアンケート調査より

②沖繩市までの交通手段および市内の交通手段（令和4年度）

○令和4年度の沖繩市までの交通手段および市内の交通手段は、県内客では、「自家用車」が90.5%と最も多く、次いで「レンタカー」が4.4%となっている。
 ○県外客では、「レンタカー」が79.8%と最も多く、次いで「路線バス」が7.7%となっている。



【沖繩市までの交通手段および市内の交通手段（県内・県外）（令和4年度）】

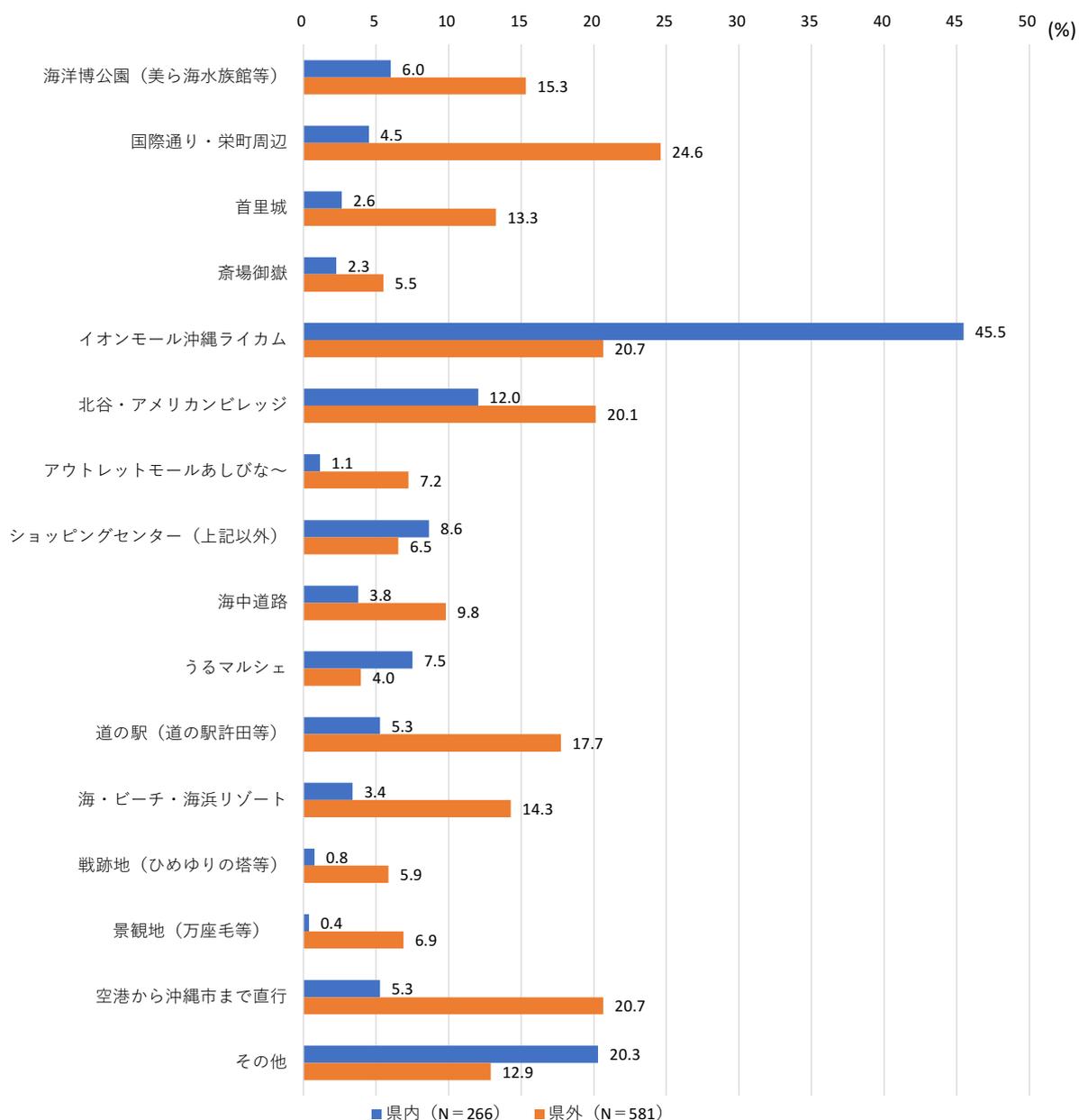
来訪者へのアンケート調査より

③沖縄市の前に訪れる場所（令和元年度～令和4年度）

○沖縄市に訪れる「前」に訪れる場所は、令和4年度の県内客では、「イオンモール沖縄ライカム」が45.5%と最も多く、次いで「北谷・アメリカンビレッジ」が12.0%となっている。

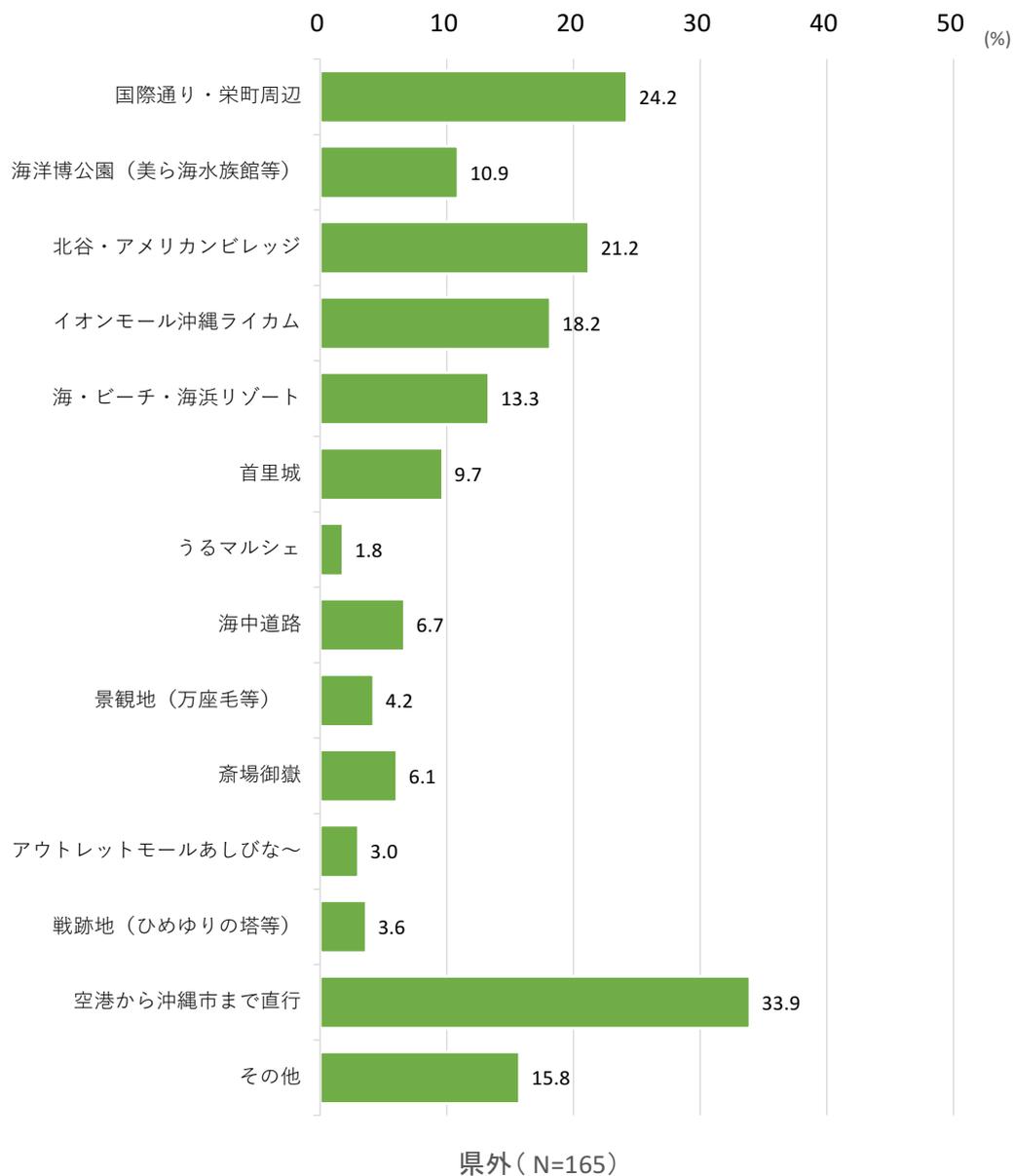
○県外客では、「国際通り・栄町」が24.6%と最も多く、次いで「イオンモール沖縄ライカム」、「空港から沖縄市まで直行」が20.7%となっている。

○また、令和元年度と比較すると県外の「空港から沖縄市まで直行」は13.2%減少しており、他の場所へ立ち寄りながら沖縄市へ来訪する人の割合が増えていると考えられる。



【沖縄市の前に訪れる場所（令和4年度）】

来訪者へのアンケート調査より



【沖縄市の前に訪れる場所（令和元年度）】

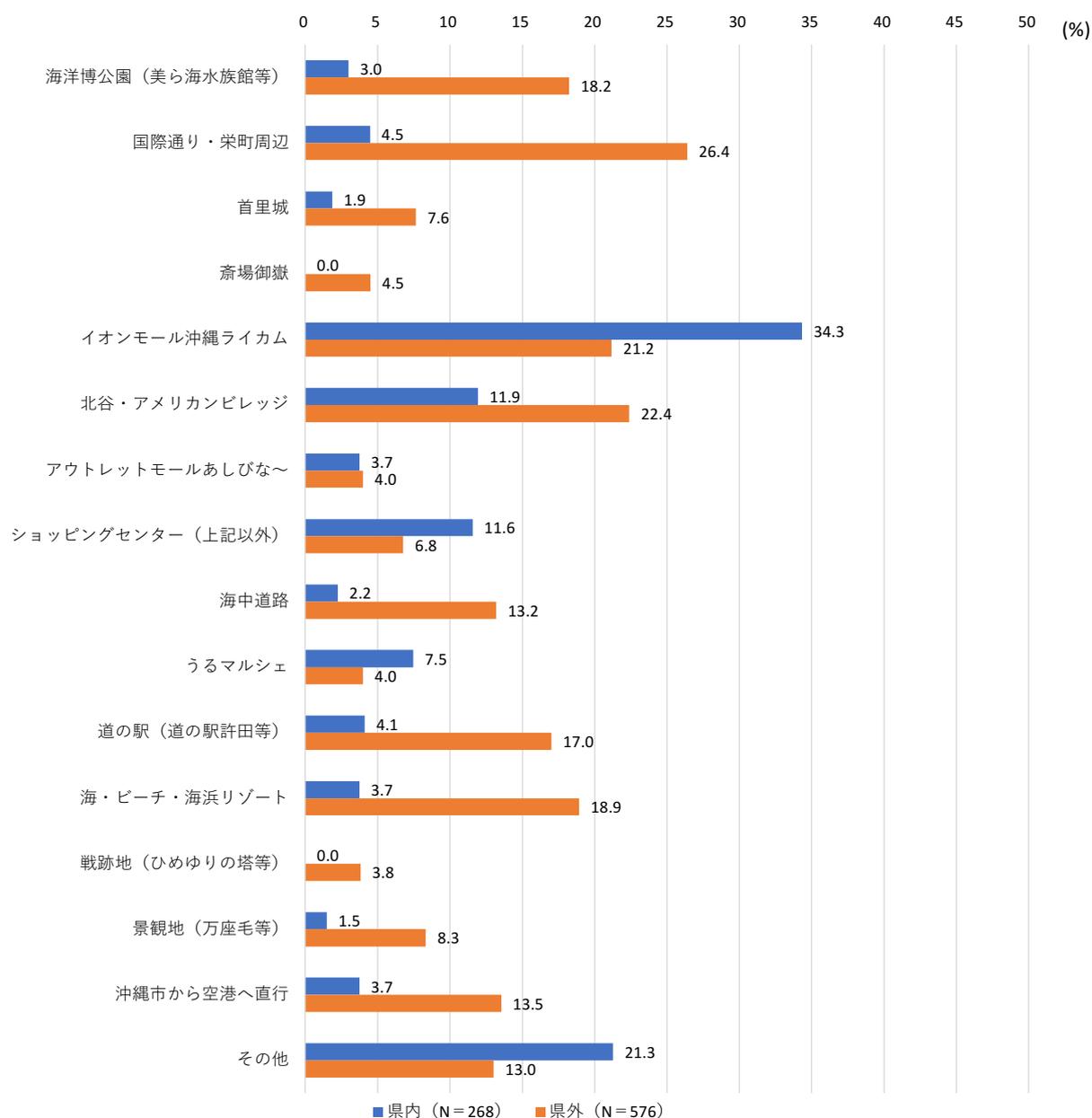
※令和元年度は市内宿泊者のみを対象
来訪者へのアンケート調査より

④沖縄市の後に訪れた場所（令和元年度～令和4年度）

○沖縄市の「後」に訪れた場所は、令和4年度の県内客では、「イオンモール沖縄ライカム」が34.3%と最も多く、次いで「北谷・アメリカンビレッジ」が11.9%となっている。

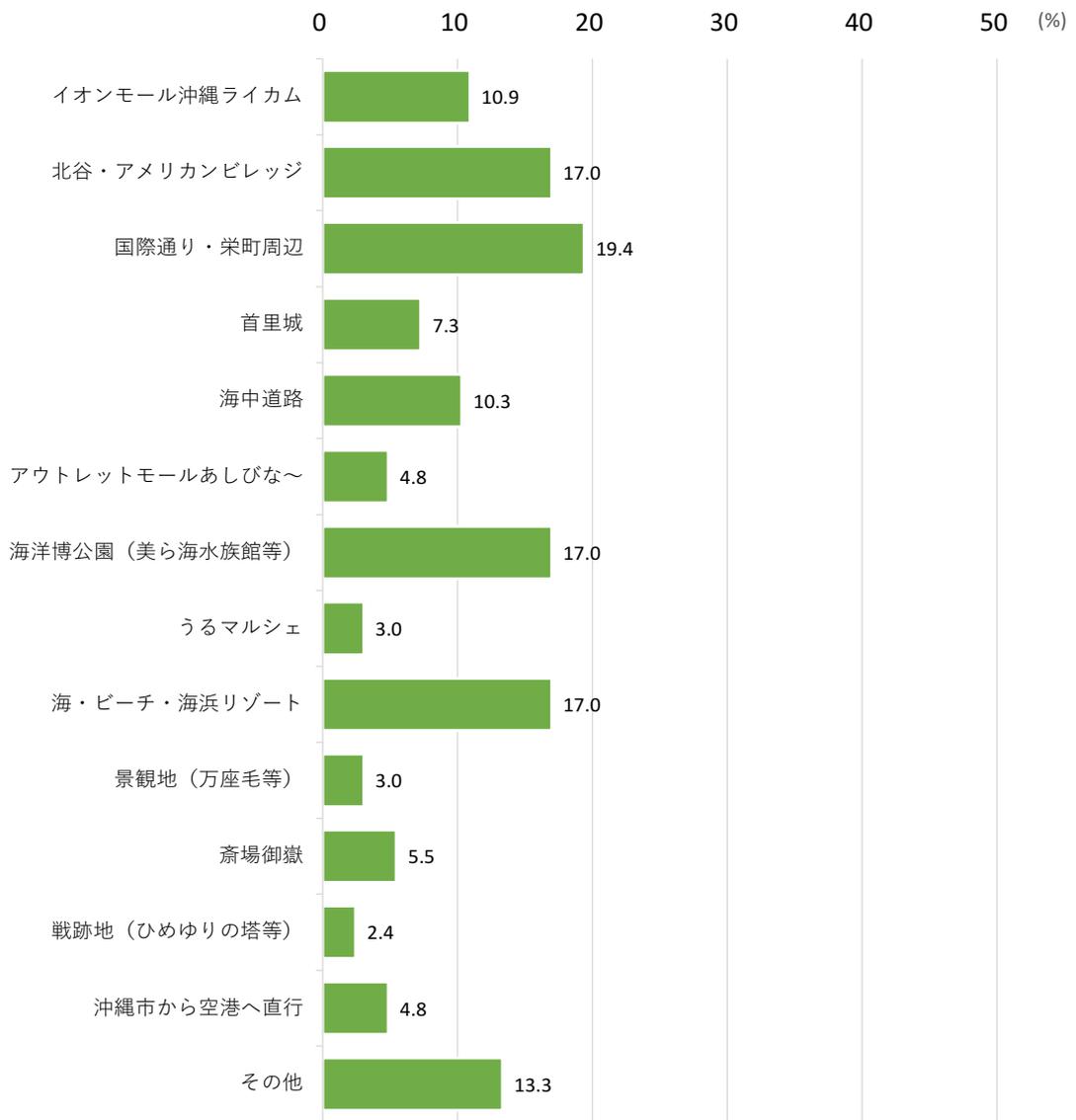
○県外客では、「国際通り・栄町」が26.4%と最も多く、次いで「北谷・アメリカンビレッジ」が22.4%となっている。

○県外客について令和元年度と比較すると、「国際通り・栄町周辺」、「イオンモール沖縄ライカム」、「北谷アメリカンビレッジ」へ訪れた割合は5%以上増加しているものの、「沖縄市から空港へ直行」についても8.7%増加している。



【沖縄市の後に訪れた場所（令和4年度）】

来訪者へのアンケート調査より



県外(N=165)

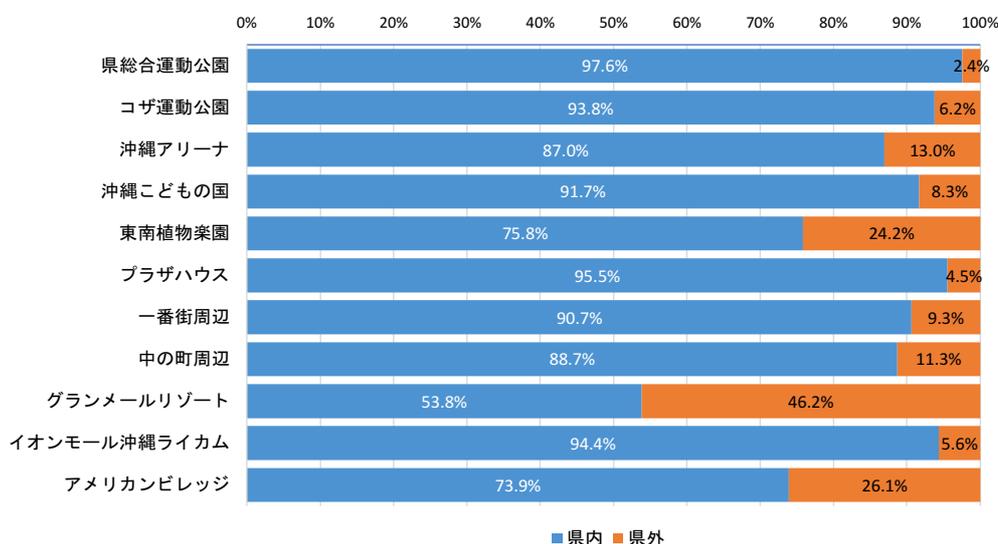
【沖縄市の後に訪れた場所（令和元年度）】

※令和元年度は市内宿泊者のみを対象
来訪者へのアンケート調査より

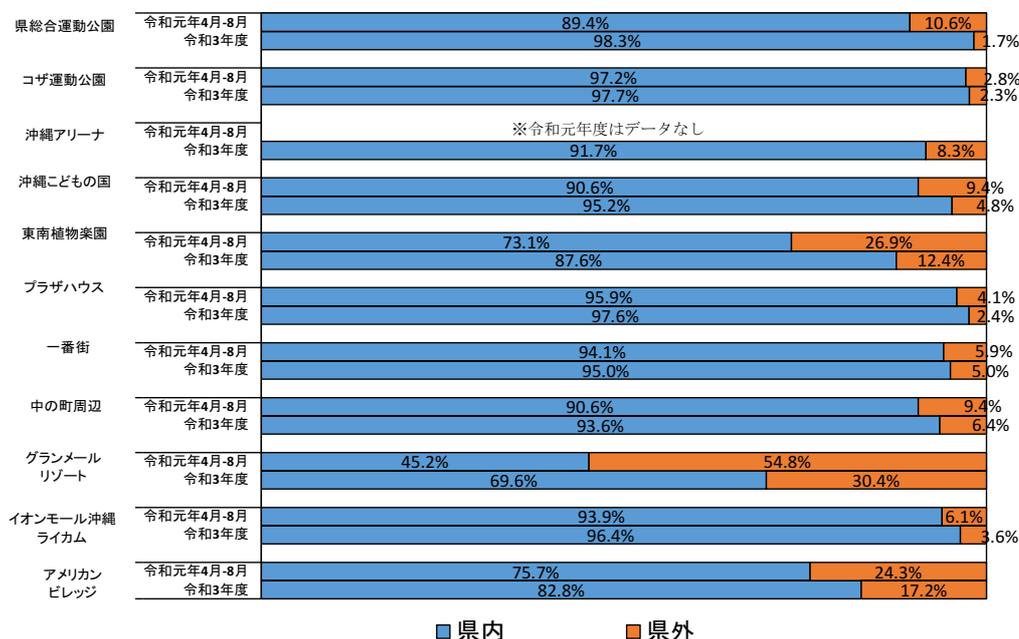
⑤各エリアにおける滞在者の居住地割合（令和元年度、令和3年度、令和4年度（4～8月））

○県外観光客の多いエリアは、「グランメールリゾート」、「アメリカンビレッジ」、「東南植物楽園」の順となり、令和4年度ではいずれも20%を超えている。

○令和3年度と比較すると、令和4年度では全ての施設で県外客の割合が増加しており、令和元年度（コロナ禍前）の水準に近づいている。



【エリア別の滞在者の居住地割合（令和4年度通年）】



【エリア別の滞在者の居住地割合（令和元年度、令和3年度通年4月～8月）】

携帯 GPS 調査より

⑥周遊分析（令和元年度（4月～8月）、令和4年度（4月～6月））

○令和4年度の分析結果では、各観光地から「アメリカンビレッジ」への周遊割合は約2～5割程度確認され、次いで各観光地から「イオンモール沖縄ライカム」への結びつきが強い。市内の観光地間では、「中の町周辺⇔一番街」で20%を超えており、結びつきが強くなっている。

○令和元年度の分析結果でも、対象としている季節は異なるものの、同様の傾向にある。結びつきの強い周遊ルート間での情報発信が効果的になると考えられる。

	滞在者数 (県外)	県総合運動公園	コザ運動公園	沖縄アリーナ	沖縄こどもの国	東南植物楽園	ブラザハウス	一番街	中の町周辺	グランメールリゾート	イオンモール沖縄ライカム	アメリカンビレッジ
県総合運動公園	1,414		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	0.0%	5.9%	16.4%	26.8%
コザ運動公園	1,902	0.0%		10.1%	3.4%	3.5%	14.9%	18.4%	23.5%	4.8%	2.9%	24.8%
沖縄アリーナ	4,699	0.0%	4.1%		0.0%	0.4%	0.4%	5.7%	7.9%	1.6%	23.1%	33.0%
沖縄こどもの国	2,228	0.0%	2.9%	0.0%		1.7%	13.5%	1.5%	8.2%	1.1%	25.4%	45.3%
東南植物楽園	4,295	0.0%	1.6%	0.4%	0.9%		1.3%	1.7%	2.3%	1.5%	14.6%	45.1%
ブラザハウス	3,459	0.0%	8.2%	0.6%	8.7%	1.6%		11.7%	20.3%	1.3%	38.0%	43.2%
一番街	5,445	2.3%	6.4%	4.9%	0.6%	1.4%	7.4%		32.9%	1.1%	10.9%	32.6%
中の町周辺	7,715	0.0%	5.8%	4.8%	2.4%	1.3%	9.1%	23.2%		1.6%	18.3%	24.1%
グランメールリゾート	1,903	4.4%	4.8%	3.8%	1.3%	3.3%	2.4%	3.3%	6.6%		22.5%	15.7%
イオンモール沖縄ライカム	20,787	1.1%	0.3%	5.2%	2.7%	3.0%	6.3%	2.9%	6.8%	2.1%		39.8%
アメリカンビレッジ	86,935	0.4%	0.5%	1.8%	1.2%	2.2%	1.7%	2.0%	2.1%	0.3%	9.5%	

【各エリアにおける周遊割合（令和4年度、4月～6月）】

	延べ滞在者数	県総合運動公園	コザ運動公園	沖縄こどもの国	東南植物楽園	ブラザハウス	コザ商店街周辺	中の町周辺	グランメールリゾート	イオンモール沖縄ライカム	アメリカンビレッジ
県総合運動公園	13,207		1.6%	2.6%	0.3%	0.3%	5.6%	4.1%	4.9%	20.9%	19.2%
コザ運動公園	4,245	4.9%		2.6%	2.7%	1.8%	8.4%	16.5%	1.2%	23.7%	29.1%
沖縄こどもの国	7,781	4.3%	1.4%		3.6%	2.0%	4.0%	5.9%	4.0%	29.1%	23.5%
東南植物楽園	13,971	0.3%	0.8%	2.0%		0.3%	0.7%	0.7%	2.9%	5.1%	15.0%
ブラザハウス	3,712	1.0%	2.1%	4.1%	1.1%		9.5%	19.0%	2.3%	24.6%	37.0%
コザ商店街周辺	9,232	8.0%	3.9%	3.4%	1.1%	3.8%		43.3%	2.6%	27.9%	25.9%
中の町周辺	16,627	3.3%	4.2%	2.8%	0.6%	4.3%	24.1%		2.1%	20.3%	21.3%
グランメールリゾート	10,322	6.3%	0.5%	3.0%	3.9%	0.8%	2.4%	3.4%		27.2%	31.2%
イオンモール沖縄ライカム	63,187	4.4%	1.6%	3.6%	1.1%	1.4%	4.1%	5.3%	4.4%		29.2%
アメリカンビレッジ	200,190	1.3%	0.6%	0.9%	1.0%	0.7%	1.2%	1.8%	1.6%	9.2%	

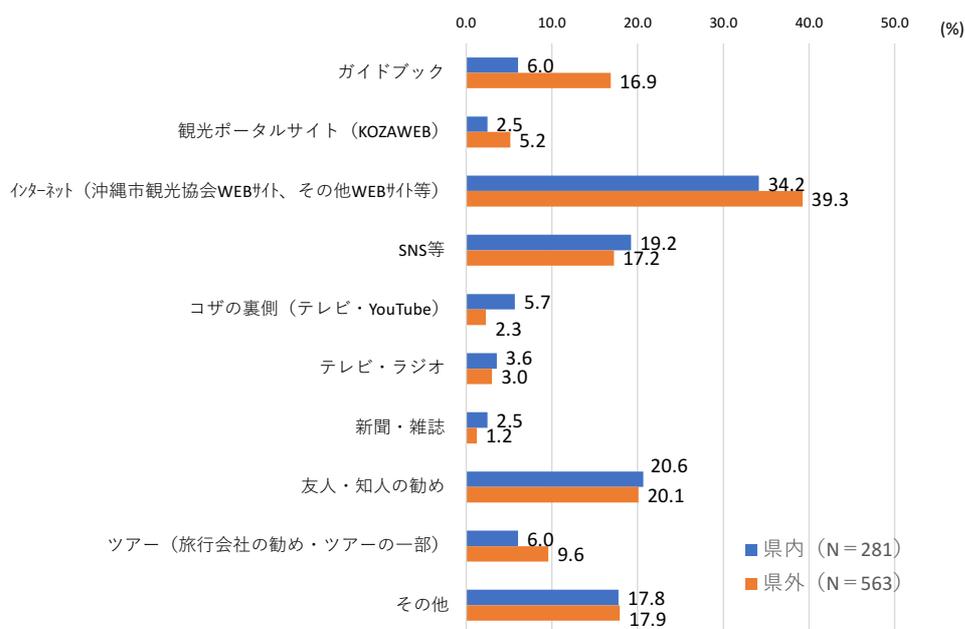
【各エリア別の滞在者の周遊割合（令和元年度、4月～8月）】

※令和4年度調査における「一番街」は令和元年度調査の「コザ商店街周辺」にあたる

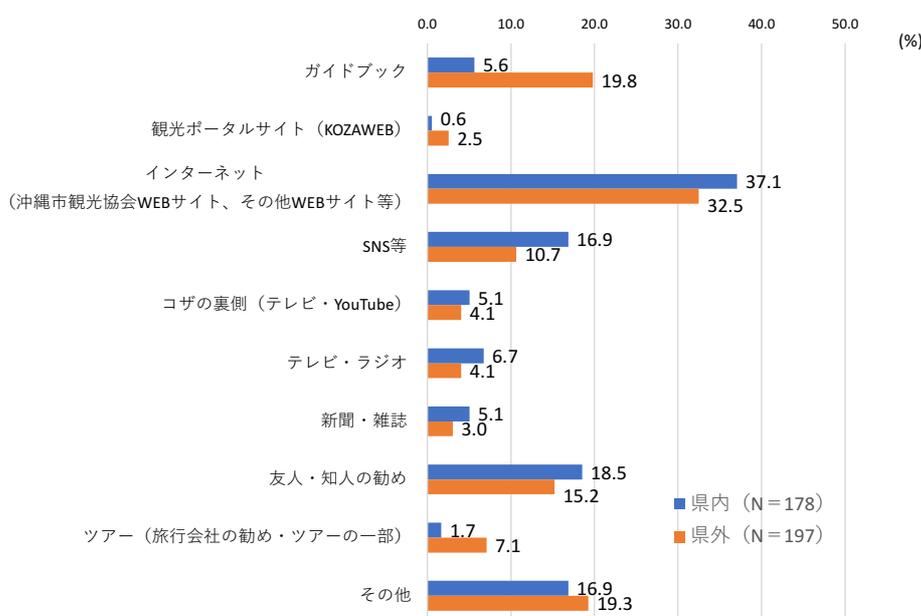
携帯GPS調査より

⑦沖縄市内を訪れるきっかけとなった情報源、媒体（令和3年度、令和4年度）

○沖縄市内を訪れるきっかけとなった情報源、媒体は、令和4年度においては県内客・県外客ともに「インターネット」が最も多く、次いで「友人・知人の勧め」が多い。
 ○県外客について令和3年度と比較すると、令和4年度では「ガイドブック」「コザの裏側」「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌」で減少している一方、「インターネット」「SNS等」「観光ポータルサイト（KOZAWEB）」では増加しており、市や協会にて実施するインターネットやSNSを活用したプロモーションの成果が出ていると考えられる。



【沖縄市内を訪れるきっかけとなった情報源、媒体（県内・県外）（令和4年度）】

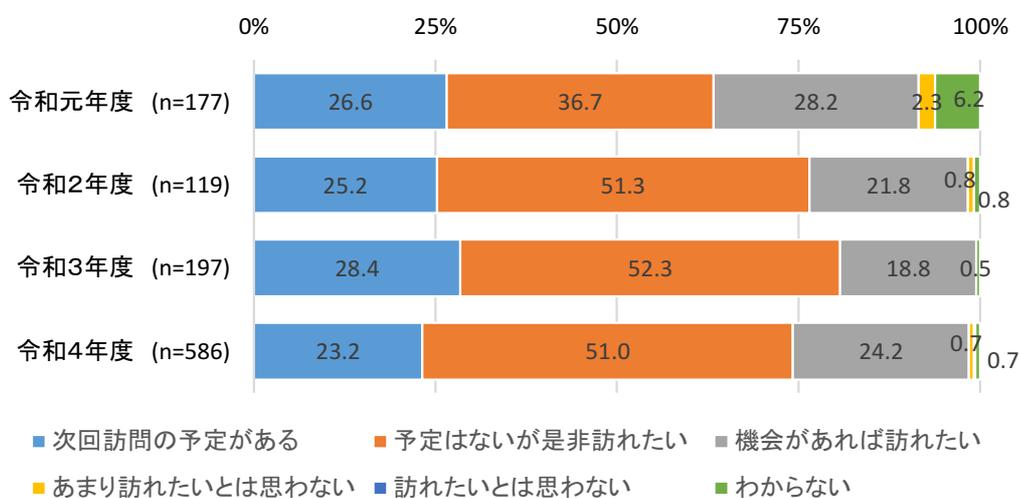


【沖縄市内を訪れるきっかけとなった情報源、媒体（県内・県外）（令和3年度）】

来訪者へのアンケート調査より

⑧ 沖縄市に訪れた観光客の再来訪意向（令和元年度～令和4年度）

○令和4年度の沖縄市の再来訪意向は、訪れたい（来訪の予定＋是非）の割合が74.2%と令和3年度より6.5%減少しており、観光客に対するさらなるおもてなしの体制構築が求められる。

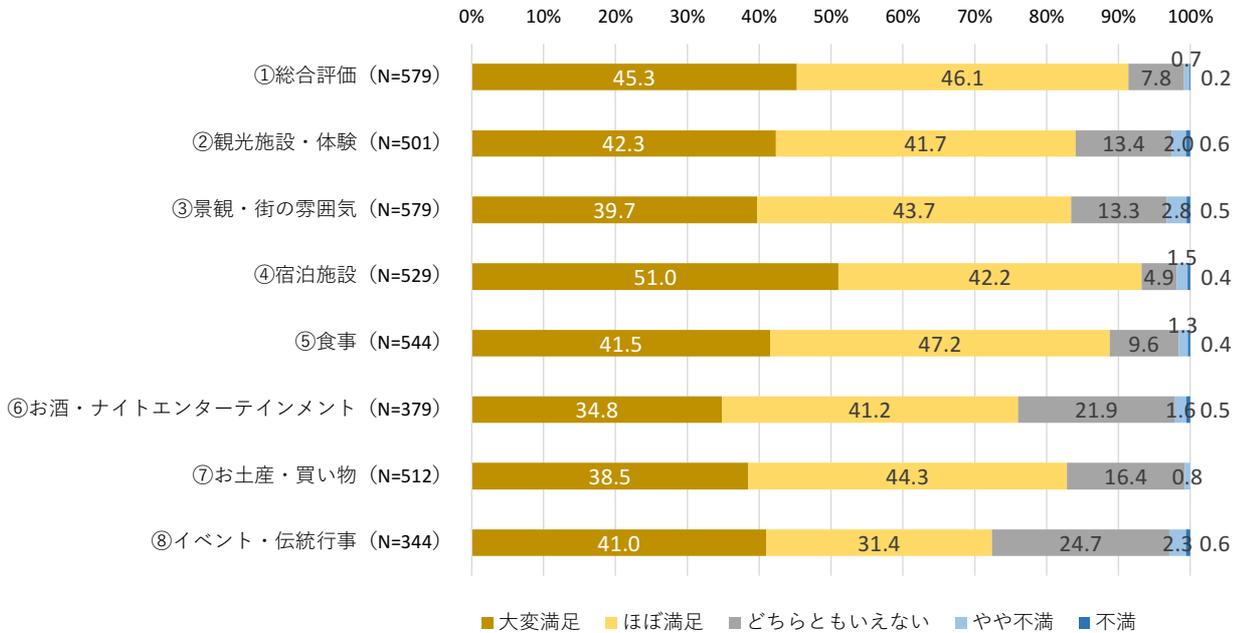


【沖縄市に訪れた国内客（県外客）の再来訪意向（令和元年度～令和4年度）】

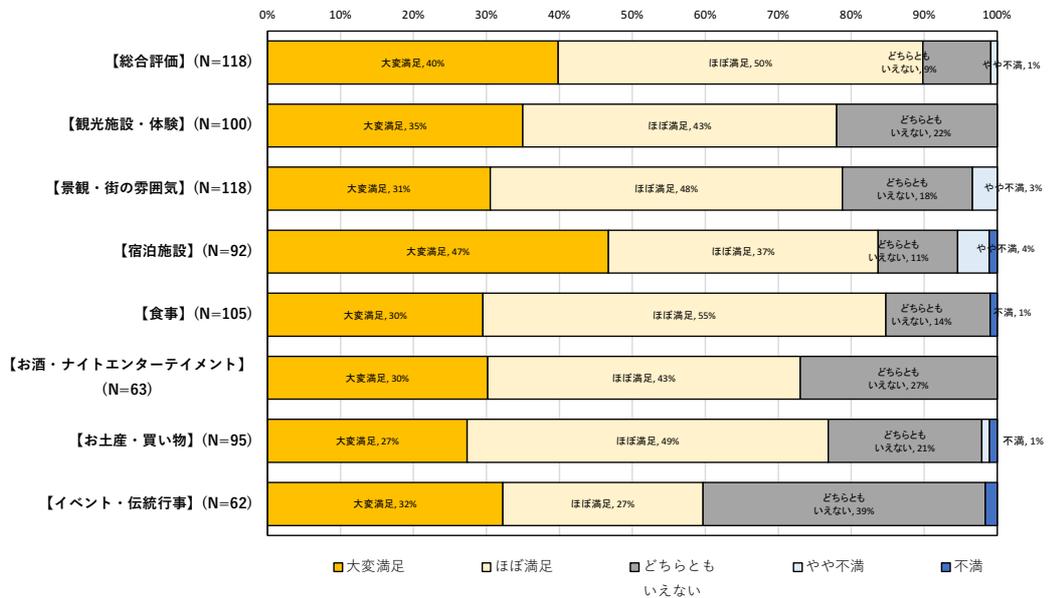
※令和元年度、令和2年度は市内宿泊者のみを対象
来訪者へのアンケート調査より

⑨ 沖縄市に対する県外客の満足度（令和2年度、令和4年度）

○令和4年度の沖縄市に対する県外客の満足度は、総合評価で「大変満足」「ほぼ満足」と回答した人が91.4%であった。
 ○新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度と比較すると、「大変満足」「ほぼ満足」と回答した人が「宿泊施設」で9%程度、「イベント・伝統行事」で13%程度増加しており、宿泊施設での新型コロナウイルスによる制限の緩和や、イベント等の増加が原因と考えられる。



【県外客の沖縄市観光における各項目の満足度（令和4年度）】



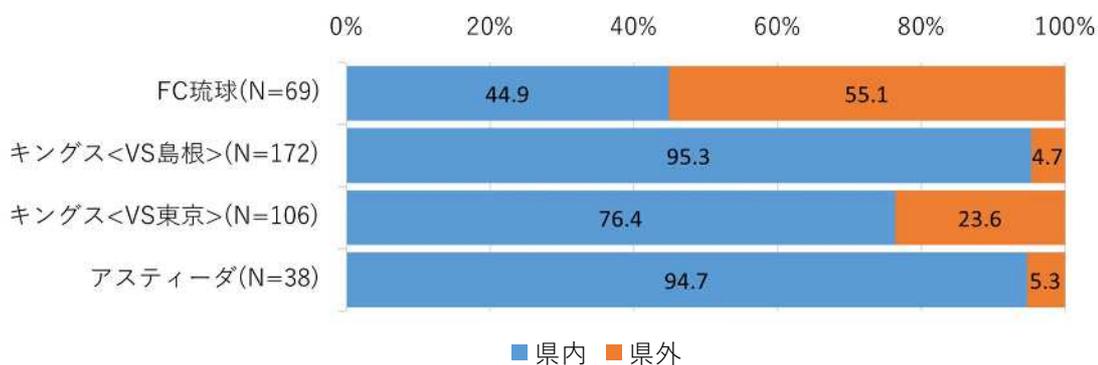
【県外客の沖縄市観光における各項目の満足度（令和2年度）】

来訪者へのアンケート調査より

(3) スポーツイベント時等のアンケート調査

① 試合観戦者の居住地（県内外）（令和4年度）

○令和4年度では、FC琉球の試合を除き、「県内」と回答した割合が多くなっている。
○イベントごとの県内の割合は、FC琉球では44.9%、キングス（VS島根）では95.3%、キングス（VS東京）では76.4%、アスティーダでは94.7%となっており、キングス（VS東京）で県外客が多いことが分かる。



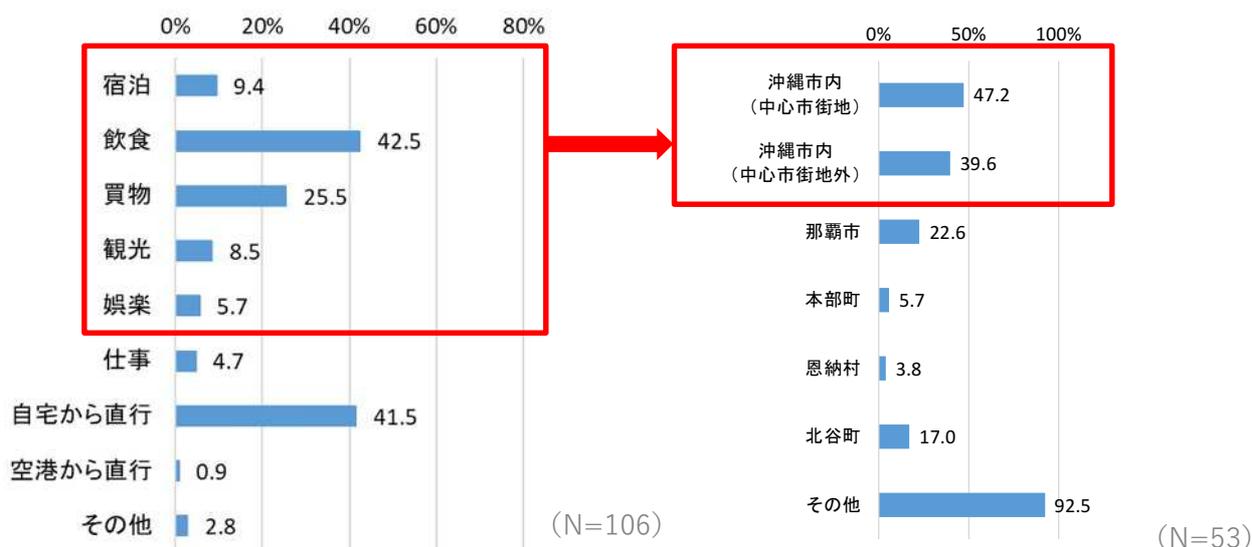
【イベント別の県内外の割合（令和4年度）】

イベント時等のアンケート調査より

②試合観戦前後の行動・消費（令和4年度、キングス（VS 東京））

○県外客の来訪が多かったキングス（VS 東京）にて、試合観戦前後の行動・消費を確認した。
 ○観戦前後の行動としては、「飲食」が最も多く、次いで「買物」が多くなっている。
 ○宿泊・飲食・買物・観光・娯楽を沖縄市内の中心市街地で行った割合は、試合観戦「前」では47.2%、
 試合観戦「後」では39.7%と、試合観戦前に中心市街地へ来訪する人の方が多いことが分かる。

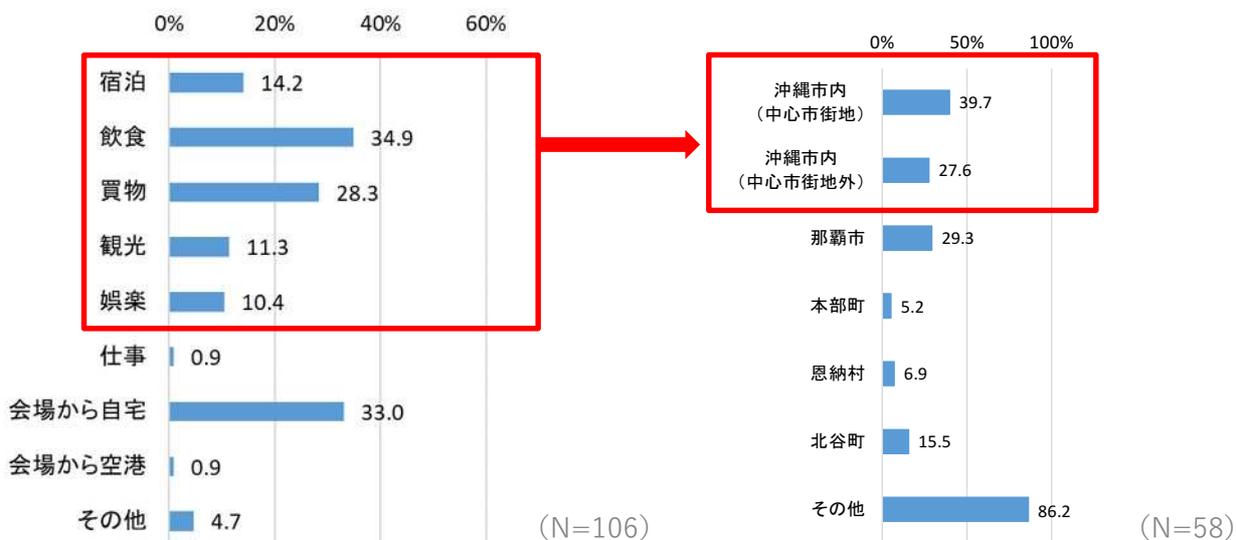
■観戦「前」の行動・消費



【観戦前の行動】

【宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先】

■観戦「後」の行動・消費



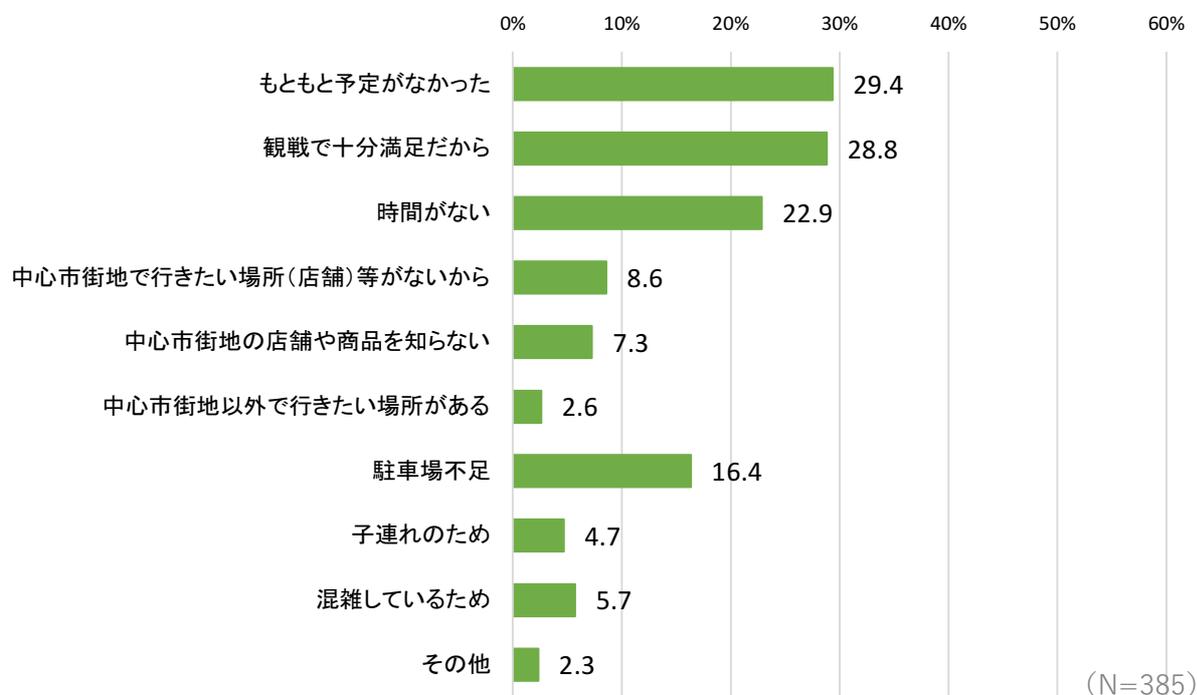
【観戦後の行動】

【宿泊・飲食・買物・観光・娯楽の立ち寄り先】

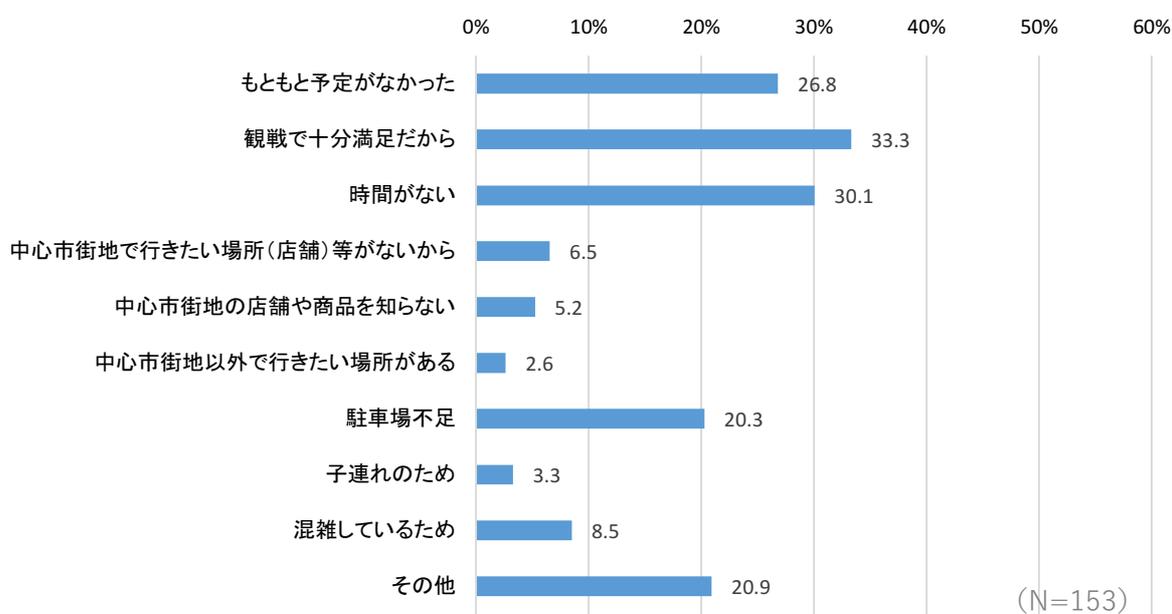
イベント時等のアンケート調査より

③観戦前後に沖縄市に立ち寄らない理由（令和3年度、令和4年度）

○令和4年度では、「もともと予定がなかった」「中心市街地で行きたい場所（店舗）等がないから」「中心市街地の店舗や商品を知らない」と回答した人の割合が令和3年度から増加しており、観戦者に向けた中心市街地のプロモーションにより力を入れる必要があると考えられる。



【観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由（令和4年度）】



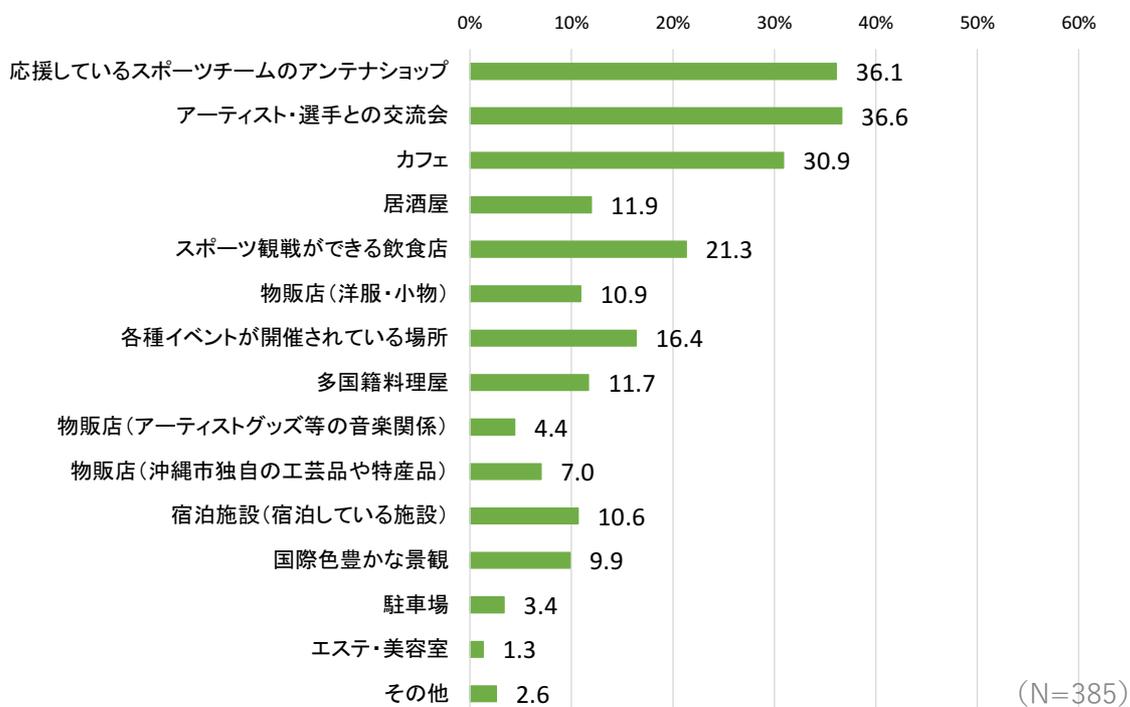
【観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由（令和3年度）】

イベント時等のアンケート調査より

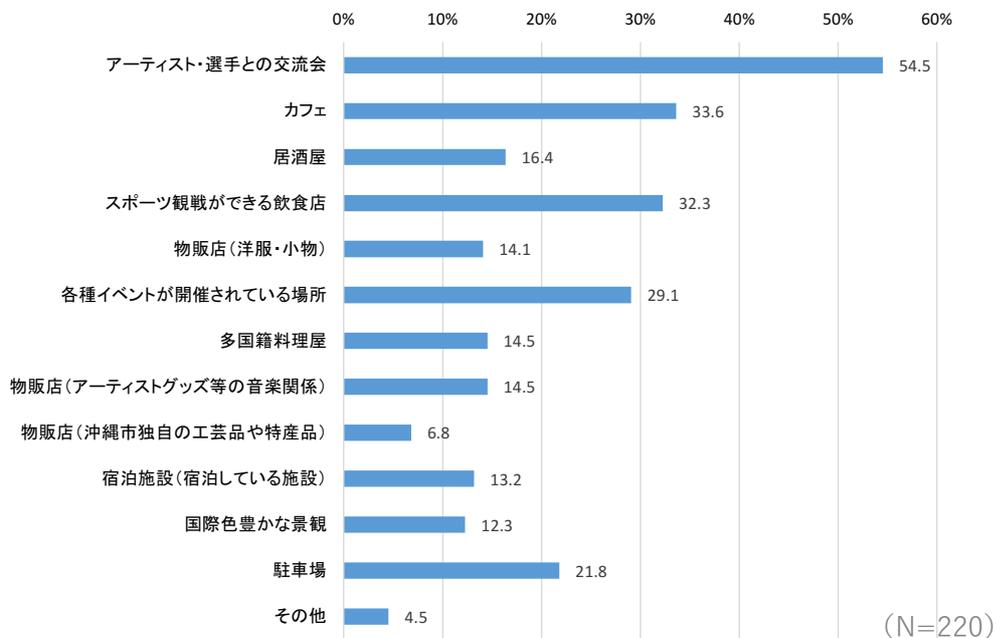
④どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るか（令和3年度、令和4年度）

○令和4年度では、令和3年度に引き続き「アーティスト・選手との交流会」が最も多く、36.6%である。また、令和4年度から追加した項目である「応援しているチームのアンテナショップ」が次いで多く36.1%となっている。

○上記より、スポーツ選手との交流やチームのアンテナショップが求められていると考えられる。



【どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかの割合（令和4年度）】

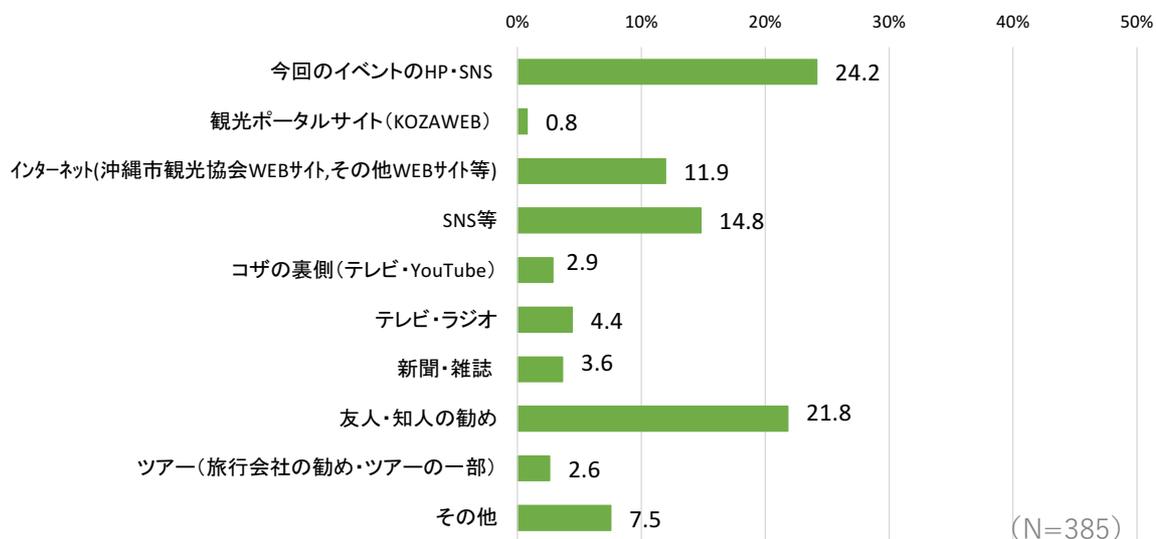


【どのような場所があれば観戦前後に立ち寄るかの割合（令和3年度）】

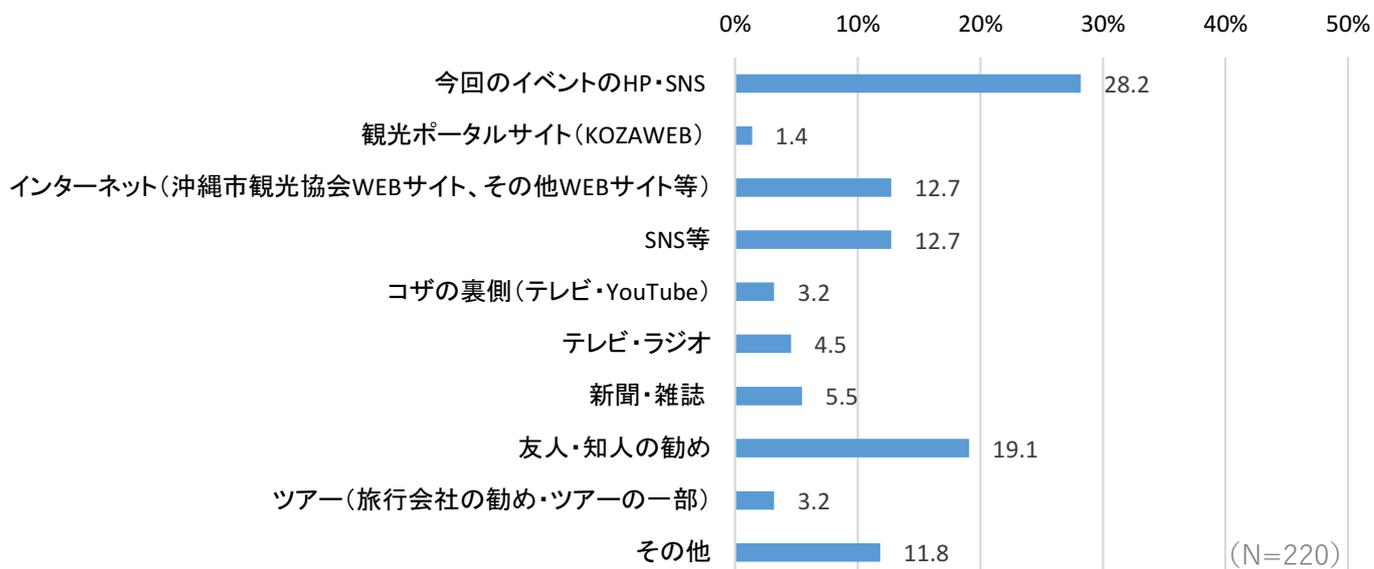
イベント時等のアンケート調査より

⑤ 試合会場以外に沖縄市内に立ち寄ったきっかけ（令和3年度、令和4年度）

- 令和4年度では、令和3年度に引き続き「今回のイベントのHP・SNS」が最も多く24.2%、次いで「友人・知人の勧め」が21.8%となっている。
- 「SNS等」の割合は令和3年度から2.1%増加しているものの、「観光ポータルサイト（KOZAWEB）」では0.6%減少しており、観戦客に向けたKOZAWEBの周知が課題であると考えられる。



【試合会場以外に沖縄市に来訪したきっかけの割合（令和4年度）】

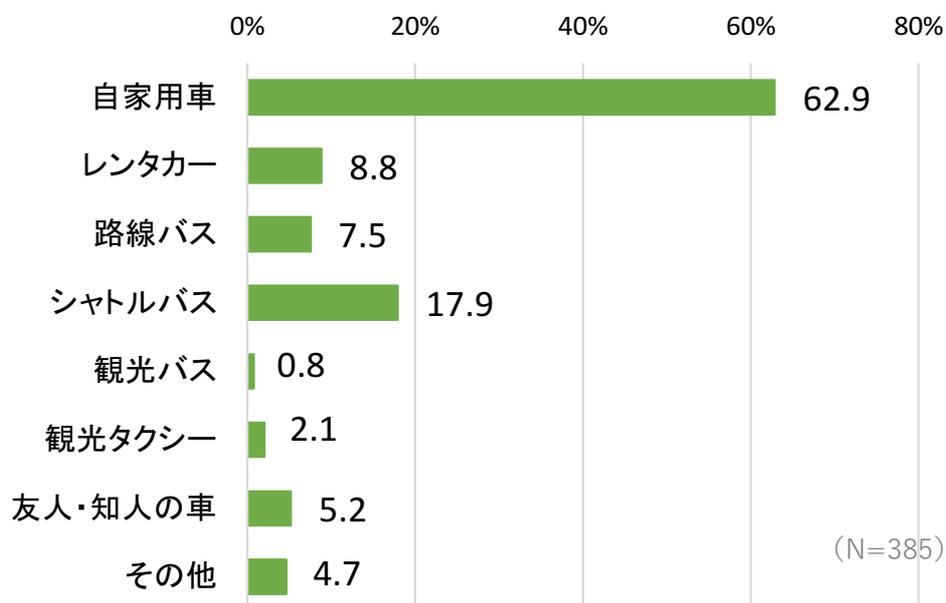


【試合会場以外に沖縄市に来訪したきっかけの割合（キングス戦）（令和3年度）】

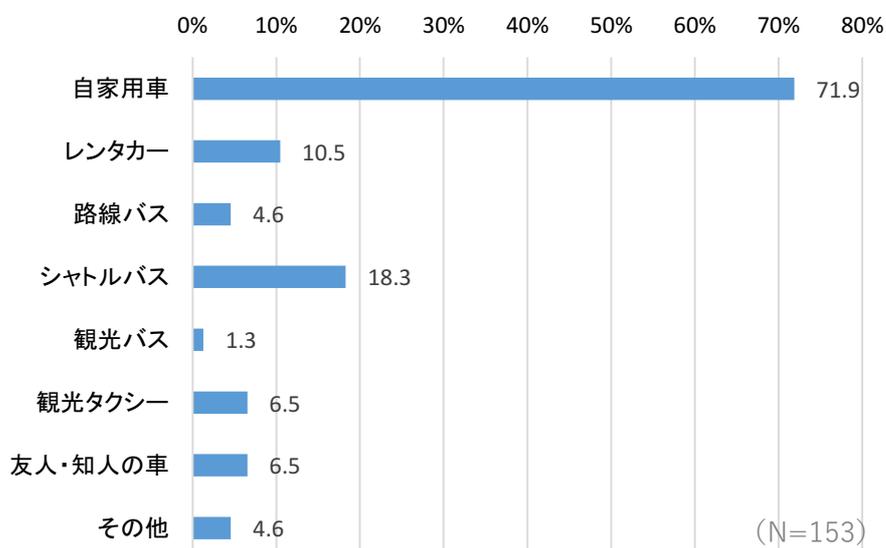
イベント時等のアンケート調査より

⑥試合会場までの交通手段（令和3年度、令和4年度）

○令和4年度の試合会場までの交通手段は、「自家用車」が62.9%と最も多く、次いで「シャトルバス」が17.9%となっている。



【試合会場までの交通手段の割合（令和4年度）】



【試合会場までの交通手段の割合（令和3年度）】

イベント時等のアンケート調査より

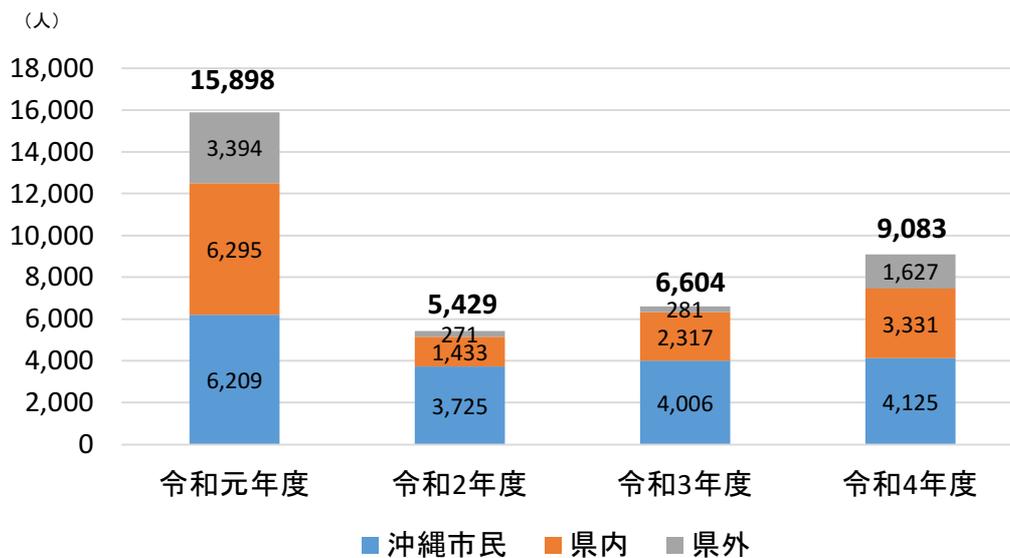
(4) その他事業者調査

① キャンプ会場における滞在者数の年度比較（令和元年度～令和4年度）

○広島東洋カープがキャンプを行っているコザ運動公園（コザしんきんスタジアム・グリーンフィールド）における過去4年分の12月から翌2月末までの滞在者数を以下に示す。

○令和4年度について、令和3年度と比較して市民、県内、県外ともに来訪者数が増加しており、キャンプを目的とした来訪客の回復傾向が伺える。

○一方で、令和元年度と比較すると滞在者数は少なく、コロナ前の水準には至っていない。



【キャンプ会場における滞在者数の推移（直近4カ年）】

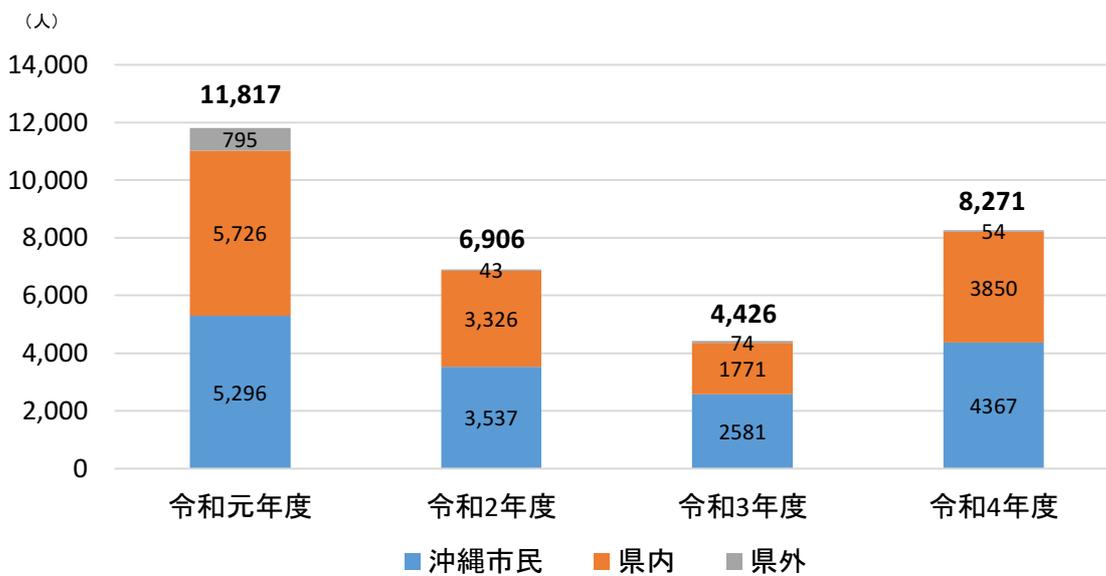
大型イベント・スポーツキャンプ等を対象としたデータ分析より

②合宿利用施設・大会利用施設における滞在者数の年度比較（令和元年度～令和4年度）

○合宿利用施設として利用されるコザ運動公園（陸上競技場）の直近4年分の12月から翌2月末までの滞在者数の推移を以下に示す。

○令和4年度について、令和2年度、令和3年度と比較して滞在者数が増加している。

○また、令和元年度と比較すると滞在者数は少なく、県外からの来訪者数もコロナ禍前の水準には至っていない。

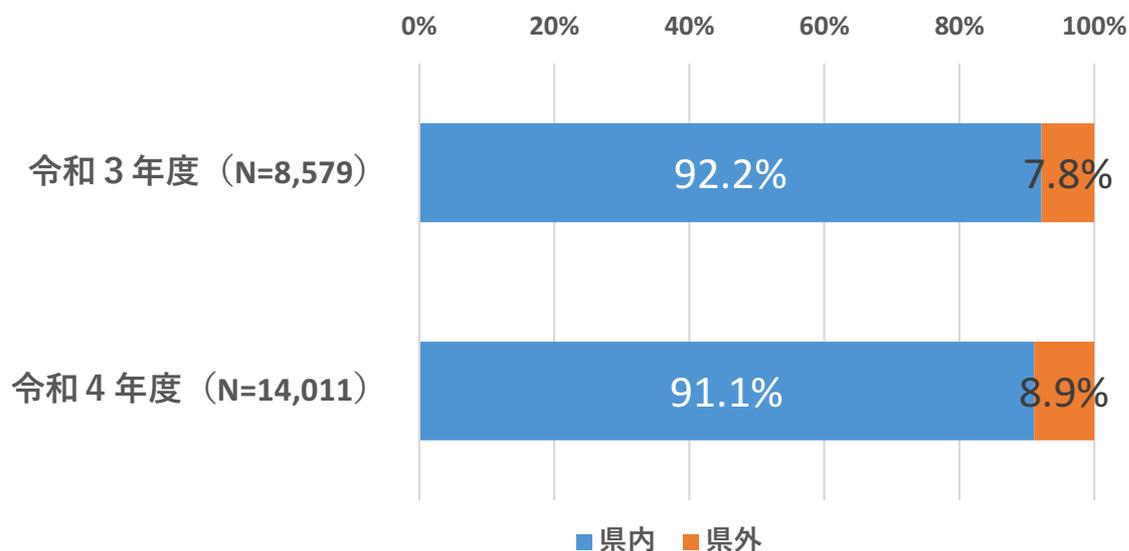


【コザ運動公園（陸上競技場）における滞在者数の推移（直近4カ年）】

大型イベント・スポーツキャンプ等を対象としたデータ分析より

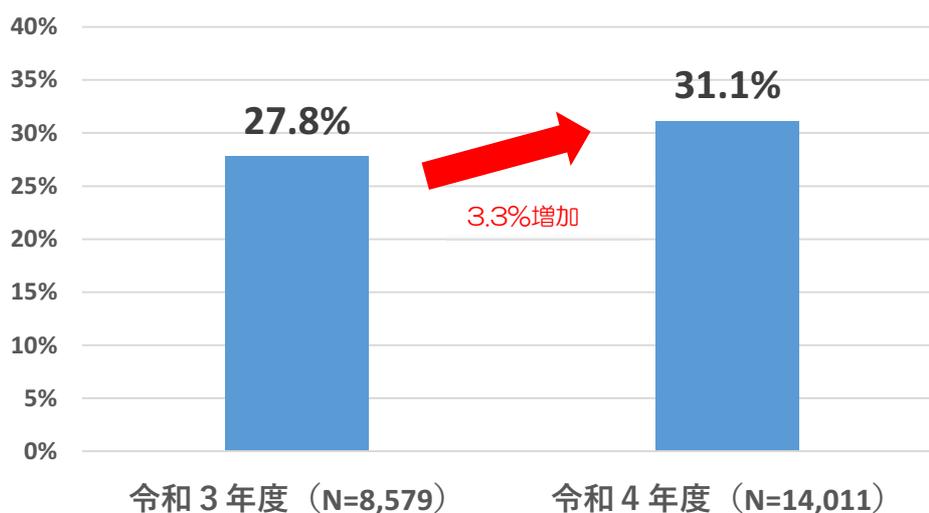
③FC 琉球の試合観戦者の居住地・周遊割合（令和3年度、令和4年度）

○FC 琉球の試合観戦者の居住地内訳は、令和3年度、令和4年度ともに県内が90%以上を占めている。
 ○令和3年度と比較して、令和4年度は県外客の割合が1.1%増加している。



【試合観戦者の居住地の内訳】

○全21試合を通じての試合観戦者のうち、31.1%が観戦前後に泡瀬へ15分以上の周遊を行っており、昨年度と比較して3.3%周遊の割合が増加している。



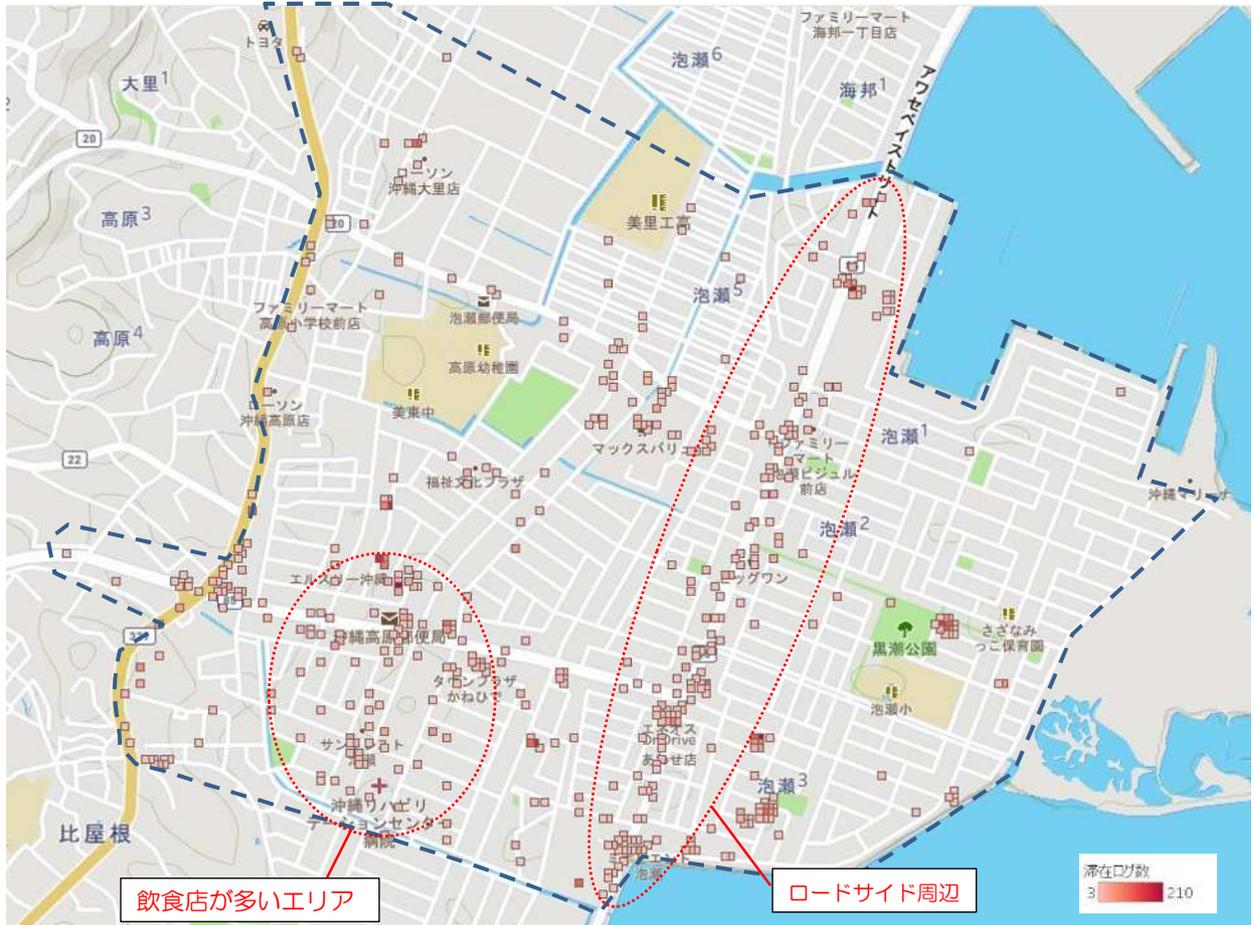
【泡瀬への周遊状況】

大型イベント・スポーツキャンプ等を対象としたデータ分析より

④タピック県総ひやごんスタジアム来訪者の泡瀬への滞留状況（令和4年度）

○令和4年度では、ロードサイド周辺の店舗や飲食店が密集しているエリアに滞留している傾向にある。

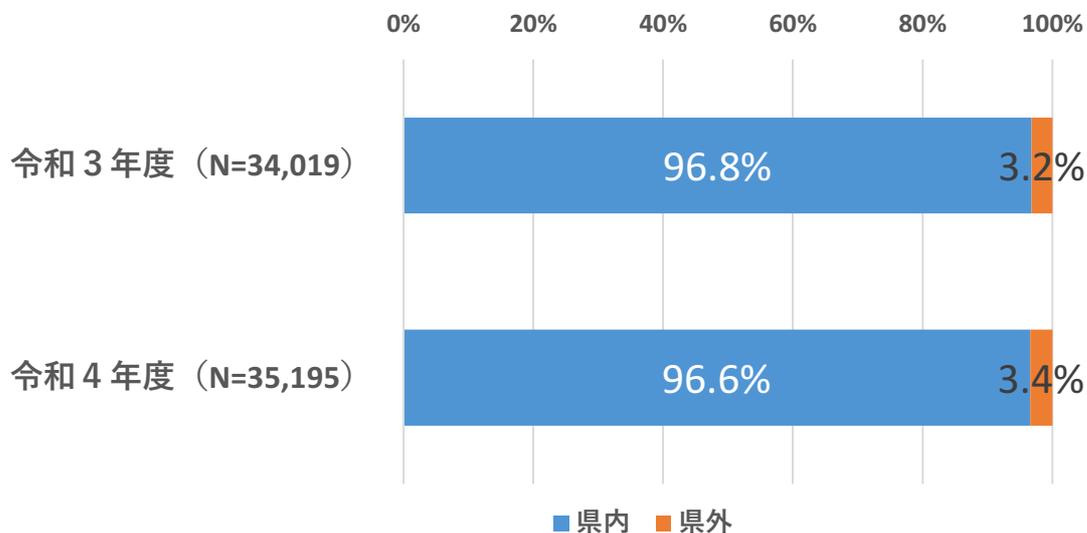
■令和4年度（17試合）



携帯 GPS 調査より

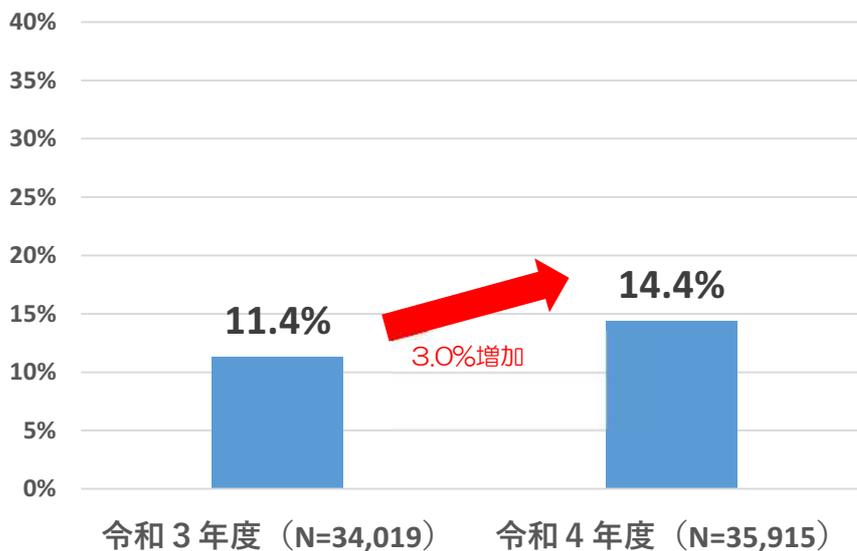
⑤琉球ゴールデンキングスの試合観戦者の居住地・周遊割合（令和3年度、令和4年度）

○試合観戦者の居住地内訳は、令和3年度、令和4年度ともに県内が95%以上を占めている。



【試合観戦者の居住地の内訳】

○全 20 試合を通じての試合観戦者のうち、14.4%が観戦前後に一番街・中の町へ 15 分以上の周遊を行っており、昨年度と比較して周遊の割合が 3.0%増加している。



【一番街・中の町への周遊状況】

大型イベント・スポーツキャンプ等を対象としたデータ分析より

⑥沖縄アリーナ来訪者の試合観戦者の一番街・中の町への滞留状況（令和4年度）

○令和4年度では、パークアベニュー、一番街、ゲート通り、グラウンド通り、国道330号沿いの店舗への滞留が多く、特にミュージックタウン、グラウンド通り周辺に密集している傾向にある。

■令和4年度（14試合）



携帯 GPS 調査より

5-2. 各施策の効果の検証

沖縄市でこれまで取り組んできた施策について、関連調査結果から効果を検証し、改善方策等について検討を行った。各施策と関連調査結果の関係性は以下の通りである。

各施策	調査項目	観光実態調査				観光客満足度・消費動向調査	
		①観光統計調査の整理	②令和3年度を対象としたデータ分析	③令和4年度を対象としたデータ分析	④沖縄アリーナ、タピック県総ひやごんスタジアム来訪者の周遊状況の詳細データ分析	⑤大型イベント・スポーツキャンプ等を対象としたデータ分析	①来訪者へのアンケート調査
A. メディアプロモーション / 動画プロモーション		●					● ●
B. 観光情報発信の拡充			●	●			● ●
C. スポーツ合宿・キャンプによる誘客拡大及び交流の促進					●	●	●
D. 中心市街地における賑わい創出（スポーツ・まち歩き・飲み歩きイベント）			●	●	●	●	●
E. 2次交通の強化							● ●

なお、検討した施策は、「A. メディアプロモーション/動画プロモーション」、「B. 観光情報発信の拡充」、「C. スポーツ合宿・キャンプによる誘客拡大及び交流の促進」、「D. 中心市街地における賑わい創出（スポーツ・まち歩き・飲み歩きイベント）」「E. 2次交通の強化」を対象とした。

A. メディアプロモーション/動画プロモーションについて

1) 関連調査結果からの施策の効果検証
◆コロナ禍で宿泊者数の減少傾向が続いていたが、令和4年度では「おきなわ彩発見」の影響もあり昨年度よりも増加した。特に、グランメールリゾート、東南植物楽園、沖縄アリーナの施設で県外割合が昨年度よりも増加しており、コロナ禍前（令和元年度）と同様の傾向に戻ってきている。
◆また、来訪のきっかけとなった情報源・媒体として、県内外ともに SNS、友人からの勧めが増加している。また、観光ポータルサイト「KOZAWEB」を情報源とする来訪者は、令和4年度では全体の1割も満たないが、令和3年度より約2~4倍増加しており、一定の効果があったと考えられる。
◆同行者の属性では、コロナ禍前（令和元年度）と比較すると、「家族・親戚」、「パートナー・夫婦」が増加し、同行人数も増加している。
◆来訪回数では、コロナ禍前（令和元年度）と比較すると、令和2年度以降では3回目以上の人が増加している。

2) 今後の改善方策

- ◆「おきなわ彩発見」などの旅行支援の影響で、県外客の来訪状況はコロナ禍前に戻りつつあり、今後も引き続き県外客に向けたプロモーションを推進していく必要がある。
- ◆令和元年度と比較して来訪回数では 3 回目以上が増加しているなど、コロナ禍前と来訪者の属性も変化しているため、沖縄県の観光統計調査結果も踏まえつつ、沖縄市としてターゲットを絞ったプロモーションを検討していく必要がある。
- ◆また、「KOZAWEB」は、昨年度からの利用者が増加しており一定の効果があったことが考えられるため、継続的に拡充を検討していくことが必要である。

B. 観光情報発信の拡充について

1) 関連調査結果からの施策の効果検証

- ◆滞在日数は 1 泊の観光客が増加し、2 泊以上の観光客が減少している。
- ◆来訪回数では、コロナ禍前（令和元年度）と比較すると、3 回目以上の人が増加している。
- ◆来訪者アンケート調査において、県外客の情報取得はインターネットが主であるが、紙媒体の「ガイドブック」が 16.9% 利用されていることを確認した。一方、県内客は「ガイドブック」の割合は 6.0% と県外客よりも低い傾向にある。
- ◆各エリアにおける周遊分析では、「中の町周辺⇔一番街周辺」などの結びつきが強く、沖縄市外では「イオンモール沖縄ライカム」、「アメリカンビレッジ」と各観光地での結びつきが強い。
- ◆また、来訪者アンケート調査において、沖縄市に訪れる前後は、県内客は「イオンモール沖縄ライカム」、県外客は「国際通り・栄町周辺」の来訪者が多い。

2) 今後の改善方策

- ◆宿泊者の延泊及びさらなる市内周遊を図るため、観光情報の発信の拡充及び各観光施設と連携した取組みが重要である。
- ◆コロナ禍前（令和元年度）と比較して 3 回目以上の来訪者が増加していることから、メジャーな情報だけでなく、よりディープな内容を盛り込んだ情報誌や SNS などの情報発信が重要である。
- ◆また、友人・知人の勧めの割合が高いことや SNS やインターネットといったデジタル媒体が高いことからハッシュタグ等を利用した 2 次発信による情報拡散も踏まえて情報発信手段を検討していくことが重要である。

C. スポーツ合宿・キャンプによる誘客拡大及び交流の促進について

1) 関連調査結果からの施策の効果検証
<p>◆スポーツキャンプにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響によりコロナ禍前より大幅に減少しているが、令和2年度、令和3年度と比較すると増加しており、観戦の制限が緩和された影響だと考えられる。</p> <p>◆一方で、スポーツ合宿誘致では、滞在人数は昨年度より増加しており、沖縄市民の割合はコロナ禍前（令和元年度）の水準まで戻っている。</p>
2) 今後の改善方策
<p>◆スポーツキャンプによる来訪について、令和4年度では、観戦に係る制限が緩和したことにより令和3年度より回復傾向にあるが、コロナ禍前（令和元年度）の水準には至っていない状況である。引き続き、コロナ禍における観客の受入方法を関係者間で協議し、ファン等に対しての情報発信をしていくことが重要である。</p> <p>◆スポーツ合宿誘致においては、県内客の誘致を継続して進めていくことに加えて、より多くの消費活動を行うと考えられる県外客を誘致していくことも重要であるため、各団体との継続的な関係性構築が必要である。</p>

D. 中心市街地における賑わい創出（スポーツ・まち歩き・飲み歩きイベントなど）について

1) 関連調査結果からの施策の効果検証
<p>◆携帯GPS調査の結果から、琉球ゴールデンキングスの観戦者のうち中の町・一番街に周遊した割合が、令和3年度と比較して11.4%から14.4%と増加していることが分かる。また、グラウンド通りや国道330号などの飲食店への滞在が多く、中の町・一番街のつながりが強い状況であり、中心市街地での商店街等の取組の効果が出ていると考えられる。</p> <p>◆スポーツイベント時等のアンケート調査から、琉球ゴールデンキングスの試合（VS東京）観戦「前」「後」の行動について、宿泊・飲食・買物・観光・娯楽を市内の中心市街地で行った割合は、観戦前は47.2%、観戦後は39.7%となっており、観戦前の来訪が多い。</p> <p>◆観戦前後に沖縄市中心部に立ち寄らない理由として、昨年度に引き続き、上位に、「観戦で十分満足」、「もともと予定がなかった」、「時間が無い」などがあげられている。</p> <p>◆試合前後の立ち寄り場所として、「応援しているスポーツチームのアンテナショップ」や「アーティスト・選手との交流会」「スポーツ観戦ができる飲食店」があれば立ち寄りたいとの回答が多い。</p>
2) 今後の改善方策
<p>◆中の町・一番街のつながりは強いため、消費拡大につなげるため、商店街等のイベントを継続して実施していくことが必要である。</p> <p>◆中心市街地に立ち寄ってもらうためには、観戦前の時間帯で「アーティスト・選手との交流会」など観光客が望む定期的なイベントを推進していくことが効果的と考えられる。</p> <p>◆また、商店街連合会などの関係者と連携し、中心市街地内にアンテナショップやスポーツ観戦ができる飲食店を増やしていくことが必要である。</p>

E.2 次交通の強化について

1) 関連調査結果からの施策の効果検証
<p>◆スポーツイベント時等のアンケート調査において、試合会場までの来訪者の交通手段について「自家用車」が多くを占めている。また、来訪者アンケートについても、県外では「レンタカー」、県内では「自家用車」と自動車によるアクセスが多い。</p> <p>◆また、スポーツイベント時のアンケート調査では、「駐車場不足」により中心市街地に立ち寄らない人も多い。</p>
2) 今後の改善方策
<p>◆イベント時における駐車場の拡充を検討するとともに、市内循環バスの活用など公共交通で来訪できるルート等の情報発信を行うことが重要である。</p> <p>◆また、周遊促進のため、施設と中心市街地等の拠点を結ぶマイクロモビリティの導入などを検討していくことが必要である。</p>

第6章 今後の方向性

本業務では、多様化する観光ニーズに対応し、より効果的な観光振興による地域活性化を目的として、各種調査を実施するとともに、マーケティング分析や地域関係者との勉強会を実施してきた。

以下では、本業務において実施した各種調査及び取組の今後の方向性について示す。

①観光統計調査の整理

1) 実施結果の概要

国・県・市の観光統計について整理・分析を行った。また、宿泊実績については、令和4年12月までの結果をとりまとめることで、コロナ禍の影響が収束しつつあり、活動制限が緩和された時期の宿泊状況や観光動向を把握した。

2) 今後の方向性

国・県・市の動向把握を行う上で、今後もアフターコロナに向けて継続的に基礎的な観光統計の整理・分析を行うことが必要である。

宿泊実績については、本事業にて取得をはじめて4年目となった。市内観光の状況を適切に把握するために重要な基礎資料となるため、観光協会を調査主体として、今後も市内関係者の協力のもと継続的に取得することが重要である。また、宿泊施設の負担を減らすための簡易化につながる改善等も適宜検討する必要がある。

②データ分析（携帯 GPS 調査）

1) 実施結果の概要

令和3年度および令和4年度について携帯 GPS データによる市内観光動向の分析を行った。一昨年度より実施してきた沖縄市と周遊関係の高い北谷アメリカンビレッジ及び沖縄イオンモールライカムを加えて分析を行った。また、沖縄アリーナやタピック県総ひやごんスタジアムからコザ商店街・一番街や泡瀬への周遊状況について人流データを用いて来訪者の立ち寄り場所の分析を行った。

2) 今後の方向性

新型コロナウイルス感染症の影響下における情勢変化が続くなかで、市内を取り巻く観光動向の変化およびプロモーション等の施策の効果検証を行う上で、携帯 GPS データを用いた分析は有効であり、今後も継続的にデータを取得・蓄積するとともに、分析を行っていくことが重要である。

また、よりきめ細やかに観光動態を分析し施策に反映していく上で、エリア内の来訪状況やエリア間の周遊といったマクロ的な分析に加えて、来訪者の滞留場所といったミクロな視点での分析についても有効だった。そのため、今後も引き続き来訪者の滞留時間別の立ち寄り場所の特徴を把握するなど来訪者の観光動態をミクロな視点で検討していく必要がある。

③大型イベント・スポーツキャンプ等を対象としたデータ分析

1) 実施結果の概要

令和4年度の大型イベントやスポーツキャンプ等の観光動向について、KDDI ロケーションアナライザーを用いて、動態把握・分析を実施した。プロ野球キャンプ、スポーツ合宿、プロサッカー観戦、プロバスケットボール観戦、その他イベントのグループごとに、各グループ会場となるエリアの滞在者数・属性の分析を行うとともに周辺エリアへの周遊状況を確認した。今年度は、コロナ禍の影響が収束しつつある時期であったため、コロナ禍以前（令和元年度）や令和3年度と比較し、動向を把握した。

2) 今後の方向性

スポーツコンベンション、スポーツツーリズムの観光振興への効果を適切に把握し、さらなる施策や取組に繋げていくことが重要であり、その上では今後も継続的にデータを取得し分析をしていくことが求められる。特に、令和5年度はFIBAバスケットボールワールドカップの開催で国内外来訪客が多く来訪されるため、今後のスポーツツーリズムを推進していくためにも、観光動態を把握していく必要がある。

④アンケート調査

1) 実施結果の概要

一昨年度より引き続き、宿泊施設や観光施設を対象とした調査を実施し、WEBアンケートシステムにより観光客の満足度、ニーズ、消費行動等を取得・分析した。データも蓄積してきたことで、コロナ禍前後での比較などより多様な意見を収集・分析することが可能となった。

また、昨年度に引き続き、沖縄アリーナやタピック県総ひやごんスタジアムでの試合、イベント開催時等に、来訪客に対し満足度やニーズ、観光動向（観戦前後に市内を周遊したかどうか等）、消費金額等を把握することを目的としたアンケート調査を実施した。特に、本年度では、沖縄アリーナの琉球ゴールデンキングスの試合を4試合分調査したことで、対戦相手別の傾向を把握することができた。

2) 今後の方向性

継続実施により沖縄市来訪者の実態把握が可能であるため、沖縄市観光物産振興協会を中心に継続的な実施が重要である。また、本調査については市内宿泊施設及び観光施設、プロスポーツ団体、施設運営者等の協力が必要不可欠であるため、定期的な調査結果の共有やデータの展開など事業者がデータを活用しやすくなるようなプラットフォームを構築することが重要である。

⑤調査結果の利活用に向けた成果報告および事業検討会等の開催

1) 実施結果の概要

令和4年度の各種調査結果を踏まえて、市内関係者を対象とした計3回の勉強会を開催した。本年度においては第2回の勉強会にて、「一般社団法人さいたまスポーツコミッション」を招へいし、スポーツツーリズムの事例の紹介を行った。また、一昨年度から引き続き、沖縄アリーナ(琉球ゴールデンキングス)チームとタピック県総ひやごんスタジアム(FC琉球)チームに分かれて、データを活用しながら取組を議論してきた。

2) 今後の方向性

本勉強会は、3年目の取組になったが、データに基づく課題認識の共有や取組の検討、地域関係者間の連携促進等に寄与することが認められるとともに、官民一体となった観光振興を進める上で非常に重要な場となっている。また、スポーツをテーマとして議論を進めていく中で、取組の実行、振り返りなどを継続的に行うことで、ある一定程度の効果はあると館がられるため、観光統計調査のアウトプットの場として継続的に実施していくことが必要である。

⑥マーケティング分析

1) 実施結果の概要

沖縄市観光のマーケティング分析を実施するため、上記①から⑤の調査結果等を踏まえ、沖縄市における観光施策の効果検証等を実施した。

2) 今後の方向性

コロナ禍の影響も徐々に収束しつつあり、アフターコロナに向けての具体的な取組が重要となる。各種調査の実施により状況把握に努めるとともに、取組状況の確認や対応方針の検討について市内関係者と継続的に実施していく必要がある。その上では、本分析の結果を踏まえ効果のあった施策については継続実施するとともに、課題のある施策については改善を図っていくことが重要である。

観光統計調査業務
報告書

令和5年3月
沖縄市

【受託事業者】 オリエンタルコンサルタンツ・沖縄市観光物産振興協会共同企業体

